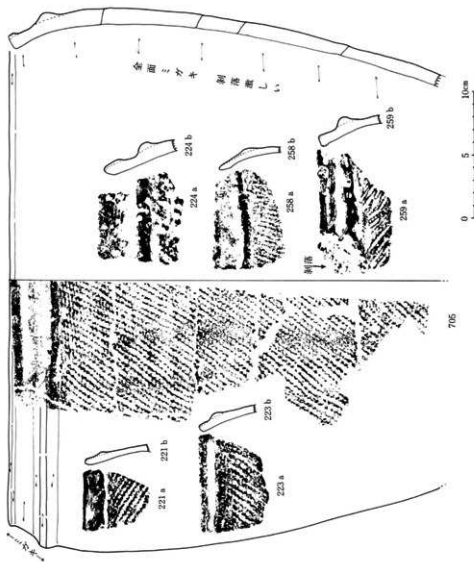
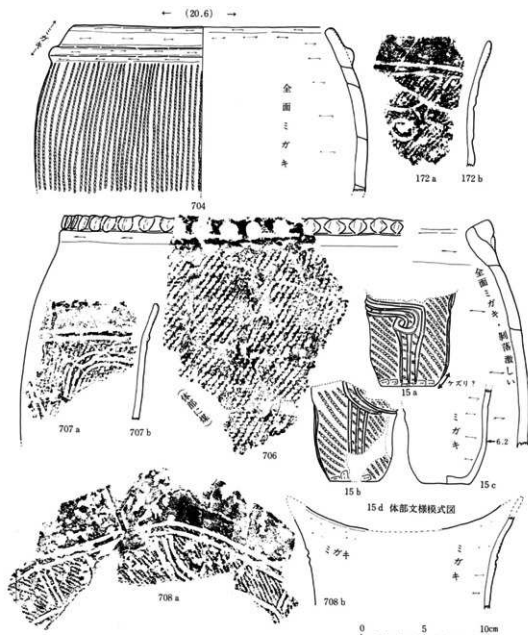


No.	地点	層位	種類	寸法	西			東			出土	備考
					色調	口	底	口	底	口		
527	D411	Ⅲ	深鉢 (横一翼) 頸部?	1 × 1.2	13Y R 5/7 浅黄橙	1.5 × 1.5 人形	ナツツ	13Y R 5/6 7.5Y R 5/6 浅黄橙 黄褐色?	平縁, 内縁	横文 マツツ, 上半縁位 下半縁位	ナツツ	古石 良好
527	D411	Ⅲ	*	1.1 × 0.7	13Y R 5/6 浅黄橙	*	—	13Y R 5/6 浅黄橙	平縁, 内縁	横文のみ 下半縁位	—	良好 平縁
527	*	*	*	1.1 × 1.1	13Y R 5/6 浅黄橙	*	—	同左	*	横文のみ 下半縁位	—	* * *
527	D411	Ⅲ	*	1.1 × 0.7	13Y R 5/6 浅黄橙	*	—	13Y R 5/6 浅黄橙	*	横文のみ 下半縁位	—	* * *
527	D411	Ⅲ	*	1.4 × 0.7	10Y R 5/6 浅黄橙	1.5 × 1.5 人形	ナツツ	同左	*	横文のみ 下半縁位	—	良好 平縁
527	D411	Ⅲ	*	1.4 × 0.7	13Y R 5/6 浅黄橙	1.5 × 1.5 人形	ナツツ	13Y R 5/6 浅黄橙 上面のAGY R 5/6 浅黄橙	平縁, 1.5 × 1.5	横文のみ 下半縁位	ナツツ	良好 平縁



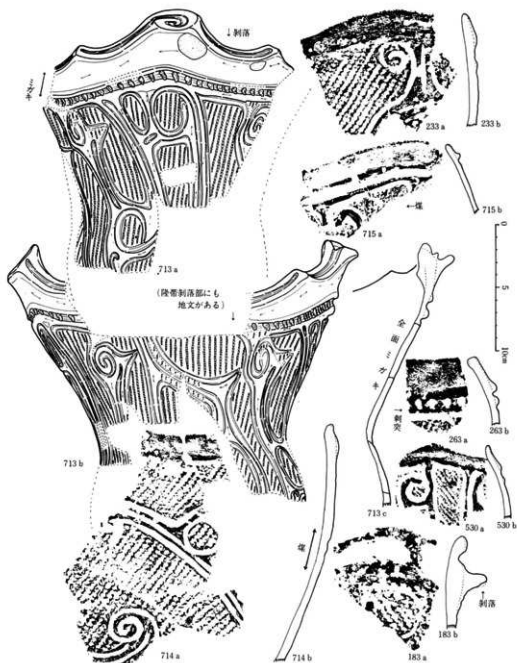
第94図 Dプロック(北半部)出土土器拓影図(7) (III層中・下部出土)

No.	地点	層位	種類	分類	内面				外面				粘土	備考
					色調		形状		色調		形状			
					口縁	口縁	体	底	口縁	口縁	体上	体下		
22	D d = 18	III	深鉢 (縦・口)	II a ⊕	10Y R 7/6 粗肌	1ガキ、フラーフ	—	同左	平縁、折返し縁	—	地文のみ	—	粗砂	良好
23	D d = 18	III	“	“	5Y R 7/6 粗肌	1ガキ、フラーフ	—	同左	平縁、隆帯	—	地文のみ R L < []	—	“	不良
24	“	“	“	“	1.5Y R 7/6 浅肌理	剥落	—	同左	平縁、隆帯	—	地文のみ R L < []	—	“	“
28	D h = 15	III	“	II a ⊕	10Y R 7/6 肌理	“	—	同左	平縁、1ガキ	—	地文のみ R L < []	—	小石	“
29	D h = 15	III	“	“	1.5Y R 7/6 浅肌理	“	—	同左	“	—	地文のみ R L < []	—	“	良好
26	D d = 15	“	“	II a ⊕	1.5Y R 7/6 浅肌理	“	—	同左	“	—	地文のみ R L R < []	—	粗砂	“



第95図 Dブロック(北半部)出土土器実測図・拓影図(8) (田層中・下部出土)

No	地点	層位	種類	分類	西			南			出土	備考		
					色	調	文	色	調	文				
15	D・a・12	田	片断	黒×白	10Y R/5弱黄褐色 粘土10Y R/5弱黄褐色	全周ミガキ 縦横刻筋	—	10Y R/5弱黄褐色 粘土10Y R/5弱黄褐色	—	—	—	横	良好	
17	D・b・09	田	片断	黒×白	15Y R/5弱黄褐色	ミガキ	—	15Y R/5弱黄褐色	縦横刻筋 ミガキ	—	—	—	横 多 横筋	不良
18	D・a・12	田	片断	黒×白 (縦・横)	5Y R/5弱黄褐色	—	—	同左	平縁、内縁 ミガキ	—	—	—	横	良好
19	—	—	片断	黒×白	15Y R/5弱黄褐色	ミガキ刻筋	—	15Y R/5弱黄褐色	—	—	—	—	—	不良
20	D・b・12	田	片断	黒×白 (横・縦)	5Y R/5弱黄褐色	ミガキ	—	同左	縦横刻筋、内縁 ミガキ	—	—	—	—	良好
21	D・a・15	田	片断	黒×白	15Y R/5弱黄褐色	—	—	同左	—	—	—	—	—	—



第98図 Dブロック(北半部)出土土器実測図・模式図(0) (Ⅲ層中・下部出土)

品名	数量	出土層	出土位置	出土状況	出土時期	出土者	出土場所	出土年月	出土者	出土場所	出土年月
713a	1	Ⅲ	中	下部	出土
713b	1	Ⅲ	中	下部	出土
714a	1	Ⅲ	中	下部	出土
714b	1	Ⅲ	中	下部	出土
233a	1	Ⅲ	中	下部	出土
233b	1	Ⅲ	中	下部	出土
715a	1	Ⅲ	中	下部	出土
715b	1	Ⅲ	中	下部	出土
263a	1	Ⅲ	中	下部	出土
263b	1	Ⅲ	中	下部	出土
713c	1	Ⅲ	中	下部	出土
530a	1	Ⅲ	中	下部	出土
530b	1	Ⅲ	中	下部	出土
183a	1	Ⅲ	中	下部	出土
183b	1	Ⅲ	中	下部	出土



第99図 Dブロック
(北半部) 出土土器
拓影図(2)
(III層中・下部出土)

図番	形状	出所	A		B		C		備考
			品名	寸法	品名	寸法	品名	寸法	
190a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	刺突
190b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	刺突
235a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
235b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
236a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
236b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
237a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
237b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
238a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
238b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
239a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
239b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
240a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
240b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
264a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
264b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
265a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
265b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
266a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
266b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
178a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	孔
178b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	孔
182a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
182b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
180a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
180b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
471a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
471b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
184a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
184b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
234a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	刺突
234b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	刺突
267a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
267b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
535a	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	
535b	片断	62	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	IVSNGK	1.9 x 1.7	



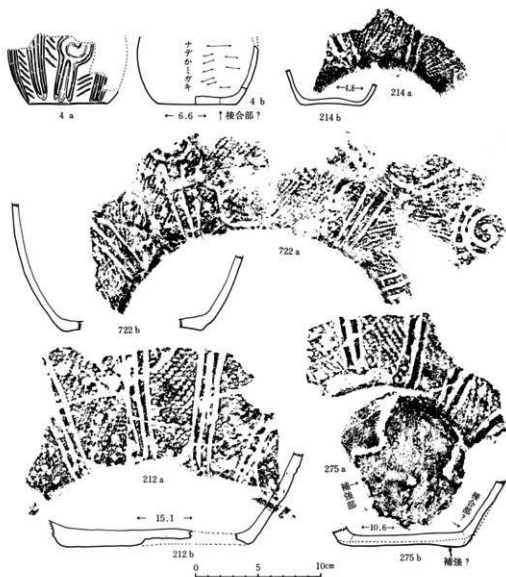
第100図 Dブロック(北北部)出土土器拓影図(田中・下部出土)

図番	形状	土質	出土層	出土位置	出土時期	出土状況	出土数量	出土場所	出土時期	出土状況	出土数量	出土場所
186 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
186 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
188 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
188 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
189 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
189 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
191 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
191 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
192 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
192 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
244 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
244 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
242 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
242 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
243 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
243 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
245 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
245 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
268 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
268 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
271 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
271 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
716 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
716 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部
269 a	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	表裏	1	北西部	前期	表裏	1	北西部
269 b	片断	赤土	Ⅱ	北西部	前期	裏面	1	北西部	前期	裏面	1	北西部



第102図 Dブロック(北半部)出土土器拓影図(Ⅲ層中・下部出土)

No.	品名	形状	寸法	土質		文様		出土地		備考
				色	質	文様	出土地	層	位置	
248 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	248 a	
248 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	248 b	
720 c	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	720 c	
165 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	165 a	
165 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	165 b	
720 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	720 a	
246 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	246 a	
246 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	246 b	
250 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	250 a	
250 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	250 b	
720 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	720 b	
16 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	16 a	
16 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	16 b	
247 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	247 a	
247 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	247 b	
205 a	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	205 a	
205 b	片断	片断	1.5 x 1.5	黄褐色	硬質	縦線	Ⅲ層中	北半部	205 b	



第104図 Dブロック(北半部)出土土器実測図・拓影図(Ⅶ) (Ⅲ層中・下部出土)

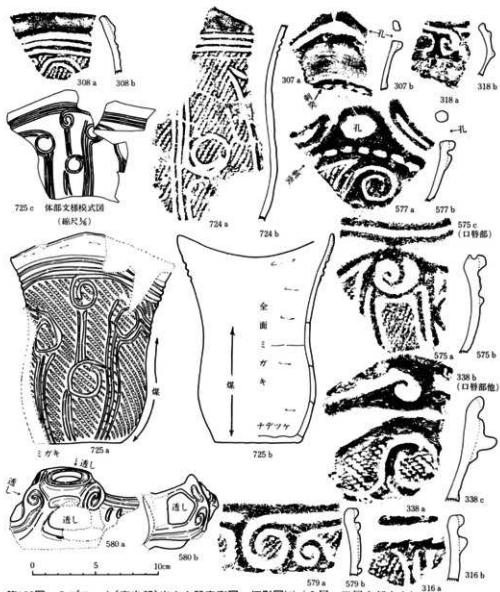
No.	地点	層位	種類	形状	西					南					出土状況		
					色	質	口	縁	底	色	質	口	縁	底			
4	D x 05	Ⅲ	唐 鉢 (模 - 藍) 小 型	21Y 5/6 黄	—	—	—	—	—	21Y 5/6 黄	—	—	—	—	—	—	—
				底面一部(21Y 5/6)と埋込面 敷土(21Y 5/6)	—	—	—	—	—	21Y 5/6 黄	—	—	—	—	—	—	埋込面? (埋込面縁) 下から 底
10	D x 12	Ⅲ	*	◎ 21Y 5/6 浅鉢	—	—	—	—	—	21Y 5/6 浅鉢	—	—	—	—	—	—	21Y 5/6 浅鉢
				(模 - 藍 - 黄) 敷面? S Y 5/6 埋込面	—	—	—	—	—	同 左	—	—	—	—	—	—	埋込面(模 - 藍) 埋込面縁
19	D x 12	Ⅲ(Ⅰ)	唐 鉢 (模 - 藍 - 黄)	◎ 21Y 5/6 浅鉢	—	—	—	—	—	同 左	—	—	—	—	—	—	埋込面(模 - 藍) 埋込面縁
				(模 - 藍 - 黄) ◎ 21Y 5/6 浅鉢	—	—	—	—	—	同 左	—	—	—	—	—	—	埋込面(模 - 藍) 埋込面縁
25	D x 15	Ⅲ	*	◎ 21Y 5/6 浅鉢	—	—	—	—	—	同 左	—	—	—	—	—	—	埋込面(模 - 藍) 埋込面縁
				(模 - 藍 - 黄) ◎ 21Y 5/6 浅鉢	—	—	—	—	—	同 左	—	—	—	—	—	—	埋込面(模 - 藍) 埋込面縁
22	D x 15	Ⅲ	*	S Y 5/6 埋込面	—	—	—	—	—	21Y 5/6 埋込面	—	—	—	—	—	—	* * *
				(*)	—	—	—	—	—	21Y 5/6 埋込面	—	—	—	—	—	—	埋込面 L.R.C: I



第105図 Dブロック(北半部)出土土器実測図・拓影図(Ⅲ層中・下部出土)

No.	品名	形状	材質	特徴	出所	図	備考	No.	品名	形状	材質	特徴	出所	図	備考
19	19a	鉢	土器	ミガキ	Ⅲ層中	19a		216	216	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	216	
19	19b	鉢	土器	剥落	Ⅲ層中	19b		448a	448a	片	土器	孔	Ⅲ層中	448a	
19	19c	鉢	土器	ミガキ	Ⅲ層中	19c		448b	448b	片	土器	孔	Ⅲ層中	448b	
19	19d	体部文様	土器	十字かミガキ	Ⅲ層中	19d		539a	539a	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	539a	
449	449a	片	土器	赤色塗彩?	Ⅲ層中	449a		539b	539b	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	539b	
449	449b	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	449b		539c	539c	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	539c	
28	28	片	土器	ミガキ?	Ⅲ層中	28		723a	723a	片	土器	孔	Ⅲ層中	723a	
448	448a	片	土器	孔	Ⅲ層中	448a		723b	723b	片	土器	孔	Ⅲ層中	723b	
448	448b	片	土器	孔	Ⅲ層中	448b									
539	539a	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	539a									
539	539b	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	539b									
539	539c	片	土器	ミガキ	Ⅲ層中	539c									
7	7a	鉢	土器	ミガキ	Ⅲ層中	7a									
7	7b	鉢	土器	ミガキ	Ⅲ層中	7b									
7	7c	鉢	土器	ミガキ	Ⅲ層中	7c									
723	723a	片	土器	孔	Ⅲ層中	723a									
723	723b	片	土器	孔	Ⅲ層中	723b									

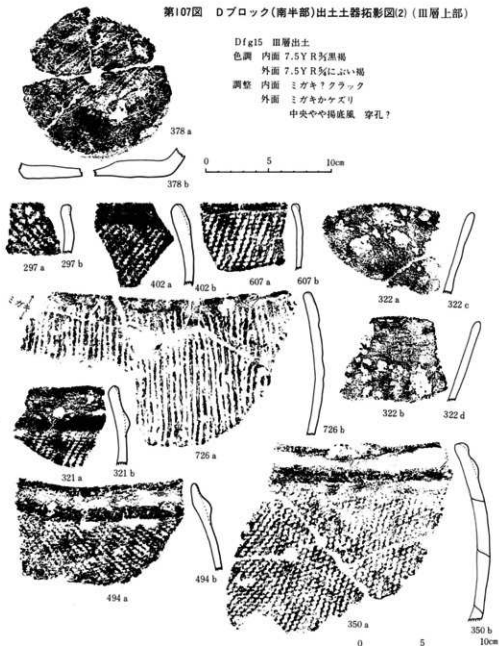
Dブロック南半部(とりわけD f 09・12周辺の各グリッド)に既述の遺物(完全品・復元可能土器類)の集中現象が顕著である。調査時には堅穴住居跡の存在を想定したが、それを確認できなかった。したがって既にのべた可能性のあることを再述するに留めざるをえない。なお相互に近接した位置関係にあった土器群は、Ⅲ群・Ⅳ群などが目立った。なお、完全品出土という現象が特に顕著なD f 09住居跡の存在と、遺物包含層がかなり近接している点も、今後の検討課題として残ろう。



第106図 Dブロック(南半部)出土土器実測図・拓影図(1) (I層・III層上部出土)

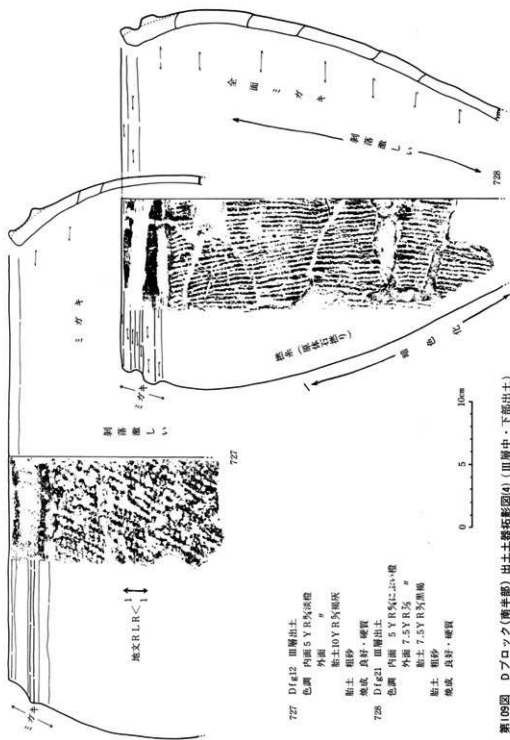
No.	層	種別	形状	土質		土層		出土位置		出土状況	備考
				色	質	層	部	高さ	深さ		
306	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
307	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
318	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
577	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
575	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
724	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
725	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
580	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
579	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
338	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	
316	I	片	口縁部	赤褐色	硬質	III層	上部	口縁部	口縁部	口縁部	

第107図 Dブロック(南半部)出土土器拓影図(2) (Ⅲ層上部)



第108図 Dブロック(南半部)出土土器拓影図(3) (Ⅲ層中・下部出土)

品名		出土地		調査年		調査者		調査機関		調査内容		調査結果		調査場所		調査時期		調査担当者		調査協力者		
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973
W	U743	W	U743	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973	1973



727 Dfg12 皿層出土

色調 内面 5 Y R 5% 深橙

外面

粘土 10 Y R 5% 粗灰

粘土 粗砂

焼成 良好・硬質

728 Dfg21 皿層出土

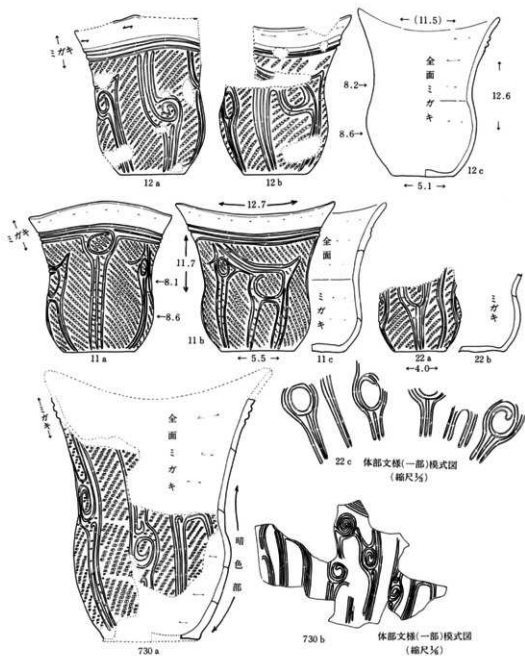
色調 内面 5 Y R 5% に 3.5% 橙

外面 7.5 Y R 5%

粘土 粗砂

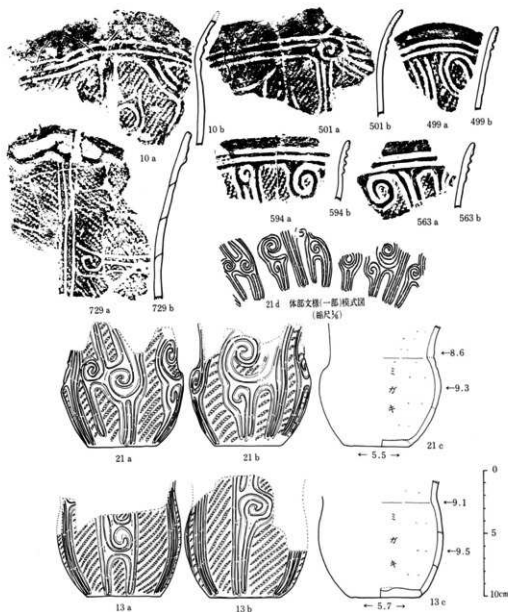
焼成 良好・硬質

第109図 Dブロック(南半部)出土器拓影図(4)(皿層中・下部出土)



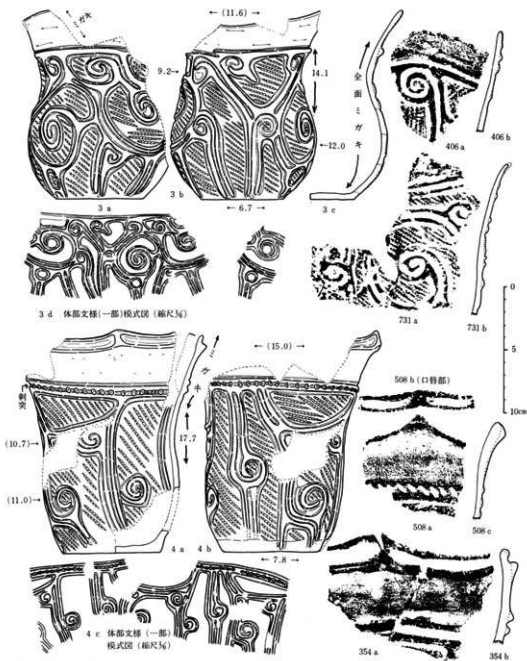
第110図 Dブロック(南半部)出土土器実測図(5) (Ⅲ層中・下部出土)

No.	出土層	形状	用途	寸法	文様		文様		文様		備考
					図	説明	図	説明	図	説明	
11	D 200	破片	土器	11.7	全面ミガキ	ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	破片
12	D 200	破片	土器	11.5	全面ミガキ	ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	破片
22	D 200	破片	土器	4.0	全面ミガキ	ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	破片
730	D 200	破片	土器	12.7	全面ミガキ	ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	全面ミガキ	破片



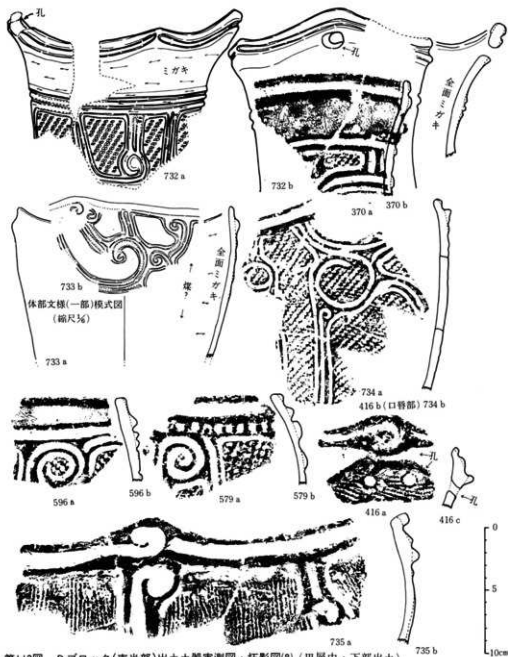
第III図 Dブロック(南半部)出土土器実測図・拓影図(6) (III層中・下部出土)

No.	品名	形状	寸法	出土地		出土層		出土時期		出土状況		備考
				層	部	層	部	層	部	層	部	
11	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
12	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
13	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
14	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
15	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
16	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
17	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
18	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
19	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層
20	片断	片断	φ10	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層	南半部	IV層



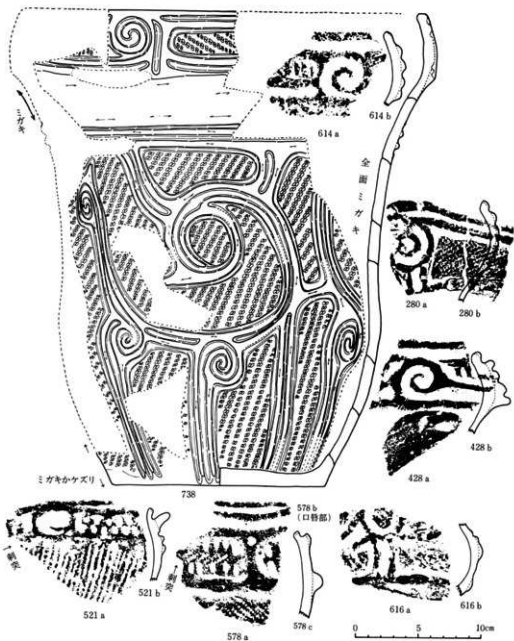
第112図 Dブロック(南半部)出土土器実測図・拓影図(7)(Ⅲ層中・下部出土)

No.	品名	形状	年代	調査地				調査者				備考	
				調査地	調査地	調査地	調査地	調査者	調査者	調査者	調査者		
1	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
2	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
3	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
4	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
5	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
6	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
7	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
8	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
9	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000
10	37700	片断	縄文	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000	1777950000



第113図 Dブロック(南半部)出土土器実測図・拓影図(8)(Ⅲ層中・下部出土)

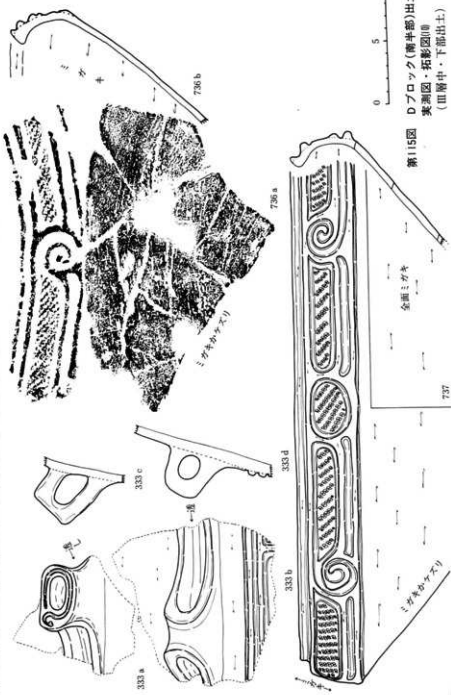
品名	数量	単位	材質	形状	用途	出土層	出土位置	出土時期	出土状況	出土状態	出土位置	出土時期	出土状況	出土状態	出土位置	出土時期	出土状況	出土状態
732 a	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	732 a	口縁部	口縁部	732 a	口縁部	口縁部	732 a	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
732 b	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	732 b	口縁部	口縁部	732 b	口縁部	口縁部	732 b	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
370 a	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	370 a	口縁部	口縁部	370 a	口縁部	口縁部	370 a	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
370 b	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	370 b	口縁部	口縁部	370 b	口縁部	口縁部	370 b	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
733 a	1	片	土	体部	土器	Ⅲ層中	南半部	733 a	体部	体部	733 a	体部	体部	733 a	体部	体部	体部	体部
733 b	1	片	土	体部	土器	Ⅲ層中	南半部	733 b	体部	体部	733 b	体部	体部	733 b	体部	体部	体部	体部
734 a	1	片	土	口唇部	土器	Ⅲ層中	南半部	734 a	口唇部	口唇部	734 a	口唇部	口唇部	734 a	口唇部	口唇部	口唇部	口唇部
734 b	1	片	土	口唇部	土器	Ⅲ層中	南半部	734 b	口唇部	口唇部	734 b	口唇部	口唇部	734 b	口唇部	口唇部	口唇部	口唇部
596 a	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	596 a	口縁部	口縁部	596 a	口縁部	口縁部	596 a	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
596 b	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	596 b	口縁部	口縁部	596 b	口縁部	口縁部	596 b	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
579 a	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	579 a	口縁部	口縁部	579 a	口縁部	口縁部	579 a	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
579 b	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	579 b	口縁部	口縁部	579 b	口縁部	口縁部	579 b	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
416 a	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	416 a	口縁部	口縁部	416 a	口縁部	口縁部	416 a	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
416 b	1	片	土	口唇部	土器	Ⅲ層中	南半部	416 b	口唇部	口唇部	416 b	口唇部	口唇部	416 b	口唇部	口唇部	口唇部	口唇部
416 c	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	416 c	口縁部	口縁部	416 c	口縁部	口縁部	416 c	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
735 a	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	735 a	口縁部	口縁部	735 a	口縁部	口縁部	735 a	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部
735 b	1	片	土	口縁部	土器	Ⅲ層中	南半部	735 b	口縁部	口縁部	735 b	口縁部	口縁部	735 b	口縁部	口縁部	口縁部	口縁部



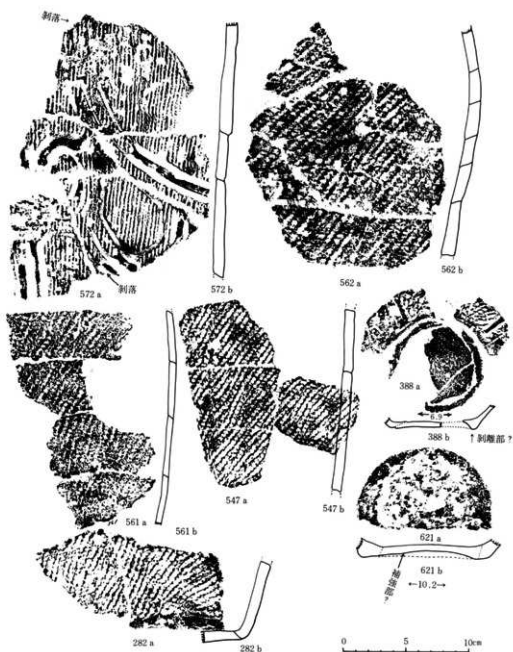
第114図 Dブロック(南半部)出土土器実測図・拓影図(9)(Ⅲ層中・下部出土)

品名	形状	土質	文様	出土層	出土位置	出土時期	出土状況	出土数量	出土場所	出土時期	出土状況	出土数量	出土場所	出土時期	出土状況	出土数量	出土場所
614 a	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
614 b	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
280 a	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
280 b	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
428 a	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
428 b	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
521 a	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
521 b	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
578 a	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
578 b	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
578 c	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
616 a	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部
616 b	片断	赤土	渦文	Ⅲ層中	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部	前期	出土	1	南半部

発 掘 地 点	層位	種別	内 容		用 意		備 考		土 地 地 域
			分類	色 澤	口 縁	口 部	口 縁	口 部	
32	D I 15	面 漆 鉢	黒・白 (黒・白)	5 Y R 5/10-5.5/10	口 縁 口 部 口 部	口 縁 口 部	口 縁 口 部	口 縁 口 部	黒 あり あり
33	D I 16	面 漆 鉢	黒・白 (黒・白)	5 Y R 5/10-5.5/10	口 縁 口 部 口 部	口 縁 口 部	口 縁 口 部	口 縁 口 部	黒 あり あり
34	D I 21	面(口) 漆 鉢 砂 漆 鉢	黒・白 (黒・白)	5 Y R 5/10-5.5/10	口 縁 口 部 口 部	口 縁 口 部	口 縁 口 部	口 縁 口 部	黒 あり あり

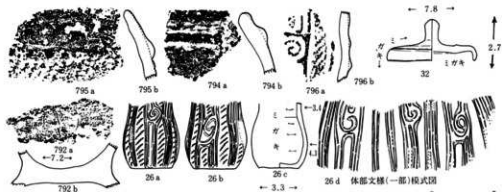


第115図
Dブロック(南半部)出土器
実測図・拓影図⑩
(Ⅲ層中・下部出土)



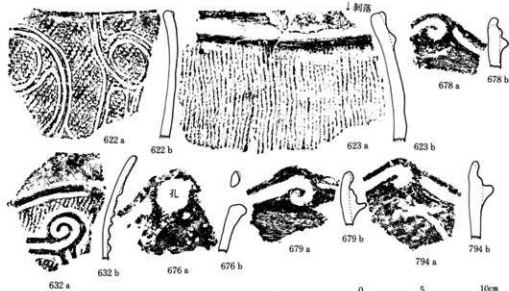
第116図 Dブロック(南半部)出土土器拓影図(Ⅱ) (Ⅲ層中・下部出土)

No.	片名	形状	用途	片の位置				片の位置				出土層	出土状況	
				位置	位置	位置	位置	位置	位置					
M 572 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 572 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 562 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 562 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 561 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 561 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 547 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 547 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 388 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 388 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 621 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 621 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 282 a	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片
M 282 b	破片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片	片



第118図 Eブロック(東半部)出土土器実測図・拓影図(I、III層上部・同中下部出土)

図	名	層位	種類	中略	西		東		色	層	西		東		出土	備考	
					色	層	色	層			色	層	色	層			
795 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
795 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
794 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
794 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
796 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
796 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
792 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
26 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
26 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
26 c	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
26 d	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒



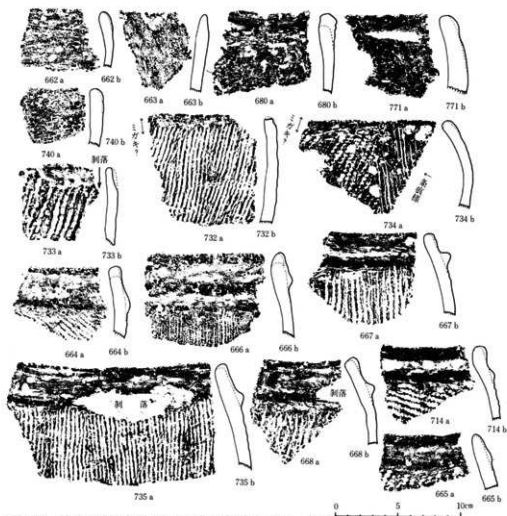
第119図 Eブロック(西半部)出土土器拓影図(I) (III層上部出土)

図	名	層位	種類	中略	西		東		色	層	西		東		出土	備考	
					色	層	色	層			色	層	色	層			
622 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
622 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
623 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
623 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
678 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
678 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
632 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
632 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
676 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
676 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
679 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
679 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
794 a	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒
794 b	片	III	土器	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒	IV	黒



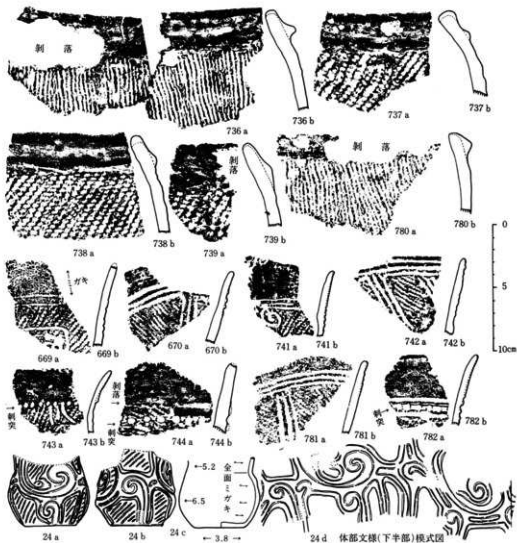
第120図 Eブロック(西西部)出土土器実測図・拓影図(2) (III層上部出土)

No.	形状	用途	年代	内				外				備考
				形状	文様	土質	備考	形状	文様	土質	備考	
638	口縁部	土器	638	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
642	口縁部	土器	642	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
640	口縁部	土器	640	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
647	口縁部	土器	647	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
693	口縁部	土器	693	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
703	口縁部	土器	703	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
701	口縁部	土器	701	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
705	口縁部	土器	705	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
660	口縁部	土器	660	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	
800	口縁部	土器	800	口縁部	文様	土質	備考	口縁部	文様	土質	備考	



第121図 Eブロック(西半部)出土土器拓影図(3) (III層中・下部出土)

No.	土器	形状	寸法	出 土 地 帯		出 土 層 位		出 土 年 代	備 考
				出 土 地 帯	出 土 層 位	出 土 年 代	備 考		
662	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
663	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
680	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
740	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
733	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
732	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
734	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
664	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
666	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
667	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
668	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
714	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
735	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層
665	土器	破片	10×12	IV層(西半部)	IV層	IV層	IV層	IV層	IV層



第122図 Eブロック(西半部)出土土器実測図・拓影図(4)(III層中・下部出土)

No.	出土層	形状	用途	寸法	実測図				拓影図				備考
					口径	底径	高さ	厚さ	口径	底径	高さ	厚さ	
736 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
736 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
737 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
737 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
738 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
738 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
739 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
739 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
780 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
780 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
669 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
669 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
670 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
670 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
741 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
741 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
742 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
742 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
743 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
743 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
744 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
744 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
781 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
781 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
782 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
782 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
24 a	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
24 b	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
24 c	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部
24 d	III	片断	土器片断	10.0	5.0	1.5	0.5	10.0	5.0	1.5	0.5	口縁部	口縁部



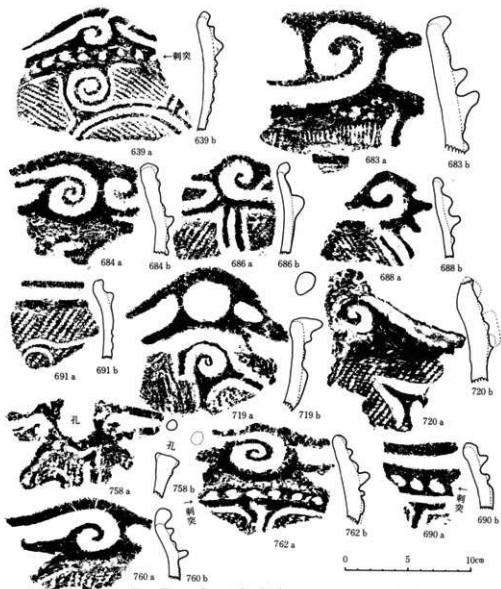
第123図 Eブロック(西半部)出土土器実測図・拓影図(5) (Ⅲ層中・下部出土)

No.	種別	形状	寸法	内面		外面		土質	備考
				色調	特徴	色調	特徴		
25	E.V.12	高脚杯	径: 14.6 高: 13.1	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	内面に 刻文あり
673	E.V.12	破片	径: 14.6 高: 13.1	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	内面に 刻文あり
674	E.V.12	破片	径: 14.6 高: 13.1	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	内面に 刻文あり
749	E.V.12	破片	径: 14.6 高: 13.1	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	内面に 刻文あり
783	E.V.12	破片	径: 14.6 高: 13.1	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	内面に 刻文あり
721	E.V.12	破片	径: 14.6 高: 13.1	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	黒褐色 S.V.9C(赤)	内面に 刻文あり



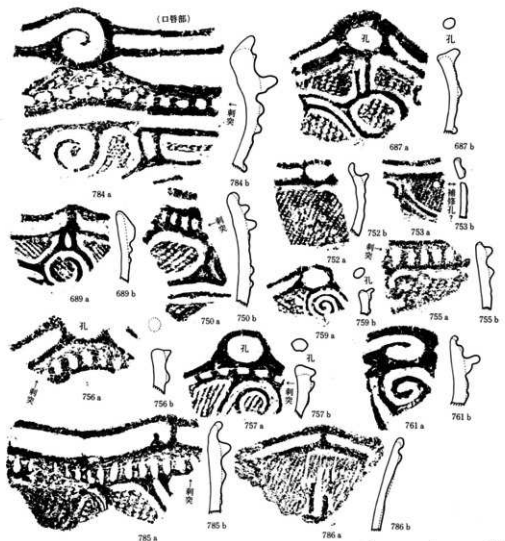
第124図 Eブロック(西半部)出土土器拓影図(6) (Ⅲ層中・下部出土)

No.	年代	形状	出所	西		東		南		出土状況
				名称	特徴	名称	特徴	名称	特徴	
671	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
672	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
681	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
717	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
745	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
746	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
747	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突
751	E+II	破片	東2	IV A層	1. 刺突	IV A層	刺突	IV A層	刺突	刺突



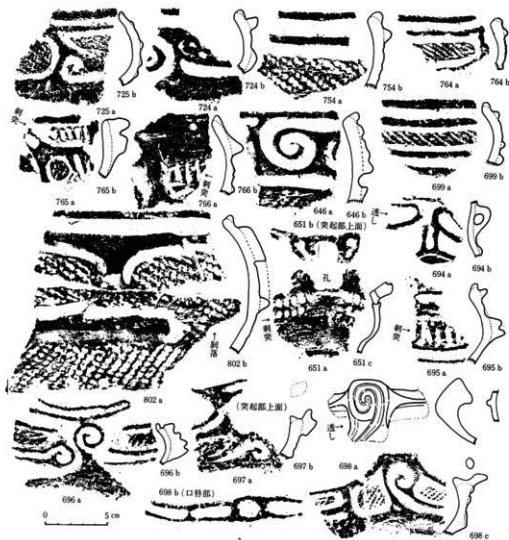
第125图 Eブロック(西半部)出土土器拓影图(7) (Ⅲ層中・下部出土)

編年	層位	出土	形状	色	土質		色	土質	土質		出土	形状
					色	土質			色	土質		
639	Ⅲ	+	+	639	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
639	Ⅲ	+	+	639	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
684	Ⅲ	+	+	684	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
684	Ⅲ	+	+	684	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
686	Ⅲ	+	+	686	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
686	Ⅲ	+	+	686	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
688	Ⅲ	+	+	688	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
688	Ⅲ	+	+	688	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
691	Ⅲ	+	+	691	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
691	Ⅲ	+	+	691	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
719	Ⅲ	+	+	719	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
719	Ⅲ	+	+	719	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
720	Ⅲ	+	+	720	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
720	Ⅲ	+	+	720	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
758	Ⅲ	+	+	758	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
758	Ⅲ	+	+	758	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
760	Ⅲ	+	+	760	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
760	Ⅲ	+	+	760	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
762	Ⅲ	+	+	762	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
762	Ⅲ	+	+	762	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
690	Ⅲ	+	+	690	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土
690	Ⅲ	+	+	690	IV-V層(西)	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土	赤土



第126図 Eブロック(西半部)出土土器拓影図(8) (III層中・下部出土)

図番	形状	断面	土質	口部		底		文様		備考	出所
				口徑	口厚	底径	底厚	口部	底		
687 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
687 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
689 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
689 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
750 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
750 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
752 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
752 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
753 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
753 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
755 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
755 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
756 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
756 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
757 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
757 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
761 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
761 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
784 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
784 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
785 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
785 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
786 a	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中
786 b	口管部	口管部	IVa, 750	10.0	1.0	10.0	1.0	口部	底	口部	III層中



第127図 Eブロック(西半部)出土土器拓影図(9) (III層中・下部出土)

No.	片名	形状	中略	色 澤		土 質		注	出 土 層	出 土 部 位	備 考
				表	底	土	質				
724	725 a	破片	725 a	黒	黒	SVAN	中略	725 a	725 a	725 a	
724	725 b	破片	725 b	黒	黒	SVAN	中略	725 b	725 b	725 b	
724	726 a	破片	726 a	黒	黒	SVAN	中略	726 a	726 a	726 a	
724	726 b	破片	726 b	黒	黒	SVAN	中略	726 b	726 b	726 b	
744	744 a	破片	744 a	黒	黒	SVAN	中略	744 a	744 a	744 a	
744	744 b	破片	744 b	黒	黒	SVAN	中略	744 b	744 b	744 b	
745	745 a	破片	745 a	黒	黒	SVAN	中略	745 a	745 a	745 a	
745	745 b	破片	745 b	黒	黒	SVAN	中略	745 b	745 b	745 b	
746	746 a	破片	746 a	黒	黒	SVAN	中略	746 a	746 a	746 a	
746	746 b	破片	746 b	黒	黒	SVAN	中略	746 b	746 b	746 b	
646	646 a	破片	646 a	黒	黒	SVAN	中略	646 a	646 a	646 a	
646	646 b	破片	646 b	黒	黒	SVAN	中略	646 b	646 b	646 b	
651	651 a	破片	651 a	黒	黒	SVAN	中略	651 a	651 a	651 a	
651	651 b	破片	651 b	黒	黒	SVAN	中略	651 b	651 b	651 b	
651	651 c	破片	651 c	黒	黒	SVAN	中略	651 c	651 c	651 c	
699	699 a	破片	699 a	黒	黒	SVAN	中略	699 a	699 a	699 a	
699	699 b	破片	699 b	黒	黒	SVAN	中略	699 b	699 b	699 b	
698	698 a	破片	698 a	黒	黒	SVAN	中略	698 a	698 a	698 a	
698	698 b	破片	698 b	黒	黒	SVAN	中略	698 b	698 b	698 b	
698	698 c	破片	698 c	黒	黒	SVAN	中略	698 c	698 c	698 c	
697	697 a	破片	697 a	黒	黒	SVAN	中略	697 a	697 a	697 a	
697	697 b	破片	697 b	黒	黒	SVAN	中略	697 b	697 b	697 b	
696	696 a	破片	696 a	黒	黒	SVAN	中略	696 a	696 a	696 a	
696	696 b	破片	696 b	黒	黒	SVAN	中略	696 b	696 b	696 b	
802	802 a	破片	802 a	黒	黒	SVAN	中略	802 a	802 a	802 a	
802	802 b	破片	802 b	黒	黒	SVAN	中略	802 b	802 b	802 b	

(2) 石器類 遺構・遺物包含層出土の石器類（利器類を中心とした直接的生産活動の用具と思われるものを中心とし、装身具類は含まない）を一括し、次のように分類した。分類基準は素材・形態・技法等にもとめた。具体的名称と想定される機能は通常一般に行われているものにしたがった。

第1類石器 原石・母岩・石核の類である。字義どおりの直接的・具体的道具ではないが、その素材関連のものとして、とくに独立して扱った。製品である石器の素材（石材）との比較が必要である。

第2類石器 これも字義どおりの直接的・具体的道具ではない。原石類の中から黒曜岩を抽出し、独立させた。産出地同定の基礎資料蓄積の一助としたいがためである。

第3類石器 刺突具と思われるものの中心をなす石鏃である。形態により4大別される。狩猟・漁撈等の食料獲得活動関連分野での機能が想定されよう。剥片石器である。

第4類石器 穿孔具（回転運動による）と思われる剥片石器で、所謂石錐である。各種の用具・製品の製作関連分野で機能しよう。

第5類石器 小刀・庖丁などの利器の性格の強い剥片石器のうち、つまみ型のつくり出しを付すなど、定形性のもっとも強いものである。所謂石匙（皮はぎ）であり、広義の搔器・削器類に含まれる。

第6類石器 同様に広義の搔器・削器と思われるもので、長方形・三角形などのある程度以上の定形性を有する剥片石器で、所謂石筥状石器・トランシエ様石器などの仲間である。

第7類石器 これも搔器・削器の仲間、5・6類ほどの定形性を示さないが、剥離作業がその全周縁に及ぼされた剥片石器である。uni-facial と bi-facial の両様の加工がある。

第8類石器 同様に搔器・削器の仲間と思われる剥片石器で、一側縁に湾入部を設け、そこに刃部を形成するものである。所謂抉り入り石器（notch）様のものである。

第9類石器 使用素材の形態そのままという意味で定形性をほとんど示さず、両刃的な刃部形成を行なっている剥片石器で、これも搔器・削器の仲間であろう。

第10類石器 上と同様の不定形の剥片石器であるが、片刃的な刃部形成の行なわれるものである。これも機能は同様のものであろう。比較的多量を占める。

9類・10類がその他石器の素材あるいは未製品段階にあるとみることも勿論できる（そのような検討も重要な課題である）が、ここではそれぞれ独立した器種としておく。

第11類石器 かなり大型の素材（剥片?）を用いた打割・削・掘削具と思われるもので、剥離作業により製作されたものである。所謂打製石斧である。

第12類石器 同様の機能をもつと思われるものであるが、使用素材が石核に近く、かつ加工が研磨によっているものである。所謂磨製石斧である。ただし極めて小型のものは斧としての

機能は想定しがたく、鑿・彫器的なものとした方がより妥当かとも思われる。

以上の11・12類の刃部位置に異同がみられ、斧 (axe) 的なものと、鍬 (adze) 的なものの使い分けが存在した可能性が大である。

第13類石器 斧ほどの定形性を示さず、礫の一部に両刃を付した両刃石器 (chopping tools) 的なものである。着柄はされなかったと思われる。機能は11・12類に同じであろう。

第14類石器 大略上に同じであるが、片刃石器 (chopper) 的なものである。

第15類石器 12類に共通する形態をもち、その一部縁辺に剥離痕をもつものである。12類の転用品とも思われる。剥離痕からすると、敲打を伴う機能を想定してよい。

第16類石器 大型の板状の素材を用いた掘削具と思われるもので、所謂石鎌である。

第17類石器 素材は16類に似るが、長辺に破砕痕をもつものである。やはり敲打器であろう。

第18類石器 地の粗い礫の表面に研磨によると思われる溝状の凹部を有するものである。他の用具を製作する際の砥石様のものであろう。

第19類石器 同様に地の粗い大型の板状形で、所謂石皿である。定形的なものとの否のものとの両様がある。本類と以下の二類は植物質食料資源関連の用途をおもに想定されている。

第20類石器 塊状礫の表面に凹部が形成された。所謂凹み石である。

第21類石器 凹部をもたず、表面が平滑化した。所謂磨石である。

第22類石器 研磨により棒状に仕上げられた所謂石剣・石刀類である。

第23類石器 所謂石棒である。

第24類石器 その他の磨製品をまとめた。各種の用途があるらしい。

以上の22～24類は、最初に述べた直接的生産用具ではないが、装飾品とは異なり、広義の生産活動の場で用いられたと想定しうるので、ここにまとめた。

以下には各類の個別説明を行なう。

第1類石器 原石・母岩・石核と思われるが、剥離技法の詳細を窺わせるような例は存在しない。その意味では、石材自体が問題とされるべきであろう。製品と共通するものであり、かつ遺跡周辺に産出地を求めうるものである。住居跡床面・埋土中という出土状況に多少留意すべきかとも思われる。

剥片製作技法を比較的明瞭に示す資料は、岩手県においては若干発見されているが、縄文時代中期例は石鳥谷町高畑遺跡^(注1)、晩期例は衣川村東裏遺跡^(注2)において知られているし、未報告資料も数例あるらしい。^(注3)

注1) 高畑遺跡 岩手県文化財調査報告書第49集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書—V— 岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工務局 昭和55年3月

注2) 東裏遺跡 # 第55集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書—VI— 岩手県教育

注3) 都南村湯沢遺跡 (財)岩手県埋蔵文化財センター調査 遺物編報告書は未刊

No	遺構・地点	層位	最大長cm			重量	材 質	産 出 地	そ の 他
			たて	よこ	厚さ				
1	EC62住居	埋土	8.05	6.2	5.1	212.55	白色細粒凝灰岩	中新統中-上部 奥羽山地	多面的core
2	E65住居	床面	19.9	8.5	2.9	284.5	凝灰質硬質泥岩	中新統上部	楕状のpebble, 表皮残存
3	E65住居	*	11.5	11.45	9.05	1155.9	硬質泥岩	*	塊状, 表皮残存

他: Dbc12 1より水品2, 流紋岩2, 石英安山岩2

第2類石器 (図版25) 先に述べた理由から抽出し、簡単な説明を行なう。本遺跡からは製品以外に黒曜岩破片12を得た。うち表皮を残すものは7である。それらのほとんどが無雑作に表皮上から加撃された痕跡を示す。したがって表皮を残す類例の多くは、石器製作の初期の段階における産物(たとえば打面形成のための剥離)である可能性が高い。さらにそれを敷衍すると、表皮を残さないものは、より進んだ段階にある、あるいは石核に近い、ということにもなる。

断面の色調は黒色味の強いものと、淡い灰色に近いものの両様がある。透明度はあまり高くなく、かつ気泡あるいは条線を内包するものもある。

岩手県内における黒曜岩産出地はその数を増しつつあるが、本遺跡周辺には現状では未検出である。原石と製品との間の対応関係は今後も解明されるべきテーマである。本遺跡については、完成品(製品)が少ないのが特徴とも思われるが、資料の蓄積にまちたい。

注1) 水沢市折居地、(国鉄東北線「陸中折居」駅西方)、高橋文夫氏の発見による。花泉町煎倉地区、国鉄東北線「清水原」駅付近の五反田地区、熊谷常正氏の教示による。

湯田町川尻土畑釜山付近、八重樫良宏氏の教示による。

雫石町橋場小赤沢地区、高橋与右衛門氏の教示による。その他同地を含むより広範な地域に産出地を期待できるといふ佐藤二郎氏の教示もある。

以上については別にふれてある(前項注2, 東裏遺跡)。

No	遺構・地点	層位	最大長cm			重量	No	遺構・地点	層位	最大長cm			重量
			たて	よこ	厚さ					たて	よこ	厚さ	
1	Bde 18	II	1.7	1.35	0.2	0.35	4	Dfg18	III	3.0	1.5	0.6	3.2
2	Bde 56	I	2.8	1.4	1.0	3.35	5	Ed 59下部	I	3.9	1.5	0.65	4.7
3	Dc 03遺構	埋土	2.65	1.2	1.85	2.55	6	Ec 62住Q 3	埋土	2.15	1.6	0.85	2.2
7	不明		2.0	1.0	0.95	1.3	10	*	*	2.5	2.7	0.8	2.2
8	*		2.4	1.75	0.35	1.2	11	*	*	1.9	1.4	0.6	1.8
9	*		2.1	1.8	0.8	3.75	12	*	*	2.3	1.05	0.5	1.5
77	*	省 略											

第3類石器 (第130図、図版25) 刺突具の主体をなす石族である。その平面形態により4大別、細部形状により13類に細別しうる。それぞれに別掲の如き各種の観察・計測を実施した。以下にそのあらましを記す。

(a) 平面形態の数量について $A : B : C : D = 7 : 3 : 22 : 38$ となる。これからするとこの4種の併存が常態ということになる。ただし「有茎」のカテゴリにおさめうる前二者が顕著に少なく、後二者が主体をなすことも明白な事実である。破片も加えると76となる。

「無茎」とみなしうる後二者についてみると、まずC類では、薄手・端正な C_{10} ・ C_{11} と、若干厚手・不整な C_{12} ・ C_{13} がほぼ同数で存在する。④の多くが未製品である可能性もあろう。なお①・②の中には基底辺が若干内湾気味になるものがあり、後述のD類に共通する特徴ともみえる。③・④にはその事実はない。したがって、本来的なC類とさるべきは③・④、とりわけ③である可能性がある。

D類においては、端正・薄手な D_{10} ・ D_{11} が圧倒的多数を占め、厚手の D_{12} ・ D_{13} は各1例ずつと少数である。①：②=32：4となり、前者が多い。したがって D_{10} がもっとも主体的存在となろう。しかし、若干大型の D_{14} も、この類の構成要素の一つとして確立されていたとみなしておく、狩猟対象の異同の反映とも考えるからである。なお前述の C_{10} ・ C_{11} をこれに加えてみると、①：②=39：7となり、その併存関係がより明白になる。

1例のみ存在した④は、一見して所謂「アメリカ式石鏃」の形態に類似する。従来の知見に従うと弥生時代に属する遺物である可能性もある。とくに南隣の大瀬川遺跡には弥生時代の遺物(天王山式併行かそれ以降)、北隣の紫波町墳館遺跡に堅穴様の遺構を伴う天王山式類似土器、他の出土が確認されている点を考慮すると、その可能性はより高くなる。ただし本調査地からは弥生時代関連のその他の遺構・遺物が検出されなかったので、断定は避けておく。

(b) A類について ①：②：③=2：1：4の個数で存在する。③には厚手・大型・不整のものが比較的多く見られ、刺突具の他の器種たる槍、あるいは未製品などを含む可能性がある。完全品として残存したものは1例もなく、いずれも破損している。基部破損が5、先端部欠失と体部半欠が4、両者が見られるものが2存在する。*着柄される刺突具、という想定機能の反映とみてよいであろう。横断面形態はイ：ロ：ニ=5：1：1となり、菱形が主体をなす。これは技法の特徴(IIが5となり主体をなす)と矛盾しない。アスファルト使用例は観察できない。

(c) B類について 総数3しか存在せず、また未製品1をも含む可能性もあるので、明白な傾向性は指摘できない。完全品2が若干目立とうか？

(d) C類について 総数22あり、D類に次ぐ量である。①：②：③：④=7：3：8：4の数量比で存在する。①と③が多いが、四者併存を常態と考えておく。①・②としたものの多くの基底辺に若干の内湾が見られ、かつ薄手・端正・入念な剥離作業という点においても、後述のD類に共通する現象が目立つ。従ってこの2種はD類に加えらるべきものかもしれない。また③・④としたものの中に未製品のものが目立つ。これらのことから本類のより本来的な姿を示すものは③の一部である可能性が強い。

破損状況を見ると、㉔：㉕：㉖：㉗：㉘＝7：9：3：1：2となり、まず完全品の多さが目立つ。先端部欠失がこれに次ぐが、これも想定される機能からして妥当な現象と思われる。側縁の欠失例に、意図的・偶然性を識別することはできない。㉙については材質・加工等の要素を考慮すべきであろう。今後の検討課題である。

断面形態はイ：ロ：ハ：ニ＝7：1：6：7となり、菱型のヴァリエーションの方が少ない。これは技法の特徴たるⅠ：Ⅱ：Ⅲ：Ⅳ＝1：7：12：3と対応するものであろう。その周縁のみに剝離を施すのが、この類の特徴の一つといえよう。なお基底辺に対する fluting 風の剝離が若干例に見られた。アスファルトの付着例は観察できなかった。

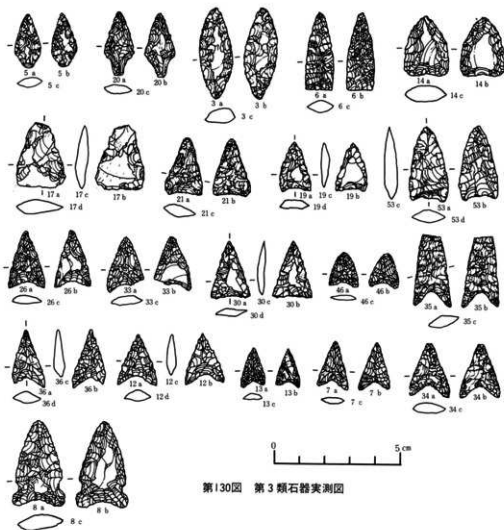
(e) D類について 総計38点あり、もっとも多い。平面形の数量比は、㉚：㉛：㉜＝32：4：1となり、㉚がその大半を占める。縦2.7cmを最大とするにすぎない。概ね小型品といえるものが主体をなす。しかし四者併存と考えておく。狩猟対象別の選択使用の可能性を無視できない故である。ただし㉜については若干問題がある。既にのべた如く、これは所謂「アメリカ式石族」の形態に近く、その帰属年代に二様の可能性を示す。ここでは先に掲げた理由からも、特定を避けておく。

破損状況を見ると、㉔：㉕：㉖：㉗：㉘＝15：10：10：1：4となる。完全品が多い点はやや意外な感がある。先端欠失がかなり多い点は、他と同様の理由から当然としておく。㉙が㉗を圧倒的に凌いでいる点は、若干の検討課題を提供するものであろう。既に「片脚族」なる呼称のあるとおり、この種族の側縁端部の欠失に意図性を認識した業績がある。本遺跡出土例の完全品の中にも左右非対称となるものもあり、それらの中に意図的欠失乃至除去という作業が行われた可能性もある。側縁端部の欠失・除去の目的は、残存側縁の「逆刺的」機能・効果への期待であるとされる。

・横断面形態は菱形のヴァリエーションが27と大半を占める。これも同様に剝離技法の反映とみなされよう。

アスファルト付着については、疑問あるものを加えると3例ある。いずれも基底辺湾入部の最奥部にかすかに観察できたものである。

使用石材は、表のとおりであるが、硬質泥岩類25%・珪質泥岩類30.3%・泥質凝灰岩類22.4%などが目立ち、珪質凝灰岩・流紋岩質凝灰岩・黒曜岩・松脂岩・玉髓・鉄質石英などが若干量組みあわせになる。当然ながら鋭利な側縁の得られるものが選択されていることがわかる。



第130図 第3類石器実測図

A			B		C				D			
①	②	③	①	②	①	②	③	④	①	②	③	④

破 損 ⑥ 完全品 ⑦ 先端欠 ⑧ 茎 欠 ⑨ 1 側縁(脚)欠 ⑩ 両側縁(脚)欠 ⑪ 半欠(斜位)
 横 断 面 ⑬ ① ② ④ ⑤
 アスファルト ⑫ 有 ⑬ 無
 技 法 ⑭ uni-facial ⑮ bi-facial ⑯ trimming ⑰ 片面のみtrimming ⑱ fluting

第3類

No	地点	層位	タイプ	最大長 cm			重量g	破損	断面	アスファルト	技法	材 質	そ の 他
				たて	よこ	厚さ							
5	Dg15	I	A(1)	2.1	1.0	0.35	0.7	C	イ	II	泥質極細粒凝灰岩		
20	Db12	III	#	2.5	1.15	0.4	1.0	c	ニ	III	硬質泥岩		
57	Ec62(新)住	棟土	A(2)	3.5	1.35	0.65	2.6	c	イ	II	#		
18	Db62	III	A(2)	2.8	1.2	0.6	1.9	f	イ	II	凝灰質珪質泥岩		
41	Elbc68	I	#	4.75	2.25	1.05	10.55	b,c	ロ	I	泥質極細粒凝灰岩	point?	
43	#	#	#	4.3	2.45	0.8	7.2	f	イ	II	流紋岩質凝灰岩	#	
47	Ed65	#	#	4.6	1.65	0.9	5.15	b,c	イ	II	泥質極細粒凝灰岩		
15	Da15	I	B(1)	2.5	1.15	0.6	1.35	a	ロ	III	凝灰質珪質泥岩	未製品?	
3	Ccd71	I	B(2)	3.55	1.25	0.55	2.5	a	ニ	III	泥質極細粒凝灰岩		
19	Db12	III	C(1)	1.95	1.3	0.3	0.8	a	ニ	III	泥質極細粒凝灰岩		
21	#	#	#	2.3	1.45	0.45	1.1	d	イ	III	鉄質石英		
24	Dbc18	II	#	2.3	1.7	0.35	1.1	b	ニ	III	泥質極細粒凝灰岩		
30	Dde15	I	#	2.3	1.5	0.25	0.07	e	ニ	III	珪質泥岩		
52	Eg68	II	u	1.55	1.5	0.3	0.85	f	ナ	IV	#		
58	Ec62Q ₁	棟土	#	2.75	2.1	0.6	2.75	a	ハ	III	流紋岩質凝灰岩	(大型)	
59	# Q ₁	#	#	1.75	1.3	0.2	0.55	a	ニ	III	黄褐色極細粒珪質凝灰岩		
6	Dg15	II	C(2)	3.5	1.15	0.45	1.7	b	イ	III-V	珪質泥岩		
10	Ci12	II	#	2.6	1.0	0.35	1.15	f	イ	III-V	凝灰質硬質泥岩		
22	Db65	I	#	2.3	1.5	0.4	1.5	b	イ	III-V	泥質極細粒凝灰岩		

No	地点	層位	タイプ	最大長 cm			重量g	破損	断面	アスファルト	技法	材 質	そ の 他
				たて	よこ	厚さ							
49	Ef06	II	D(1)	1.7	1.15	0.2	0.45	a	ニ	III	玉 髓		
71	?	?	?	1.7	1.2	0.3	0.6	f	ハ	III	凝灰質珪質泥岩		
72	?	?	?	2.35	1.3	0.55	1.5	a	ニ	III	凝灰質硬質泥岩		
74	?	?	?	2.35	1.65	0.45	1.35	b	イ	II	珪質泥岩		
76	?	?	?	1.7	1.2	0.25	0.4	a	ロ	II	凝灰質珪質泥岩		
48	Ec65イコウ Q ₂	棟土	#	1.8	1.55	0.3	0.6	a	イ	II	珪質泥岩	やや横長	
56	Ec62住 Q ₁ pit 中	棟土	#	1.9	1.45	0.35	0.75	b	イ	II	硬質泥岩		
60	Ec62住 Q ₁	#	#	1.9	1.45	0.25	0.5	a	イ	II	松脂岩		
61	#	床	#	2.35	1.1	0.3	0.4	d	イ	II	流紋岩質凝灰岩		
62	Ed62住 Q ₁	棟土	#	1.75	1.1	0.25	0.35	b	イ	II	松脂岩		
64	Ed65住	#	#	2.05	1.3	0.2	0.4	d	イ	II	珪質泥岩		
66	Ed68住	#	#	2.4	1.4	0.2	0.5	a	イ	II-V	#		
67	#	#	#	2.7	1.5	0.4	0.8	d	イ	II-V	黄褐色極細粒珪質凝灰岩		
68	?	?	?	2.2	1.45	0.5	1.4	d	イ	II	凝灰質珪質泥岩		
35	Dg18	III(2)	D(2)	2.8	1.45	0.3	1.25	f	イ	III	硬質泥岩		
53	Eh171	I	#	3.0	1.5	0.5	1.9	b	イ	III	凝灰質硬質泥岩		
63	Ed65住	棟土	#	3.7	1.85	0.6	2.95	a	ハ	IV	#		
65	Ed65住 Q ₁	#	#	2.85	1.4	0.4	1.2	b	イ	II	玉 髓		
45	Ed69	I	D(3)	3.25	1.7	0.4	2.55	b	ニ	III-V	泥質極細粒凝灰岩		
8	Chi09	II	D(3)	3.45	2.5	0.6	3.65	b	ハ	IV	珪質泥岩	アメリカ式石鍾	

その他破片 泥質極細粒凝灰岩1 珪質泥岩2 硬質泥岩1 凝灰質硬質泥岩2

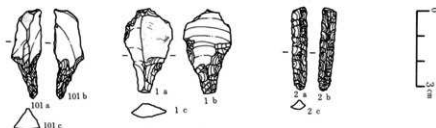
No	地点	層位	タイプ	最大長 cm			重量g	破損	断面	アスファルト	技法	材 質	そ の 他
				たて	よこ	厚さ							
9	Chi03	II	C(3)	3.3	2.5	0.85	5.5	b	イ	II	珪質泥岩	横長flake 断面残存	
11	Ci171	I	#	2.45	1.8	0.45	2.0	d	ニ	III	凝灰質硬質泥岩	未製品?	
14	Da15	I	#	2.4	1.7	0.55	2.7	d	ニ	III	凝灰質硬質泥岩		
17	Db12	III	#	2.6	1.95	0.45	2.2	b	ハ	IV	泥質極細粒凝灰岩		
38	Dg18	III(2)	#	2.25	1.7	0.45	1.5	b	ハ	III	鉄質石英	未製品?	
29	Dg06	II	u	1.9	1.6	0.4	1.4	b	ハ	III	凝灰質硬質泥岩	#	
1	Bcd62	II	#	2.1	1.6	0.6	1.9	a	ハ	I	#	横長flake 断面残存	
55	Ec62住 Q ₁	棟土	C(3)	2.0	1.85	0.45	1.7	a	ニ	III	凝灰質珪質泥岩		
31	Dde12	II	C(1)	2.6	1.8	0.8	2.85	b	ロ	III-V	珪質泥岩		
42	Elbc68	I	#	2.9	1.55	0.65	2.6	a	イ	II	泥質極細粒凝灰岩		
69	不明	#	#	2.0	1.55	0.4	1.3	b	ニ	III	凝灰質珪質泥岩		
73	#	#	#	2.35	1.8	0.3	1.1	a	イ	II	硬質泥岩	未製品?	
2	Cbc65	II	D(1)	1.85	1.15	0.25	0.5	b,e	イ	II	泥質極細粒凝灰岩		
7	Dg15	I	#	1.95	1.2	0.25	0.4	d	イ	II	泥質極細粒凝灰岩		
13	Ci1a06	I	#	2.15	1.65	0.4	0.7	a	イ	II	凝灰質珪質泥岩		
12	Da15	II	#	1.6	0.95	0.2	0.25	a	ハ	II	#		
16	#	#	#	1.9	1.35	0.4	0.75	a	ロ	II	泥質極細粒凝灰岩	非付録	
23	Dbc18	II	#	1.8	1.2	0.2	0.4	d	ニ	III	鉄質石英		
26	Dbc15	II	#	2.3	1.4	0.3	0.7	a	ハ	IV	珪質泥岩		

27	Dc03	I	#	1.8	1.3	0.25	0.4	a	イ		II	泥質極細粒凝灰岩
28	Dde18	II	#	2.1	1.55	0.4	0.8	a	イ		II	黄褐色珪質極細粒凝灰岩
29	#	I	#	1.55	1.4	0.3	0.5	d,f	イ		II	珪質泥岩
32	Dde12	II	#	1.65	1.15	0.25	0.35	b	イ		II	泥質細粒凝灰岩
33	Dde50	?	#	2.25	1.5	0.3	0.8	d	ハ		IV	凝灰質硬質泥岩
34	Df18	II	#	2.2	1.55	0.25	0.65	b	イ		II	黄褐色珪質極細粒凝灰岩
36	Dfg18	III②	#	2.35	1.45	0.35	0.6	d	イ		II	珪質泥岩
37	#	II	#	2.0	1.2	0.3	0.5	d	イ		II	泥質極細粒凝灰岩
40	Dg21	II	#	1.35	0.1	0.2	0.25	f	イ		II	凝灰質珪質泥岩
44	Ed59	II	#	2.2	1.7	0.45	1.45	a	ニ		III	熱質石英
46	Ed62	I u	#	1.4	1.1	0.2	0.3	a	イ	あ	II	玉 髓

第4類石器 (第131図・図版26) 穿孔具たる石錐と思われる本類は総数4を得たのみである。いずれも破片で、原形を留めるものはない。残存部位は、所謂つまみ部～錐部上半3、錐部1である。残存状況から類推すると、つまみ部の成形は、厳密な定形化を意図したのではなく、素材の形状をそのまま生かすものらしい。横断面形は三角形または台形であるらしい。つまみ部全周縁に及ぶ剥離は行なわれず、錐部への移行部分に若干見られる程度である。

錐部は、その長さがやや長目のもの(3cm以上、No2)と短かめのもの(1.5cm以下、No101)の二者がある。横断面形態は菱型に近いものと、三角形に近いものがある。前者への剥離は入念で、かつ全面に加えられる。菱型ではあろうが、片面の稜の突出の度合いがやや小さい特徴をもつ。つまみ片面は平坦に近い。後者の剥離は部分的である。両者ともに錐部の平坦面と、つまみ部のそれが同一面上(延長上)にある。

石材は、表のとおりである。硬質泥岩・珪質泥岩類・泥質凝灰岩などが選択されている。



第131図 第4類石器実測図






No	遺構・地点	層序	長さ/幅			重量	材質(産出質地)	タイプ	破損	技法	錐部断面形	つまみ部・	その他
			長さ	幅	厚さ								
1	Dbe9	II	3.3	1.9	0.45	3.0	凝灰質珪質泥岩	破片	錐部欠	bi-facial			
2	Dfg15	I	3.2	0.55	0.5	1.0	硬質泥岩	破片	つまみ欠	uni-			
3	Ed62(13Q3)	埋土	4.9	1.5	0.45	3.6	泥質凝灰岩	*	錐部先端欠	uni-facial			prepared plain platform
1001	Dbe18	II	3.4	1.1	0.75	2.3	珪質泥岩	完	*	*			

第5類石器 (第132図、図版26) 広義の搔器・削器と思われ、もっとも日常的な利器と思われる所謂石匙(皮はぎ)を集めたが、計13である。うち6は未製品乃至異器種とされるべきかもしれないが、ここでは一応包括しておく。所謂縦型8、横型5である。前者の破損品は1で、体下半を欠失している。平面形は、先端部に丸味をもつものと、軽く尖るものの二種があるらしい。素材は縦長剥片を用い、横断面形態は三角形乃至台形をなす。加撃点と所謂つまみ部が一致するもののみである。加撃面(打面)を残すものと、剝離を加えてそれが不明になったものの両者がある。調整打面と非調整のその二様がある。

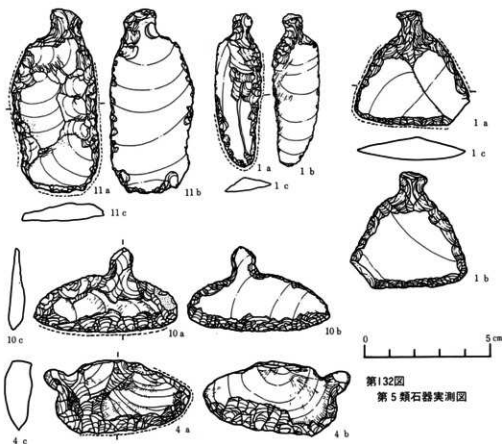
剝離は体部の両側縁に施こされるが、ほとんどが片面(背面)のみに加えられ、両面にあるのは1例のみである。なおつまみ基部周辺の剝離のみは両面から行われるのが常態である。いづれにしても片面加工の剝離が優越する。

後者(横型)の破損品は1で、それは主要刃部端である。平面形は柳葉形に近いものと、扁平な三角形に近いものがある。素材に横長剥片を用いるものと、縦長を用いるものの両者があるが、両者ともつまみと加撃点の一致はあまり見られない。打面残存例は調整打面である。つまみは先端部厚が薄くなる。基底辺(最長縁辺)に主要刃部が形成され、直線的なもの若干外湾するものがある。両者とも両面からの剝離によりつくり出される。範囲は狭いが両面加工のとみなすことができ、縦型と好対照をなす。トリミングのものに留まる点は共通する。

アスファルト付着例は観察できない。使用石材は、表のとおりである。珪質泥岩類、泥質凝灰岩類がともに38.5%と優越し、それに若干量の硬質泥岩類・珪質凝灰岩が伴う。

		第5類石器(石匙) 観察項目					
大別	A. 縦型	B. 横型					
破損	a. 完全品	b. つまみ欠失	c. 体部欠失				
素材	I. 縦長剥片	II. 横長剥片		III. 不明			
素材横断面形	イ. 	ロ. 	ハ. 	ニ. 	ホ. 		
つまみと加撃点	1. 一致	2. 不一致		3. 不明			
打面	あ. 調整打面	い. 非調整打面		う. 不明			
技法	V. bi-facial	W. uni-facial					
つまみ製法	X. 加工あり	Y. 加工なし					

No	遺構・地点	層位	最大長 cm たてよこ 厚さ	重量g	破損材	加撃点	打面	技法	大別	材質	産出地	その他
1	Dbc12	Ⅱ	4.5 4.6 1.0	16.0	c	Ⅱ	1	あ	V	B	珪質泥岩	中新統上部 豊羽山地
2	Dbc12	Ⅱ	6.2 2.2 0.8	10.8	a	Ⅰ	1	い	W	A	"	"
3	Dbc 9	Ⅱ上	5.8 2.0 0.75	9.4	a	Ⅰ	1	あ	W	A	"	"
4	Dde12	Ⅱ	5.9 2.9 1.05	17.05	a	Ⅱ	2	あ	V	B	凝灰質珪質泥岩	"
5	Df21	Ⅱ	7.35 2.8 1.1	19.6	a	Ⅱ	3	あ	W	A	黄褐色珪質凝灰岩	"
6	Df15	Ⅱ(1)	6.0 1.8 0.5	4.75	a	Ⅰ	1	い	W	A	硬質泥岩	中新統上部 豊羽山地
7	Dfg18	Ⅱ	4.9 3.1 0.7	8.15	b	Ⅱ	3	う	V	B	泥質細粒凝灰岩	"
8	EC62(FQ)	埋土	4.75 3.2 0.6	10.3	C	Ⅰ	1	う	V	X	泥質凝灰岩	"
9	Efg62	表土	6.1 2.5 0.9	13.1	a	Ⅱ	3	う	W	X	泥質細粒凝灰岩	"
10	Efg68	?	5.6 3.3 0.55	9.2	a	Ⅱ	2	う	V	X	凝灰質珪質泥岩	"
11	Efg68	?	7.2 3.35 0.8	22.5	a	Ⅱ	3	う	W	X	泥質細粒凝灰岩	"
12	Dd69(FQ)	埋土	9.5 3.5 1.35	38.3	a	Ⅱ	3	う	W	B	凝灰質硬質泥岩	"
13	EC62(FQ)	埋土	5.8 4.0 1.3	20.6	a	Ⅱ	1	う	W	X	泥質凝灰岩	"



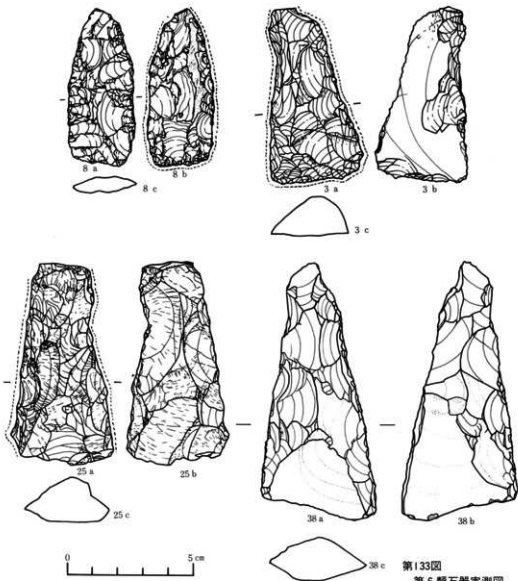
第132図
第5類石器実測図

第6類石器・第11類石器（第133・138図・図版26） 搔器・削器の仲間と思われる石筲状石器たる6類と、打製石斧的な性格をもつと思われる11類を、都合上ここで記す。両者の形態・技法に共通する点が多い故である。

6類の平面形には、①基部の尖るもの5、②方形のもの3、③前二者の中間的なものなどからなる。①～③ともに両面加工的・片面加工的なもの両者がある。平面形と技法の対応関係があまりないとすべきなのか、あるいは各個が工程上の相違を示すものなのかなどは現状では不明である。所謂トランシェ様石器類似のものも存在する。総計13となる。

11類と思われるものは3例あり、その破損状況は、基部残存1である。いずれも破片で全形を知りえないが、6類に共通するものであろう。片面加工と両面加工の両者がある。

石材は第6類においては硬質泥岩類が53.9%と圧倒的に目立ち、他に若干量の珪質泥岩類・粘板岩ホルンフェルス・泥質凝灰岩類・流紋岩質細粒凝灰岩などが併用される。第11類は数が少ないので傾向性は指摘できないが、凝灰質硬質泥岩・泥質凝灰岩などが選択利用されている。



第133圖
第6類石器實測圖

第6類石器觀察項目

殘存狀況	a. 完全品	b. 破損			
使用素材	I. 縦長剥片	II. 横長剥片	III. 不明		
素材横断面形	イ.	ロ.	ハ.	ニ.	ホ.
打面	あ. 調整打面	い. 非調整打面	う. 不明		
技法	V. bi-facial	W. uni-facial			





No	遺積・地点	層位	最大長 cm		重量 g	破損	素材	断面	打面	技法	材質	産出地	備考	
			たて	よこ										厚さ
3	Ce71	I	7.0	3.6	1.45	34.2	a	I	イ	あ	W	硬質泥岩	中新統上部 奥羽山地	
5	Cf68	II	5.9	4.9	1.5	42.0	b	II	ロ	う	W	硬質凝灰岩	" "	11層
8	Dbc15	I	6.1	2.55	0.6	10.4	a	III	ハ	ウ	V	高質細粒凝灰岩	中新統中～上部	" "
14	Dfg18	II	5.25	3.25	1.65	28.7	b	III	ハ	ウ	V	硬質凝灰岩泥岩	中新統上部	11層
17	Ea15	II	4.95	3.25	1.0	16.9	b	III	ハ	ウ	V	硬質泥岩	" "	" "
19	Ebb 2	I	5.65	3.25	1.8	32.75	a	III	ハ	ウ	V	硬質凝灰岩泥岩	" "	" "
22	Ede62	I	6.35	3.3	1.6	43.0	b	III	ハ	ウ	W	粘板岩ホルンフェルス	古生帯 北上山地?	
25	Ee71	I	8.05	4.15	1.9	55.0	a	III	ハ	あ	V	硬質凝灰岩泥岩	中新統上部 奥羽山地	
26	Efg68	I	7.1	3.3	2.1	44.5	a	I	イ	ハ	V	流紋岩質細粒凝灰岩	中新統中部	" "
28	Eh65	II	7.0	6.7	3.5	155.0	b	III	イ	ウ	V	高質凝灰岩	中新統上部	11層
29	Ch59非	埋	5.3	3.4	2.0	27.65	b	III	ハ	ウ	W	硬質泥岩	" "	" "
34	Ec52非Q	埋	5.9	3.7	1.65	47.3	b	III	ハ	ウ	V	硬質硬質泥岩	" "	" "
38	(不明)	不明	10.4	4.5	1.8	58.2	a	I	イ	ハ	V	高質凝灰岩	" "	" "
289	Ees81非Q	埋	8.45	4.9	1.65	78.65	a	III	ニ	ウ	V	粘板岩ホルンフェルス	古生帯 北上山地?	" "
348	Ec59非Q	"	6.75	3.35	1.7	34.05	b	III	ホ	ウ	V	硬質泥岩	中新統上部 奥羽山地	
349	Ec62非Q	"	5.7	3.6	1.3	24.55	a	III	ホ	ウ	V	硬質泥岩	" "	" "

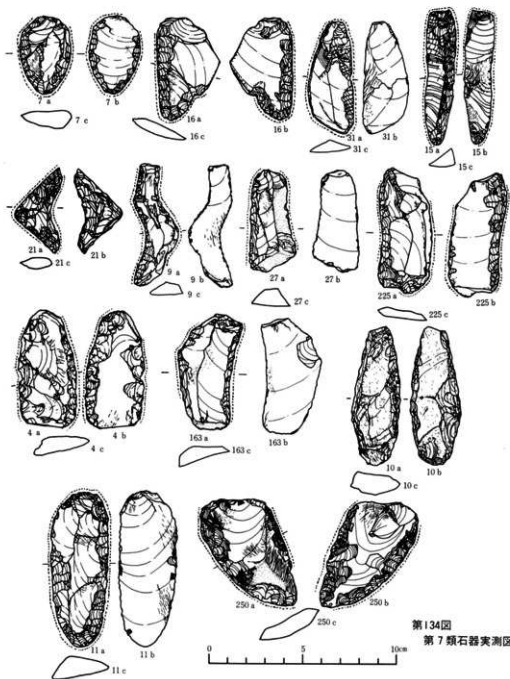
第7類石器 (第134図・図版26) 同じく搔具・削具の仲間と思われるもので、片面加工・両面加工の両者をあわせて、定形性を看取できるものをここに集めた。定形化の印象を与えるもっとも大きな要素は、全周縁に及ぶ剥離であった。そこをとらえて「その全周縁が剥離された、剥片素材の搔・削具」と呼称することもできる。技法・素材ともに斉一性が強い。即ち、素材は縦長を主体に、若干量の横長剥片を選択し(打面残存の場合はほとんどが調整打面)、その横断面形は三角形あるいは台形のヴァリエーションの中におさまる。刃部形成他の剥離は周縁部のみにとどまり、素材の中央部にまでは及ばない。また片面加工的なものが多く、裏面は未加工のままに残される。

変化はその平面形態にもっともよく表われる。即ち①楕円形乃至その変形的なもの、②長台形乃至その変形的なもの、③棒状に近いものと異形のもの、の3種となる。③は素材自体の表面積の狭さもあってか、剥離が全面に及ぶものもある。

いずれにあって最も長の縁辺への剥離作業がもっとも入念であり、かつ同部位に細破砕片が残存する。

石材は表のとおりである。硬質泥岩類24.1%、珪質泥岩類51.7%の二種が圧倒的多数を占め、他に若干量の泥質細粒凝灰岩・流紋岩質細粒凝灰岩が併用されている程度である。

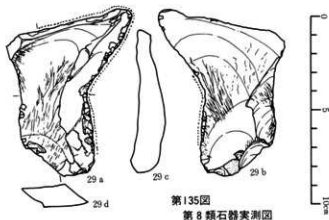
第7類石器観察項目	
残存状況	a. 完全品 b. 破損
使用素材	I. 縦長剥片 II. 横長剥片 III. 不明
素材横断面形	イ.  ロ.  ニ.  ホ. 
打面	あ. 調整打面 い. 非調整打面 う. 不明
技法	V. bi-facial W. uni-facial



第134图
第7類石器実測図

No	遺構・地点	層位	最大長 cm			重量 g	破損	素材	断面	打面	技法	材 質	産 出 地
			たて	よこ	厚さ								
1	Bde56		2.7	2.1	1.0	6.85	a	II	イ	う	W	泥炭質凝灰岩	中新統中～上部 奥羽山地
2	Ce68	II上部	3.1	2.6	0.85	7.95	b	III	ニ	う	V	凝灰質珪質泥岩	中新統上部
4	Cef65	II	6.3	3.0	1.15	18.05	a	II?	ニ	う	V	凝灰質硬質泥岩	"
7	Cgh50	I	3.5	1.45	0.55	3.25	a	I	イ	あ?	W	珪質泥岩	"
7	Cgh65	I	4.1	3.7	0.8	10.85	a	I	ニ	あ?	V	"	"
9	Dbe15 西ベルト		6.5	1.7	1.1	8.7	a	I	ロ	あ	W	凝灰質珪質泥岩	"
10	Dbc13	I	7.0	2.75	1.2	26.75	a	III	ニ	あ	V	凝灰質硬質泥岩	"
11	Dde 9	II(1)	8.2	3.0	1.15	35.2	a	I	ホ	あ	W	凝灰質珪質泥岩	"
12	Dde 3	I	5.85	3.15	0.7	15.8	a	I	ロ	あ	W	凝灰質凝灰質	中新統中～上部
13	Dfg21	III(3)	5.9	2.35	0.65	8.9	a	I	イ	あ	W	凝灰質珪質泥岩	中新統上部
15	Dfg18 西ベルト	II	7.15	1.7	1.0	12.85	a	I?	イ	う	W	珪質泥岩	"
16	Dfg15		5.35	3.3	0.9	14.9	a	I	へ	あ	V	凝灰質硬質泥岩	"
18	Eb12	(3)	4.8	3.2	0.65	9.3	a	I	ホ	あ	W	泥炭質凝灰岩	中新統中～上部
20	Ebe65	I	7.85	4.2	1.2	42.05	a	I	ホ	あ	W	硬質泥岩	中新統上部
21	Ec12	(4)	4.55	3.5	0.65	4.75	a	III	ニ	う	V	泥炭質凝灰岩	中新統中～上部
23	Ede65	I	7.4	4.85	1.8	72.6	a	III	ニ	う	W	泥炭質凝灰質	中新統中～上部 奥羽山地
24	Ede68	I	6.25	3.2	0.8	19.9	a	I	ホ	あ	W	"	"
27	ベルト Efg68	I	5.4	2.5	1.0	15.15	a	I	イ	あ	W	凝灰質珪質泥岩	中新統上部
30	De6Q ₁ 住		6.85	2.3	1.3	20.05	a	I	ロ	あ	W	珪質泥岩	"
31	De 6 Q ₂ 住		5.7	2.45	0.9	13.3	a	I	ホ	あ	W	"	"
32	Ebe2Q ₁ 住		7.9	4.0	1.7	47.65	a	I	ホ	あ	V	"	"
33	Ec3Q ₁ 住	埋土	5.8	2.8	0.9	15.3	a?	III	ハ	う	V	凝灰質珪質泥岩	"
35	Ec6Q ₁ 住		5.25	1.45	0.8	7.7	a	III	ハ	う	V	珪質硬岩	"
36	Ec68Q ₁ 住		8.9	3.0	1.9	42.9	a	III	ハ	う	V	凝灰岩	"
122	Dde6	II	6.2	2.7	0.85	19.95	a	I	ニ	あ	V	凝灰質硬質泥岩	"
151	Dde12	III(1)	7.2	3.9	1.4	33.7	b	I	イ	う	V	流紋岩質凝灰質凝灰岩	"
163	Df21	II	6.0	2.8	0.65	17.25	a	I	ホ	あ	W	凝灰質硬質泥岩	"
225	Dg15	II	6.3	2.7	1.2	18.35	a	I	ニ	あ	V	凝灰質珪質泥岩	"
250	Ebc15	(1)	7.0	4.75	1.0	27.8	a	II	ニ	あ	V	凝灰質珪質泥岩	中新統上部 奥羽山地





第8類石器 (第135図・図版26) 抉り入り石器 (notch) と呼ばれるものに近い搔・削具を集めた。横断面形態が三角形乃至台形を呈すやや長めの剥片の一侧縁に湾入部をつくり、そこに刃部を付すものである。剥離は腹面よりの加撃による片面加工のものが多く、刃部に相対する縁辺には表皮が残されたり、刃潰し様の加工が施されたりする。これらの事実は、この種石器も一定の規格性の下に製作されたことの反映と思われ、広義の定形的石器の仲間に加えられるべきものであろう。素材の過半数は縦長剥片と思われるが、横長のそれも混在する。総



第135図
第8類石器実測図

数8である。

石材は表のとおりである。類例が少ないために傾向性は看取できないが、硬質泥岩・珪質泥岩類・白色細粒凝灰岩・泥質細粒凝灰岩などが併用されている。

第8類石器観察項目	
残存状況	a. 完全品 b. 破損
使用素材	I. 縦長剥片 II. 横長剥片 III. 不明
素材横断面形	イ  ロ  ハ  ニ  ホ 
打面	あ. 調整打面 い. 非調整打面 う. 不明
技法	V. bi-facial W. uni-facial

第8類

No	遺構・地点	層位	最大長 cm			重量 g	破損	素材	断面	打面	技法	材質	産出地
			たて	よこ	厚さ								
16	Cef62	II	7.85	4.15	0.3	31.0	a	III	イ	う	W	硬質泥岩	中新統上部 奥羽山地
29	Cef71	?	7.9	3.85	1.25	57.3	a	I	ロ	あ	W	?	?
161	Df53(1Q)	埋土	4.89	3.1	0.8	13.55	a	III	イ	う	W	凝灰質珪質泥岩	?
190	Dfg12	II	7.95	3.0	1.9	45.5	a	III	ニ	う	W	泥質細粒凝灰岩	?
223	Dhg62	I	8.15	3.0	0.9	21.65	a	I	イ	あ	W	白色細粒凝灰岩	中新統中～上部 奥羽山地
242	Eh12	II	4.7	2.1	0.8	8.3	a	II	ロ	あ	W	珪質泥岩	中新統上部
275	Ede59	?	6.0	4.8	1.25	29.3	a	II*	ロ	い	W	泥質細粒凝灰岩	中新統中～上部
355	Ece2(1Q)	埋土	8.1	3.85	1.75	29.6	a	II*	イ	あ	W	珪質泥岩	中新統上部






第9類石器 (第136図・図版27) 広義の搔器・削器の仲間、顕著な定形性をもち、かつ両刃的な刃部を付された剥片石器を集めた。所謂不定形石器の仲間である。この種石器の刃部形成の異同(両刃と後述の片刃)が、機能の差を反映するか否かは今後の検討課題であろうが、ここでは搔器・削器等利器の仲間としておく。勿論、後者を前者にいたる途上にある(未製品)とする観点も成立しうるが、総数87を得た。

平面形態は、素材の剥片そのものを示すものが多く変化に富む。狭義・具体的定形性は顕著には指摘できない。若干巾広のものと、棒状のものへの二大別は可能である。素材の剥片には縦長と横長の両者があるが、後者が目立つ。あるいは特徴の一つとすべきかもしれない。素材の横断面形態は、三角形・台形・菱形などの、それぞれヴァリエーションからなる。素材の最厚部が刃部の反対側に位置し、かつそこに表皮を残すものが多い。これは第8類にも見られた傾向であり、使用上の便を考慮した措置とも考えられる。その意味で、この種の剥片石器も、単なる不定形石器、ではなく、何とどの定形性。下にあると見るべきであろう。打面の判明した例のほとんどが調整打面である。

刃部形成部位に傾向性(たとえば、加撃点を基準にするなどして)は看取できないが、その素材剥片の最長縁辺を選択・加工するものが多い。刃部形状には直線的なものと同湾するもの二者があるが一括した。これは第5類にも見られたところである。

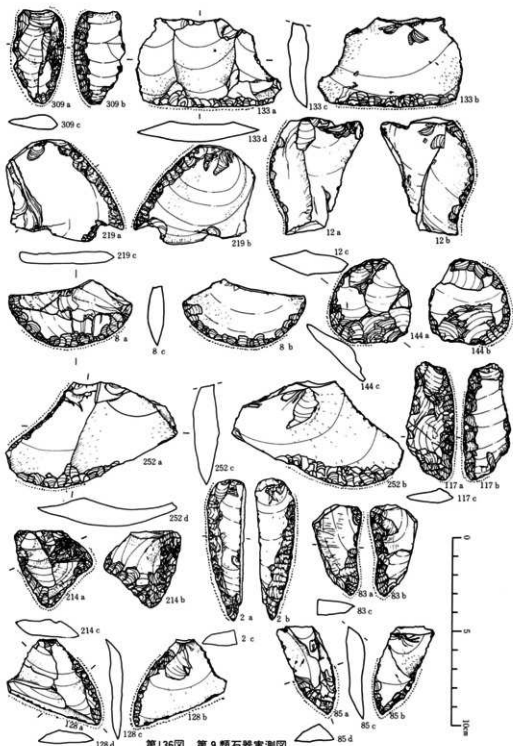
使用石材は表のとおりである。硬質泥岩類66.7%、珪質泥岩類13.8%の二者が大半を占め、それぞれ(とくに前者)への集中選択が顕著である。その他には泥質細粒凝灰岩・淡緑色細粒

石質凝灰岩・珪質凝灰岩類・流紋岩質細粒凝灰岩・流紋岩・松脂岩・玉髓・鉄質石英なども併用され、比較的広範に選択されているように見える。

第9類石器観察項目	
刃部形状	A. 直線的 B. 外湾気味
素材	I. 縦長剥片 II. 横断剥片 III. 不明
素材横断面形	イ.  ロ.  ハ.  ニ.  ホ. 
打面	あ. 調整打面 い. 非調整打面 う. 不明
技法	V. bi-facial W. uni-facial
表皮	O. 残存 P. なし
刃漬	し ○ あり
その他	破損状況

No.	遺構・地点	層序	最大長さ たてよこ長さ	重量g	刃部	素材	断面	打面	技法	表皮	刃漬	その他	材質	産出地
2	C b 21	III	7.5 1.8 0.8	16.4	B	I	ニ	あ	V	O			硬質灰岩	中新統上部 奥羽山地
4	C b c 65	I	6.1 4.5 1.6	48.2	A	I	ホ	あ	P				硬質灰岩	〃
6	C c d 65	II	9.45 4.6 2.0	75.6	B	II	ホ	あ	P				凝灰質硬質灰岩	〃
8	C c d 68	II	6.5 3.5 0.9	19.05	B	II	ニ	あ	P				硬質灰岩	〃
11	C c d 68	II M	5.3 3.9 0.5	13.8	A	I	ニ	あ	P				淡緑色細粒石質凝灰岩	中新統中部
12	C d e 66	III	6.0 4.1 1.2	33.7	B	I	ハ	あ	P				硬質灰岩	中新統上部
13	C e 62	II	5.2 2.8 0.7	14.1	A	I	ホ	あ	P				硬質灰岩	〃
17	C e f 62	*	6.4 4.3 1.35	38.2	B	I	イ	あ	P	○			凝灰質硬質灰岩	〃
18	C e f 65	II U	5.85 3.95 0.9	24.2	B	I	ニ	あ	P				硬質灰岩	〃
22	C e f 65	II	7.1 6.1 2.3	129.8	A	IV	ロ	う	O				硬質灰岩	〃
33	C R h 59	I L	2.6 2.35 0.6	3.8	A	IV	ハ	あ	P				硬質灰岩	〃
34	C R h 62	I	5.1 2.95 0.85	14.1	A	II	ロ	あ	P				硬質灰岩	〃
37	C R h 65	?	5.4 2.9 1.25	17.5	B	I	ニ	あ	P				硬質灰岩	〃
39	C R h 71	II	8.45 5.2 1.3	68.65	A	II	ロ	あ	P				硬質灰岩	〃
40	C R h 71	I L	7.1 5.1 1.15	32.85	B	II	ホ	あ	P	○			凝灰質硬質灰岩	〃
46	C i 12	II	2.7 2.0 0.8	35.35	B	III	ハ	う	P			破	硬質灰岩	〃
48	C j 59	I	5 2.9 0.95	14.5	A	I	イ	あ	P				緑色凝結珪質凝灰岩	中新統中部
60	C j D a 12	III	5.5 3.1 0.65	12.5	A	I	ホ	あ	P	○			凝灰質硬質灰岩	中新統上部
73	D a 15	III	4.7 3.3 1.0	15.5	B	I	ホ	あ	P	○			硬質灰岩	〃
83	D b 12	III	4.8 2.5 0.95	12.15	B	III	ニ	う	P				硬質灰岩	中新統上部
85	D b 12	III	5.15 2.65 0.85	10.65	A	I	イ	あ	P				硬質灰岩	〃

No.	遺構・地点	層序	最大長さ たてよこ長さ	重量g	刃部	素材	断面	打面	技法	表皮	刃漬	その他	材質	産出地
89	D b 09	III	4.6 2.25 0.6	17.65	A	I	イ	あ	V	P			麻細粒珪質凝灰岩	中新統中部 奥羽山地
99	D b c 18	II	8.2 6.5 1.2	66.25	B	I	イ	あ	P				硬質灰岩	中新統上部
104	D b c 15	II	5.9 4.2 1.95	52.7	A	II	?	ハ	あ	O			凝灰質硬質灰岩	〃
112	D b c 12	?	6.7 4.45 2.2	66.0	A	II	?	ニ	う	O		破	硬質灰岩	〃
115	D b c 09	II M	4.4 2.4 0.85	19.95	B	II	?	ニ	あ	P			凝灰質珪質灰岩	〃
117	D b c 09	II	6.3 2.35 0.85	12.5	B	I	イ	あ	P	○			玉髓	中新統の火山岩風化物中 奥羽山地
119	D b c 53	I	5.15 3.5 1.85	32.8	B	I	イ	あ	P	○			凝灰質硬質灰岩	中新統上部 奥羽山地
128	D d e 18	II	5.25 3.6 0.7	12.45	B	II	ホ	あ	P				硬質灰岩	中新統上部
130	D d e 18	?	5.9 4.2 1.0	26.85	B	I	ロ	あ	P	○			硬質灰岩	〃
131	D d e 18	II	4.15 2.45 0.85	8.0	B	I	イ	あ	O				流紋岩	〃 (?)
133	D d e 18	III	7.7 4.6 1.05	39.25	A	II	ロ	あ	P				硬質灰岩	〃
137	D d e 15	III	5.6 5.2 1.1	34.5	B	IV	ロ	う	O				麻細粒珪質凝灰岩	中新統中部
139	D d e 15	II	4.95 3.1 1.1	19.3	B	II	ハ	あ	P				硬質灰岩	中新統上部
140	D d e 15	I	4.6 3.65 1.2	21.65	A	II	?	ホ	あ	O	○		凝灰質珪質灰岩	〃



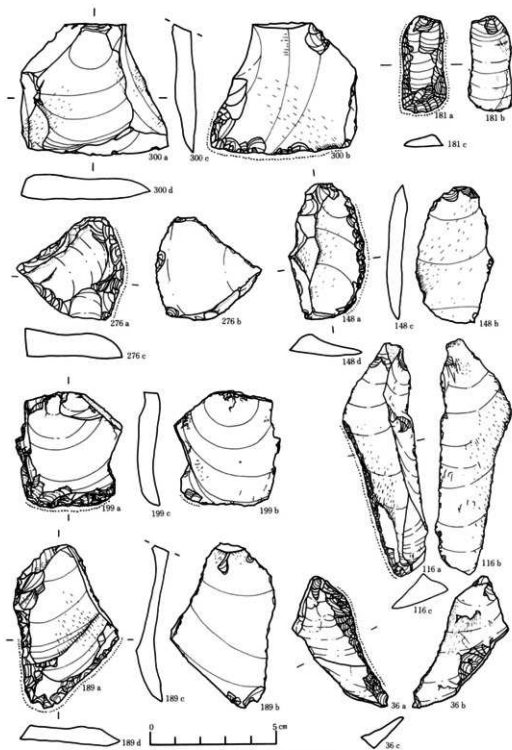
第136图 第9類石器実測図

№	遺構・地点	層序	最大長さ	幅	厚さ	重量	刃部	素材	断面	打割	技法	表皮	刃し	その他	材	質	産出地
144	D d e 15	II	4.45	4.3	1.05	19.15	B	III	I	う		P			流紋岩		中新統上部(?) 奥羽山地
152	D d e 12	II	4.2	3.3	0.8	13.65	B	I	う			P			燧灰岩		中新統上部
156	D d e 06	I	3.1	2.85	1.15	11.8	B	III	ハ	う		P			燧灰質燧灰岩		〃
162	D e f 15	?	4.95	4.2	1.5	25.7	B	II	イ	あ		P			燧灰質燧灰岩		〃
167	D f 8021?	III(1)	4.95	2.1	0.7	9.85	A	II	?	あ		P			燧灰質燧灰岩		〃
170	D f 818	III	5.8	3.1	0.8	17.2	B	II	?	あ		P			燧灰岩		〃
180	D f 818	II	3.65	2.1	0.6	6.2	B	III	イ	う		P	○				〃
182	D f 815	III(1)	5.4	3.9	1.4	29.1	A	I	う	あ	V	P			燧灰質燧灰岩		中新統上部 奥羽山地
188	D f 812	I	3.5	2.7	0.6	6.7	B	I	?	あ		P			燧灰質燧灰岩		〃
191	D f 809	?	5.25	3.7	1.5	23.6	B	I	イ	あ		P					〃
193	D f 809	?	2.65	1.5	0.2	1.35	B	II	?	あ		P			燧灰岩		〃
206	D 821	II	4.4	2.5	0.7	6.75	B	I	?	あ		P	○				〃
214	D h i 18	III	4.35	4.3	1.0	15.15	B	IV	ハ	あ		P	○				〃
217	D h i 15	II	5.6	4.4	2.4	39.5	A	III	ハ	う		P			燧灰質燧灰岩		〃
219	D h i 12	II	7.0	5.2	0.8	26.5	B	II	ハ	あ		P			燧灰岩		〃
227	D j i 15	II	4.7	2.3	0.95	14.15	B	II	?	あ		P					〃
230	D j E a 18	II	4.55	4.1	1.1	23.2	B	IV	?	あ		P					〃
232	D j E a 15	II	7.3	5.1	1.9	62.2	B	I	?	あ		P			細粒流紋岩質燧灰岩		中新統中部
238	E a 15	II	6.65	4.1	1.4	41.7	A	I	う	あ		O			燧灰質燧灰岩		中新統上部
241	E b 12	①	7.7	3.1	1.4	30.65	B	I	う	あ		P			燧灰岩		〃
245	E b 12	④	4.8	2.7	0.8	13.7	A	II	?	あ	?	P			燧灰質燧灰岩		〃
252	E b c 15	⑤	9.1	5.0	1.8	55.0	B	II	イ	あ		P	○		燧灰岩		〃
253	E b c 15	⑦⑧	5.2	4.0	1.1	23.7	A	II	う	あ		P					〃
256	E b c 15	III⑤	4.9	3.9	0.7	14.15	A	I	う	あ		P	○		燧灰質燧灰岩		〃
259	E b c 62	I	3.35	1.7	0.5	3.55	A	III	う			P			流紋岩		中新統上部(?)
261	E b c 68	I	5.9	3.6	1.1	26.15	B	I	イ	あ		P			細粒流紋岩質燧灰岩		中新統中部
262	E b c 68	I	4.5	2.65	1.05	11.3	A	III	イ	う		P			燧灰質燧灰岩		中新統上部
270	E d e 50	III	8.1	4.35	1.3	49.55	A	II	イ	あ		P			細粒流紋岩質燧灰岩		中新統中部
271	E d e 56	II	6.4	4.65	1.3	38.2	B	I	イ	あ	V	P	○		無顆粒状燧灰岩		中新統中部 奥羽山地
272	E d e 56	II	5.2	3.1	0.9	15.3	A	II	ハ	あ		P			燧灰岩		中新統上部
282	E d e 62	I	6.65	4.7	1.1	29.4	B	I	ハ	あ		P	○		燧灰質燧灰岩		〃
293	E f 806	I	5.4	3.3	1.3	21.6	B	I	ニ	あ		P					〃
301	E f 865	III	3.5	2.35	0.5	4.05	A	III	ハ	う		P	○	破			〃
309	E h i 65	I	5.0	2.7	0.75	11.5	B	I	ニ	あ		P	○		燧灰質珪質燧灰岩		〃
319	C e 62住Q,	埋土	5.0	2.3	1.0	13.15	B	III	ホ	う		P	○	破			〃
328	D b 56住Q,		5.1	2.7	0.8	17.85	A	I	う	あ		P					〃
329			5.95	4.6	0.8	23.3	A	II	?	あ		P	○		珪質細粒燧灰岩		〃
336	D e 63住Q,		4.55	3.2	0.4	7.75	A	II	う	あ		P			燧灰質珪質燧灰岩		中新統上部 奥羽山地
340	E b e 62住Q,		5.75	3.85	1.1	21.7	A	III	ニ	う		P	○				〃
350	E c 62住Q,		4.4	2.7	0.75	8.3	A	II	ニ	う		P			燧灰質燧灰岩		〃
351	E c 62住Q,		5.9	3.7	0.8	15.4	B	I	ニ	あ		P			燧灰岩		〃
362	E c 62(新)住Q,		6.9	6.45	1.6	67.1	B	IV	イ	あ		P					〃
364	E d 62住Q,		5.25	4.9	0.95	26.25	B	II	ニ	あ		P			燧灰質燧灰岩		〃
365		Q,	4.9	3.5	1.1	19.15	B	II	イ	あ		P					〃
367		Q,	6.65	2.05	1.6	18.1	A	I	イ	あ	?	P			燧灰質珪質燧灰岩		〃
368		Q,	6.15	4.1	1.2	23.5	A	II	ニ	あ		P			燧灰岩		〃
369		Q,	7.5	3.9	1.7	30.8	B	II	イ	あ		P			燧灰質珪質燧灰岩		〃
370		Q,	8.9	5.55	1.8	103.15	A	I	ニ	い	?	P			燧灰岩		〃
373	E e 65住Q,		6.75	3.2	0.85	14.0	B	II	イ	あ		P			鉄質石英		中新統中部
374	E e 65	埋土	5.1	2.5	0.85	11.5	B	I	イ	あ	V				流紋岩		中新統中-上部 奥羽山地
383	E e 68住Q,		2.9	2.85	1.0	8.15	B	IV	ホ	あ					砂礫岩		〃
500	D e 63住Q,	埋土	9.1	6.8	3.1	165.2	A	I	イ	あ		O					〃

第10類石器 (第137図・図版27) 9類に素材・形態は似るが、刃部形成が片刃的な剥片石器を集めた。総数で307となる。刃部形成の加撃は腹面側からのものが多い。詳細は省略する。なおこの類としたものの一部に使用痕ある剥片も混じる可能性も若干あるが、大部分は刃部が付されたものである。

使用石材は表のとおりである。珪質泥岩類46.5%、硬質泥岩類25.8%と、これら2種が顕著に優越し、流紋岩質凝灰岩類が18%とそれらに次ぐ。その他に若干量の白色細粒凝灰岩・泥質凝灰岩類・淡緑色砂質凝灰岩・白色角礫凝灰岩・流紋岩・松脂岩・鉄質石英なども併用される。この状況は第9類のそれに大略通ずるものといえる。

No.	遺跡・地点	層位	最大径(mm)	重量(g)	材質	産出地	備考
1	Dh68	I	4.3 2.25 1.0	10.7	硬質泥岩	中野線上部 東田山塊	
2	eb01	III	9.1 3.75 1.8	59.8	*	*	*
5	Ce05	I	6.25 4.3 0.95	36.5	凝灰質硬質泥岩	*	*
7	Cr08	II	4.7 3.1 0.4	8.4	流紋岩質凝灰岩	*	*
9	*	*	5.0 3.6 0.9	27.4	硬質泥岩	中野線上部 東田山塊	*
10	*	*	3.5 3.15 0.45	11.0	流紋岩質凝灰岩	中野線中-下部	*
14	Cr04	II	6.55 5.0 1.2	79.1	硬質泥岩	中野線上部	*
15	*	*	2.3 4.15 1.15	28.3	流紋岩質凝灰岩	中野線中-上部	*
19	Ce05	II	5.7 3.9 1.15	23.65	珪質泥岩	数ヶ所中野線上部	*
20	*	*	4.45 4.3 0.5	11.05	*	中野線上部	*
21	*	*	2.6 3.2 1.15	13.45	凝灰質珪質泥岩	*	*
23	*	I	3.5 1.4 0.8	5.0	珪質泥岩	*	*
24	*	II	8.3 4.5 2.0	85.3	*	数ヶ所中-中野線上部	*
25	*	*	4.1 3.3 1.7	24.85	凝灰質珪質泥岩	中野線上部	*
26	*	*	4.0 3.6 1.2	25.0	流紋岩質凝灰岩	中野線中部	*
27	Ce08	I	1.85 4.3 0.95	33.4	硬質泥岩	中野線上部	*
28	Ce07	II	3.7 2.15 0.95	6.75	流紋岩質凝灰岩	中野線中部	*
30	*	*	7.85 4.4 1.5	55.7	流紋岩質凝灰岩	中野線上部(?)	*
31	*	*	9.0 5.1 2.0	50.85	流紋岩質凝灰岩	〔二次的に付着〕中野線中部	*
32	Cr15	*	3.55 3.4 0.8	6.05	凝灰質珪質泥岩	中野線上部	*
35	CeM2	I	3.65 3.05 0.75	9.0	珪質泥岩	中野線中-上部	*
36	CeM2	I	5.9 2.1 0.5	8.6	珪質泥岩	数ヶ所中-中野線上部 東田山塊	*
41	Cr04	II	4.7 3.05 1.0	11.25	凝灰質珪質泥岩	中野線中部	*
42	Cr03	I	6.5 4.9 1.2	26.2	流紋岩質凝灰岩	中野線中部(?)	*
44	Cr12	II	4.0 2.4 0.9	11.05	凝灰質硬質泥岩	中野線上部	*
47	Cr08	I	3.95 2.9 1.0	5.4	流紋岩質凝灰岩	中野線中部	*
49	Cr02 遺灰	層位	3.5 2.6 0.7	5.25	凝灰質珪質泥岩	中野線上部	*
50	Cr04	I	4.0 3.0 1.05	19.4	珪質泥岩	*	*
51	Cr08	I	4.5 3.4 1.1	15.5	*	*	*
52	Cr03	I	7.1 4.1 1.5	56.35	凝灰質珪質泥岩	*	*
53	Cr08	I	5.7 2.5 0.85	18.85	流紋岩質凝灰岩	中野線中部	*
54	*	*	4.3 3.0 1.2	13.95	*	*	*
55	*	*	4.1 3.5 0.8	5.65	珪質泥岩	中野線上部	*
56	Cr04 遺灰	Q9	5.7 2.1 0.8	8.45	凝灰質珪質泥岩	中野線中部	*
57	Cr04b	II	5.45 3.9 1.1	29.4	白色凝灰岩質珪質泥岩(鉄質石)	中野線中部	*
58	*	*	4.35 3.6 0.9	17.45	流紋岩質凝灰岩	*	*
60	*	*	9.4 4.2 1.7	169.3	硬質泥岩	中野線上部	*
61	Cr04b	II	4.4 3.4 0.4	8.1	凝灰質硬質泥岩	*	*
62	*	*	4.0 2.55 0.7	7.15	*	*	*
63	*	I	4.0 2.3 1.05	9.05	凝灰質珪質泥岩	*	*
64	*	*	4.4 2.2 1.5	13.7	流紋岩質凝灰岩	中野線中部	*
65	*	*	3.2 2.25 0.8	6.05	珪質泥岩	中野線上部	*
67	Cr04b	II	4.1 1.3 0.6	3.2	凝灰質珪質泥岩	中野線上部 東田山塊	*
68	Cr04b	*	5.2 3.4 1.0	16.1	硬質泥岩	*	*
69	*	*	4.7 3.9 0.9	14.55	凝灰質珪質泥岩	*	*
70	*	*	3.6 2.6 1.05	10.45	珪質泥岩	*	*
71	Cr04b	I	5.7 3.3 1.2	21.0	凝灰質硬質泥岩	*	*
72	Dh18	II	5.85 3.85 1.0	18.1	白色凝灰岩質珪質泥岩(鉄質石)	中野線中部	*
74	Dh18	*	4.8 2.7 0.95	10.95	珪質泥岩	中野線上部	*
75	Dh42-45	I	7.7 3.5 1.4	60.45	凝灰質硬質泥岩	*	*
76	Dh45	I	3.3 2.9 0.9	5.9	珪質泥岩	*	*
77	*	*	4.4 4.0 0.9	21.15	凝灰質珪質泥岩	*	*
78	*	*	5.3 5.1 0.9	21.85	硬質泥岩	*	*
79	Dh47	II	10.15 6.7 0.9	62.75	凝灰質硬質泥岩	*	*
80	Dh12	*	11.05 3.0 1.6	58.5	凝灰質珪質泥岩	*	*
81	*	*	5.95 2.9 1.35	26.7	硬質泥岩	中野線中部	*
82	*	*	3.7 2.75 0.8	9.75	流紋岩質凝灰岩	中野線中部	*
83	*	*	8.25 2.7 1.65	62.3	白色角礫凝灰岩	中野線上部	*
84	*	*	3.9 2.2 0.7	7.85	珪質泥岩	*	*
87	Dh49	*	3.4 1.25 0.6	3.4	*	*	*



第137图 第10期石器实例图

No	遺構・地点	層位	最大長さ m			重量	材 質	産 出 地	そ の 他
			幅	厚	径				
88	*	*	8.0	3.95	0.4	6.3	凝灰質珪質泥岩	*	*
90	Db59	埋土	3.6	2.7	0.8	9.15	*	*	*
91	*	*	6.5	3.9	1.35	28.0	凝灰質硬質泥岩	*	*
92	Db59	埋土	32.4	6.8	1.65	120.15	凝灰質硬質泥岩	*	*
93	Db71	II	5.85	1.55	0.7	5.85	珪質泥岩	*	*
94	Dbc21	I	5.35	5.1	0.9	22.4	凝灰質硬質泥岩	*	*
95	*	*	6.25	5.1	1.65	68.1	珪質泥岩	*	*
96	*	*	5.85	4.4	1.4	32.95	*	*	*
97	*	*	4.4	2.5	0.55	7.1	凝灰質珪質泥岩	*	*
98	Dbc18	III L	6.4	4.8	0.95	32.4	珪質泥岩	*	*
100	*	I	5.3	2.75	0.6	9.9	凝灰質珪質泥岩	*	*
102	*	*	2.8	2.7	0.75	6.6	*	*	*
103	*	III(I)	4.8	1.6	1.05	9.5	*	*	*
105	Dbc15	II M	4.6	4.1	1.0	19.05	*	*	*
106	*	I	6.9	4.7	0.85	30.3	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中部	*
107	*	II	7.8	6.6	0.95	51.6	珪質泥岩	中新統上部	*
108	*	I	3.7	2.2	1.1	7.2	凝灰質珪質泥岩	*	*
109	Dbc12	*	5.25	3.5	2.0	29.0	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中部	*
110	*	*	3.8	3.7	0.8	13.0	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	*
111	*	*	4.0	2.2	1.1	7.2	凝灰質硬質泥岩	*	*
113	*	II	3.5	2.65	1.0	8.6	凝灰質珪質泥岩	*	*
114	*	I	3.7	2.7	0.7	6.95	*	*	*
116	Dbe09	II U	9.15	2.6	0.9	19.9	珪質泥岩	*	*
118	Dbc53	I	4.7	3.5	0.95	19.95	*	新第三系中新統上部	*
120	Dbe68	I	5.0	2.85	1.4	22.2	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	*
121	Dc18	III(I)	32.7	7.4	3.5	285.95	流紋岩質凝結凝灰岩	*	*
123	Dd06	II	4.95	3.2	1.3	21.1	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
124	Dde21	*	7.5	4.45	1.5	35.4	凝灰質硬質泥岩	中新統上部	*
125	Dde18	I	3.9	1.9	0.6	5.4	凝灰質珪質泥岩	*	*
126	*	*	7.8	4.1	1.9	62.0	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中部	*
127	*	*	6.75	4.8	1.2	30.2	凝灰質硬質泥岩	中新統上部	*
129	*	*	6.35	3.5	0.9	26.9	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	*
132	*	II	4.0	2.5	1.0	7.5	*	*	*
134	*	*	7.3	2.85	0.8	16.25	流紋色細砂質凝灰岩	中新統中部	*
135	*	I	3.75	2.25	0.8	9.2	珪質泥岩	中新統上部	*
136	*	III	6.45	4.9	1.05	34.3	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
138	*	II	3.7	3.45	1.3	23.7	*	*	*
141	*	*	3.6	2.85	1.05	14.3	珪質泥岩	中新統上部	*
142	*	*	4.1	2.0	0.55	6.15	凝灰質珪質泥岩	*	*
143	*	*	2.9	1.2	0.7	2.1	珪質泥岩	*	*
145	*	I	4.65	3.8	1.3	21.65	凝灰質珪質泥岩	*	*
146	Dde12	*	4.7	4.5	2.0	38.55	凝灰質硬質泥岩	*	*
147	*	III(I)	4.95	3.35	1.05	21.8	凝灰質珪質泥岩	*	*
148	*	III	5.3	2.7	0.85	10.8	凝灰質硬質泥岩	*	*
149	*	*	4.35	1.7	0.7	5.8	珪質泥岩	*	*
150	Dde12	III	6.1	4.6	1.4	43.75	凝灰質硬質泥岩	*	*
153	Dde09	*	4.0	3.1	0.6	10.1	硬質泥岩	*	*
154	*	*	6.55	5.0	1.35	48.05	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中部	*
155	*	*	4.5	2.6	0.6	9.6	珪質泥岩	新第三系中新統上部	*
157	Dde06	I	4.25	3.2	1.25	15.3	凝灰質珪質泥岩	*	*
158	*	III	7.7	4.7	2.35	96.05	凝結岩	中新統中～上部	*
159	Dde68	II	6.6	3.8	1.55	40.05	硬質泥岩	中新統上部	*
160	Dde21	*	6.55	6.05	1.3	48.65	流紋岩質凝結凝灰岩	*	*
164	Df21	*	8.15	5.3	2.0	75.55	*	*	*
165	*	*	5.85	4.0	0.8	19.0	珪質泥岩	*	*
166	Df18	*	5.7	2.7	1.1	12.1	凝灰質珪質泥岩	*	*
168	Dfg21	III(I)	5.65	1.95	0.45	5.85	珪質泥岩	新第三系中新統上部	*
169	*	*	4.8	4.2	1.15	26.3	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統上部	*
171	Dfg18	*	3.85	3.6	0.85	16.8	凝灰質珪質泥岩	*	*
172	*	II	7.9	6.1	1.65	63.15	凝灰質硬質泥岩	*	*

№	遺跡・地点	層位	最大長 たは幅 の長さ	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
174	*	Ⅲ	6.8 3.8 1.9	37.6	硬質灰岩	*	*
175	*	*	5.4 2.1 0.65	10.4	緑色麻細粒凝灰岩(珪化)	中新統中部	*
176	*	Ⅱ	6.2 4.3 1.3	12.8	凝灰質硬質灰岩	中新統上部	*
177	*	Ⅲ	7.05 3.55 0.9	25.8	*	*	*
178	*	Ⅱ	6.8 6.72 1.4	52.6	凝灰質凝結凝灰岩	*	*
179	*	Ⅲ20	3.8 3.4 0.9	12.6	珪質灰岩	*	*
181	Dfg15	I	3.8 1.7 0.5	4.45	珪質灰岩	*	*
183	*	Ⅱ	6.45 4.0 0.75	18.8	*	*	*
184	*	*	3.25 2.9 0.6	4.45	凝灰質珪質灰岩	*	*
185	*	Ⅲ	4.15 2.8 0.8	9.5	珪質灰岩	新第三系中新統上部	*
186	*	Ⅱ	8.2 4.0 0.6	32.3	凝灰質珪質灰岩	*	*
187	Dfg12	I	6.5 3.1 1.05	24.8	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統上部(?)	*
189	*	*	4.2 2.8 0.7	6.5	*	*	*
192	Dfg09	I	3.1 3.1 0.7	8.3	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
194	Dfg06	Ⅱ U	5.95 2.7 1.0	13.1	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	*
195	*	Ⅱ	4.3 2.45 0.7	7.1	珪質灰岩	新第三系中新統上部	*
196	*	I	3.9 1.85 0.5	5.15	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	*
197	*	*	5.35 3.0 2.0	24.0	凝灰質硬質灰岩	*	*
198	*	Ⅱ U	3.35 3.15 0.85	11.5	珪質灰岩	新第三系中新統上部	*
199	Dfg03	I	4.5 3.9 0.8	20.4	*	*	*
200	Dfg53	I	3.85 1.5 0.5	2.9	硬質灰岩	中新統上部	*
201	Dfg09	Ⅱ U	3.9 2.6 0.55	6.4	凝灰質硬質灰岩	*	*
202	Dfg08	I	4.6 3.0 0.6	7.8	硬質灰岩	*	*
203	Dg21	Ⅱ	8.1 5.2 2.4	72.2	凝灰質珪質灰岩	*	*
204	*	*	8.0 4.1 1.35	24.4	硬質灰岩	*	*
205	*	*	7.9 6.0 2.4	93.2	*	*	*
207	*	*	3.3 2.3 0.3	2.3	凝灰質珪質灰岩	*	*
208	Dh18	Ⅱ	7.6 4.8 1.45	47.3	硬質灰岩	*	*
210	D b 5 6 住 Q ₁	埋土	7.8 2.9 1.5	29.45	*	*	*
211	Dh18	Ⅲ	5.8 3.3 0.8	16.2	珪質灰岩	新第三系中新統上部	*
212	*	Ⅱ	4.3 3.65 1.0	18.95	*	*	*
213	*	Ⅲ	5.3 3.55 1.25	21.1	*	*	*
215	*	*	6.4 4.0 1.6	37.3	凝灰質珪質灰岩	*	*
216	*	Ⅱ	8.8 4.65 1.7	65.7	凝灰質硬質灰岩	*	*
218	Dh15	I	7.4 4.85 1.3	51.7	凝灰質珪質灰岩	*	*
220	Dh50	*	2.55 1.7 0.6	2.3	珪質凝結凝灰岩	中新統中部	*
221	*	*	3.65 1.35 0.85	3.75	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	*
222	Dh62	*	4.85 2.5 0.75	8.4	硬質灰岩	*	*
224	Dj15	Ⅱ	4.0 3.0 0.85	10.45	凝灰質珪質灰岩	*	*
226	*	*	4.3 3.55 1.15	15.7	*	*	*
228	Dj15	*	2.45 2.3 0.75	3.25	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
229	DjEa18	I	5.2 3.55 1.2	17.85	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	*
231	*	Ⅱ L	9.45 5.2 1.7	63.7	凝結珪質凝灰岩	中新統中部	*
232	DjEa15	Ⅱ	5.2 2.2 1.1	16.25	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	*
234	DjEa03	I	5.55 3.6 2.1	32.85	*	*	*
235	*	Ⅱ	4.75 4.65 1.2	20.3	硬質灰岩	*	*
236	DjEa56	I	3.85 2.75 0.85	7.8	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
237	DjEa59	*	4.25 4.1 0.9	12.1	硬質灰岩	中新統上部	*
239	Eh12	Ⅱ	5.85 4.2 1.1	28.15	凝灰質珪質灰岩	*	*
240	*	Ⅲ(1)	5.0 3.5 1.2	23.25	珪質灰岩	新第三系中新統上部	*
243	*	Ⅱ	7.4 4.35 2.5	65.05	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中部	*
244	*	*	5.5 3.8 0.75	15.4	硬質灰岩	中新統上部	*
246	*	Ⅲ(1)	5.4 3.9 1.3	21.4	流紋岩質凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
247	*	Ⅱ	5.05 2.1 0.45	7.65	硬質灰岩	中新統上部	*
248	Eb62	I	4.85 1.5 1.05	9.8	珪質灰岩	*	*
249	*	*	4.65 2.2 1.05	12.5	凝灰質硬質灰岩	*	*
251	Ebc15	Ⅲ	8.0 5.95 2.8	94.5	*	*	*
254	*	Ⅲ(4)	6.45 4.85 1.9	40.5	凝灰質珪質灰岩	*	*
256	*	Ⅲ(5)	6.5 4.9 1.4	45.7	凝灰質硬質灰岩	*	*
257	Ebc12	Ⅲ(5)	3.3 2.95 0.5	4.9	凝灰質珪質灰岩	*	*

No.	道標・地点	層位	最大 径 cm	重量 g	材 質	産 出 地	そ の 他
258	Ebc62	I	4.2 3.3 1.3	16.2	凝灰質硬質泥岩	中新統上部	奥羽山地
260	"	"	4.2 3.45 0.9	14.35	"	"	"
263	"	"	5.8 3.5 1.3	30.85	凝灰質珪質泥岩	"	"
264	Ec56-59	"	3.5 2.6 0.85	7.85	珪質凝結砂凝灰岩	中新統中部	"
265	Ec62 住 Q ₁	埋土	3.65 3.45 1.0	14.75	珪質泥岩	中新統上部	"
266	Ed59	II	5.4 4.50 0.7	16.9	凝灰質珪質泥岩	"	"
267	Ed62 住 Q ₁	埋土	3.3 2.3 0.5	3.3	"	"	"
268	"	"	4.3 4.2 1.0	18.6	珪質泥岩	"	"
269	Ed59	III	8.9 4.0 1.9	40.50	硬質泥岩	"	"
273	Edc59	I	5.8 5.25 1.3	46.2	凝灰質珪質泥岩	"	"
274	"	"	5.2 4.05 0.1	18.05	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中部	"
276	"	"	4.2 4.15 1.05	16.25	珪質泥岩	新第三系中新統上部	"
277	"	"	6.0 2.8 0.95	20.05	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
278	"	"	4.05 3.65 1.5	13.65	"	"	"
279	"	"	3.65 3.2 1.0	7.4	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	"
280	"	"	8.35 6.7 1.6	114.1	珪質泥岩	新第三系中新統上部	"
281	Edc62	"	10.0 7.6 1.6	121.1	"	"	"
283	"	"	3.5 2.4 0.6	6.7	珪質泥岩	"	"
284	Edc65	"	4.8 4.4 1.3	30.19	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
285	"	"	2.7 2.3 0.9	5.2	珪質泥岩	中新統上部	"
286	"	"	4.0 2.5 1.2	5.75	凝灰質珪質泥岩	"	"
287	"	"	2.3 2.1 0.25	1.85	"	"	"
288	Edc68	"	7.5 5.3 1.7	60.75	硬質泥岩	"	"
290	Ee68 住 Q ₁	埋土	3.85 3.7 1.4	17.7	珪質凝結砂凝灰岩	中新統中部	"
291	Ec71	I	3.25 1.9 0.5	4.05	硬質泥岩	中新統上部	"
292	Efg66	"	5.8 3.7 1.8	45.75	凝灰質珪質泥岩	"	"
294	"	"	3.3 1.9 0.7	3.5	珪質泥岩	"	"
295	"	"	5.7 3.35 1.65	35.3	凝結砂珪質凝灰岩(鉄質石英)	中新統中部	"
296	Efg66	"	9.7 5.1 1.75	104.05	凝結砂凝灰岩	中新統上部	"
297	Efg59	"	5.75 2.55 1.7	19.3	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
298	Efg65	II	9.1 6.15 1.65	73.7	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中部	"
299	"	"	5.75 2.5 0.8	10.15	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	"
300	"	II S	5.65 5.2 1.05	34.95	"	"	"
302	Efg68	I	7.6 4.6 1.4	51.2	硬質泥岩	"	"
303	Efg68 -71	"	5.15 2.5 1.7	33.9	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
304	Efg71	"	5.1 3.05 0.85	15.7	硬質泥岩	中新統上部	"
305	"	"	5.45 2.3 1.35	14.0	珪質泥岩	"	"
306	"	"	4.85 2.3 0.75	12.0	"	"	"
307	"	II	4.3 3.7 0.9	17.8	"	新第三系中新統上部	"
308	"	"	4.55 2.6 0.65	6.8	凝灰質珪質泥岩	"	"
310	Eha65	I	4.7 4.0 1.45	21.9	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統上部(?)	"
311	"	"	4.9 4.1 0.9	21.0	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	"
312	Eh165 溝 状	埋土	4.9 3.45 0.85	14.3	硬質泥岩	"	"
313	Eha68	II	4.3 4.0 0.6	12.2	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
314	Eh171	I	3.85 2.4 0.95	8.6	硬質泥岩	中新統上部	"
315	"	"	5.4 3.8 0.9	21.55	流紋岩質凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
316	"	"	3.5 3.1 0.65	7.65	凝灰質硬質泥岩	"	"
317	"	II	7.0 6.1 0.5	24.9	"	"	"
318	Cc62 住	床面	7.65 5.1 1.8	64.9	凝灰質珪質泥岩	"	"
320	" Q ₁	埋土	4.05 2.85 0.65	5.75	"	"	"
321	Cb65 住	床面	5.75 3.3 0.9	17.65	"	"	"
322	C165 住 Q ₁	埋土	6.75 5.05 1.4	55.15	凝灰質珪質泥岩	中新統上部	"
323	Ch59 住	床面	9.1 4.9 2.9	117.7	硬質泥岩	"	"
324	C165 住 Q ₁	埋土	5.0 1.55 0.7	4.4	"	"	"
325	Dh56 住 Q ₁	"	4.9 3.2 1.0	11.25	珪質凝結砂凝灰岩	中新統中部	"
326	"	"	3.7 3.4 1.4	12.65	珪質泥岩	中新統上部	"
327	"	"	5.9 4.85 3.05	85.8	凝灰質硬質泥岩	"	"
330	" Q ₁	"	8.15 3.2 1.1	26.15	硬質泥岩	"	"
331	"	"	5.7 4.2 1.0	22.4	白色凝結砂凝灰岩	中新統中～上部	"
332	" Q ₁	"	4.95 3.35 0.75	8.9	"	"	"

No	遺構・地点	層位	最大長 cm	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
333	De06 住	埋土	6.9 5.8 1.05	34.7	凝灰質硬質灰岩	中新統上部 豊田山地	
334	"	"	7.0 2.0 1.0	11.5	"	"	"
335	"	床面	3.15 3.0 0.7	3.9	"	"	"
337	Ec62 住	埋土	9.45 5.6 1.75	57.2	硬質灰岩	"	"
338	" Q ₁	"	4.5 3.6 1.6	19.3	凝灰質珪質灰岩	"	"
339	" Q ₂	"	5.95 4.05 1.75	32.35	"	"	"
341	" Q ₃	"	7.2 4.9 1.5	39.3	凝灰質硬質灰岩	"	"
342	" (2)	床面	3.95 2.4 1.25	10.8	鉄質石英	中新統中部	"
343	" Q ₄	埋土	4.2 2.85 0.4	5.3	黄褐色礫粒珪質凝灰岩	"	"
344	" Q ₅	"	4.85 3.45 1.35	18.8	硬質灰岩	中新統上部	"
345	"	"	8.2 6.75 2.05	119.8	白色細粒凝灰岩	中新統中～上部	"
346	"	"	3.7 2.1 0.5	4.1	硬質灰岩	中新統上部	"
347	Ec62 住	埋土	2.75 1.2 0.5	1.8	珪質灰岩	"	"
352	" Q ₁	"	5.15 4.6 1.9	36.7	凝灰質珪質灰岩	"	"
353	" Q ₂	"	4.5 3.8 1.7	23.6	"	"	"
354	" Q ₃	"	5.0 2.3 1.0	9.75	珪質灰岩	"	"
356	" Q ₄	"	4.1 2.3 1.05	6.3	黄褐色珪質礫粒凝灰岩	"	"
357	" Q ₅	"	4.8 3.25 0.9	13.9	"	"	"
358	"	"	6.1 3.9 2.65	52.5	"	"	"
359	"	"	3.85 2.75 0.65	5.8	凝灰質珪質灰岩	中新統上部 豊田山地	"
360	"	"	8.1 5.35 1.65	58.0	"	"	"
361	"	"	4.1 2.9 0.9	11.5	"	"	"
363	Ed62 住	"	7.75 4.0 1.5	40.0	凝灰質硬質灰岩	"	"
366	" Q ₁	"	5.6 4.0 0.4	11.1	"	"	"
371	Ed65 住	"	9.0 7.6 1.7	58.65	"	"	"
372	E*65 住	"	12.6 4.4 2.1	97.0	流紋岩質礫粒凝灰岩	中新統中～上部	"
375	" Q ₁	"	7.15 5.6 1.45	59.15	"	"	"
376	" Q ₂	"	7.9 4.25 1.2	26.2	凝灰質硬質灰岩	中新統上部	"
377	" Q ₃	"	5.35 3.7 0.85	20.0	珪質灰岩	"	"
378	" Q ₄	"	2.6 2.1 1.05	4.7	粉砂岩	"	"
379	"	"	4.1 2.2 4.5	5.85	凝灰質硬質灰岩	中新統上部	"
380	"	"	5.6 2.4 1.0	10.8	珪質灰岩	"	"
381	" Q ₅	"	5.7 3.85 0.95	20.2	白色細粒珪質凝灰岩	"	"
382	Ed68 住	埋土	8.8 6.1 1.3	45.5	珪質灰岩	中新統上部 豊田山地	"
384	" Q ₁	"	5.8 1.9 0.8	7.4	黄褐色礫粒珪質凝灰岩	"	"
385	" Q ₂	"	7.2 3.7 1.3	31.9	硬質灰岩	中新統上部 豊田山地	"
386	"	"	6.15 5.2 1.4	35.8	珪質細粒凝灰岩	"	"
387	表層	"	3.4 3.15 1.3	15.1	凝灰質珪質灰岩	"	"
388	"	"	5.5 2.0 0.95	10.5	白色細粒凝灰岩	中新統中～上部	"
389	"	"	5.55 3.8 1.25	20.55	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	"
390	"	"	3.95 2.8 0.6	5.7	"	"	"
391	不明	"	3.2 1.55 0.45	3.2	"	"	"
392	"	"	3.45 1.15 3.5	1.3	"	"	"
393	"	"	4.3 2.2 1.0	12.25	流紋岩質礫粒凝灰岩	中新統中～上部	"
394	"	"	3.7 2.5 0.55	6.45	珪質灰岩	中新統上部	"
395	"	"	2.85 2.2 0.4	2.7	流紋岩質礫粒凝灰岩	中新統中～上部	"
396	"	"	6.2 3.8 1.65	29.8	珪質灰岩	中新統上部	"
397	"	"	3.1 2.15 0.9	6.1	流紋岩質礫粒凝灰岩	中新統中～上部	"
398	"	"	4.7 4.5 1.3	23.25	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	"
399	"	"	3.95 1.5 0.7	4.15	"	"	"
400	"	"	2.0 1.7 0.45	2.65	流紋岩質礫粒凝灰岩	中新統中～上部	"
401	"	"	3.25 1.4 0.55	3.1	凝灰質珪質灰岩	中新統上部	"
402	"	"	4.1 1.65 0.6	3.85	"	"	"
403	"	"	2.2 2.0 0.75	2.2	"	"	"
404	不明	"	2.6 1.75 0.65	3.7	珪質灰岩	"	"
405	"	"	2.85 1.3 0.65	1.5	凝灰質珪質灰岩	"	"
406	"	"	3.15 2.0 0.4	3.0	凝灰質硬質灰岩	"	"
407	"	"	2.7 2.1 0.6	3.25	流紋岩質礫粒凝灰岩	中新統中～上部	"
408	"	"	2.1 1.65 0.4	1.4	流紋岩質礫粒凝灰岩	"	"
409	"	"	2.1 1.3 0.4	1.7	流紋岩質礫粒凝灰岩	"	"

No.	遺構・地点	層位	最大長 たてばり	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
410	不明		2.3 1.2 0.6	1.6	流紋岩質極細粒凝灰岩	中新統上部 奥羽山地	
411	*		1.8 1.1 0.3	0.8	"	"	"
412	*		1.6 0.6 0.2	0.25	"	"	"
413	*		1.8 1.2 0.45	1.3	"	"	"
414	*		1.1 1.0 0.2	0.25	流紋岩質極細粒凝灰岩	"	"
415	*		1.05 0.85 0.25	0.2	流紋岩質極細粒凝灰岩	"	"
416	Df09 住	住床	5.0 1.85 0.8	8.2	凝灰岩硬質泥岩	中新統上部	"

第12類石器 (第138図・図版27) 所謂磨製石斧であり、打割・削・掘削具的な機能をもつ。6点得たが、完全品に近いものは1例のみである。欠失部位には、体部上半3、下半1、両者1などの例がある。残存部から類推すると、その形態には斉一性がある。即ち平面形は所謂定角式に近い。横断面形態は楕円形乃至隅丸長方形を呈す。体部側縁の稜線は比較的明瞭である。刃部残存例は、基底辺が明白に外湾するもののみである。完全品に近いNo.8の刃部のみに、使用によると思われる刃こぼれがあるが、これも本来は刃部外湾タイプのものであつたろう。側面観は、刃部が体部の(厚みの)ほぼ中央にくるもの多数と、いずれか一方に偏するもの少数の二者からなる。後者に前述の刃こぼれが見られる。それは刃部縁辺にほぼ沿っている。

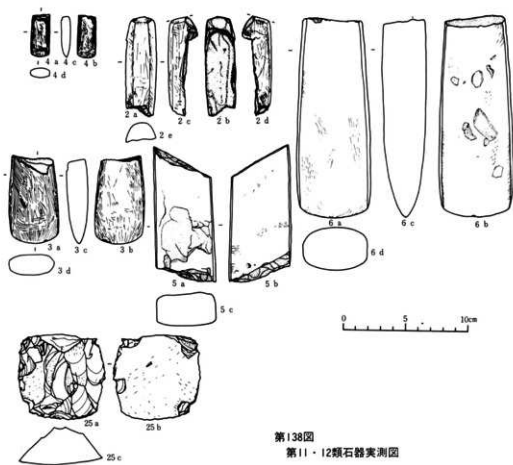
この現象と既述の刃こぼれ現象を考慮すると、後者の機能に斧(axe)以外のもの、たとえば鉞・手斧(adze)的なそれを想定しようとも考えられる。今後も検討の必要があらう。

No.4は極めて小型であり、通常の斧的な用途に用いられたとは考えられない。あるいは鑿的なものでもあつたろうか。この種石器は縄文時代各期に存在するものであり、その正当な位置づけがまたれる。

器表面の研きだしの方向には種々あるが、少くとも刃部においては短軸方向が多い。その他の部分ではかなり自由な方向となっている。

使用石材は硬質泥岩・淡緑色極細粒凝灰岩・泥質細粒凝灰岩・輝緑凝灰岩・プロピライトなどが選択されているが、顕著な傾向性は指摘できない。細粒凝灰岩が若干多い点は目立つ。

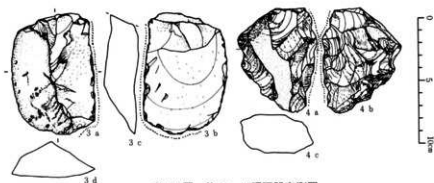
No.	遺構・地点	層位	最大長 たてばり	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
2	Da15	II	7.9 2.4 2.2	52.1	泥質細粒凝灰岩	中新統中～上部 奥羽山地	砥
3	Dde9	III	7.0 3.9 1.65	82.1	淡緑色極細粒凝灰岩	"	"
4	Df21	III	3.35 1.5 0.75	7.4	泥質細粒凝灰岩	中新統中～上部 奥羽山地	" 小型品
5	Ebc123i		9.6 4.7 2.5	200.6	硬質泥岩	中新統上部	"
6	Ef65	II	15.9 6.0 3.3	573.0	プロピライト	中新統中部(?)	"
8	Ed63Q.	住床	15.95 6.25 2.5	537.0	輝緑凝灰岩	古生界	定 adze 的



第138図
第11・12類石器実測図

第13・14類石器 (第139図・図版29) おそらくは柄を付さずに用いられ、打製石斧といえるほどの定形性ももたない両刃石器(13類)、片刃石器(14類)的な礫石器、大型剥片石器をまとめた。旧石器時代以来存在し続けた、もっとも実質的・機能的石器の一つである。

第13類は硬質泥岩類・凝灰質珪質泥岩・粘板岩類・極細粒珪質凝灰岩・流紋岩質細粒凝灰岩・流紋岩などが選択使用されている。第14類は硬質泥岩類が55.5%ともっとも多用され、他に粘板岩ホルンフェルス・白色細粒凝灰岩・極細粒珪質凝灰岩などが若干量用いられる。両類の石材利用状況には、共通性が高いといえるであろう。



第139図 第13・14類石器実測図

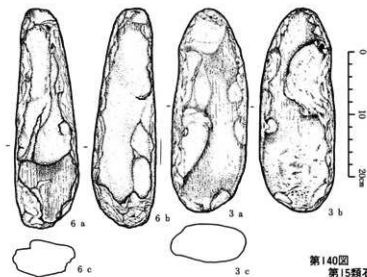
No.	遺構・地点	層位	最大長 たてよこ厚さ cm	重量	材質	産出地	その他
1	CjDa12	I	5.75 4.4 2.6	57.0	珪質細粒凝灰岩	中新統中部 奥羽山地	
2	Dhc15	II	10.3 6.7 4.15	229.3	凝灰質硬質泥岩	中新統上部 *	
4	Dde18	III	8.5 7.0 3.15	182.0	硬質泥岩	" "	
5	Dj15	II	8.95 4.4 1.85	106.8	粘板岩ホルンフェルス	古生帯 北上山地?	
7	E c 6 2 位 Q ₁	埋土	10.15 6.15 4.7	317.1	流紋岩	中新統中～上部? 奥羽山地	
8	" Q ₂	"	9.6 7.35 3.35	175.9	凝灰質珪質泥岩	中新統上部 *	
9	Ee65 位 床面	床面	8.15 5.9 3.5	128.9	流紋岩質細粒凝灰岩	中新統中～上部 *	
10	E c 6 8 位 S ₁	"	11.75 8.5 7.75	812.0	粘板岩		

No.	遺構・地点	層位	最大長 たてよこ厚さ cm	重量	材質	産出地	その他
1	Dhi18	赤土直 上面	10.5 7.0 4.2	252.0	珪質細粒凝灰岩	中新統上部 奥羽山地	
2	"	"	9.05 6.9 5.3	175.6	白色細粒凝灰岩	中新統中～上部 *	
3	DjEa18	深堀	9.8 9.45 6.2	500.0	硬質泥岩	中新統上部 *	
4	Eb12	III	9.75 6.5 2.9	183.5	"	" "	
6	Ede50	?	17.1511.5 5.1	1280.0	粘板岩ホルンフェルス	古生帯 北上山地	
7	Efg68	?	8.9 6.3 1.8	108.1	"	" "	
8	Df53	埋土	12.8 9.05 7.3	836.0	硬質泥岩	中新統上部 奥羽山地	
9	E c 6 7 位 Q ₁	"	9.25 7.6 2.85	192.7	"	" "	

第15類石器 (第140図・図版28) 長楕円形に近いやや扁平な礫の長軸方向の両側縁に、敲打によると思われる破砕痕・破砕部をもつ。形状は12類に類似し、かつその表面が研磨されている可能性をもつものもあり、12類の転用品の可能性もある。両側縁の破砕部は広範囲に及ぶ。その点をとらえ、鵜石的なものとみなされるべきかもしれない。

材質は緑色凝灰岩・プロピライトの二種である。後者は第12類の磨製石斧にも用いられている。

No.	遺構・地点	層位	最大長 たてよこ厚さ cm	重量	材質	産出地	その他
3	DjEa18	II	9.8 9.45 6.2	500.0	緑色凝灰岩	中新統中部 奥羽山地	
6	Ede50	?	17.1511.5 5.1	1280.0	プロピライト	中新統中～下部 *	

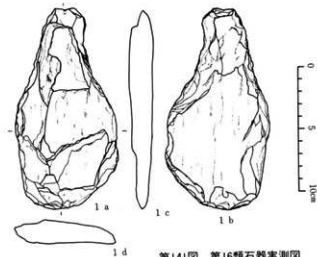


第140図
第15類石器実測図

第16類石器(第141図・図版27) 疑問ある1例を含め2を得た。石鏃の仲間であろう。No.1は刃(体)部と茎(柄着装部)の分化が明白なものである。刃部は見ようによっては若干片刃的につくり出されている。刃部と茎部両側縁に細破砕痕が顕著に見られる。刃部は背面中央に軽い盛り上がりが見られ、腹面はほぼ平坦である。以上のことからこの種資料が、柄を手斧風に装着され使用に供された鏃的なものとする従来の見解は妥当であろう。

No.7は平面形がブーメラン状をなし、石鏃的ではないが、使用素材の類似をもってここにふくめた。内湾部・外湾部の両者に細破砕痕が見られる。鋤先あるいは搔器の類であろうか。

石材は層灰岩のみである。2例しか得られていないので強弁はしないが、この限定選択は特徴としうる可能性をもとう。



第141図 第16類石器実測図

No	遺構・地点	層位	最大長さ だてはこ の厚さ	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
1	Cg59	II S	36.0 8.1 2.0	283.1	緑褐色層灰岩	中新統中部 奥羽山地	完
7	E c 62 住 Q ₁	II	31.8 4.7 1.05	85.5	*	*	*

第17類石器 (E c 62住居跡参照) 板状の素材の長軸方向の縁辺に破砕部を有するものである。それは敲打によると思われ、また一端が若干細くなり、あたかも把手状のつくり出し(?)が見られることなどから、敲打器(槌石)の一種なる可能性がある。その点は15類に共通する。先端部に成形(?)の痕とも思われる研磨痕が見られる。これも共通する要素である。3個か。

使用材質は粘板岩・硬砂岩・珪化木の三種のみである。板状に割れやすい、あるいは既に割れていた素材の選択利用の反映であろうか。

No	遺構・地点	層位	最大長さ だてはこ の厚さ	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
13	Ee68 住	床面	32.0 7.15 3.7	815.0	硬砂岩	古生界 北上山地?	半製品
14	*	*	21.9 4.3 2.9	193.05	珪化木	中新統上部 奥羽山地	同一個体 破損 (接合) (14-22)
17	*	*	5.8 5.0 1.45	41.6	*	*	
19	*	*	32.0 3.75 2.05	89.05	*	*	
20	*	*	19.0 7.2 4.0	573.0	*	*	
21	*	*	5.0 3.2 1.0	13.75	*	*	
22	*	*	4.5 1.7 0.4	2.45	*	*	
15	*	*	39.85 4.85 1.25	67.25	粘板岩		
16	*	*	22.1 5.3 2.0	308.7	*	*	
18	*	*	31.5 4.45 1.0	56.0	*	*	

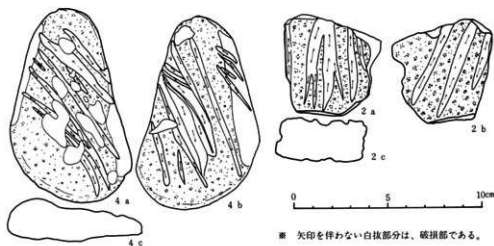
第18類石器 (第142図・図版28) その表面に、研磨作業の結果生じたと思われる複数の条溝をもつ、粗い材質の礫である。所謂砥石であろう。完全品・破損品の判別は困難であるが、明らかに完全品とみなしうるものも1例ある。総数5である。

いずれも板状に近いが、平面形態に二種ある。素材の形態をそのままに残すもの(No.4)、面取り風の仕事を施し、本来の形態を残さないもの(No.1、2)である。この両者が当初から意図されたものかについてはやや疑問がある。使用に供した結果、前者から後者に変化したとみなした方が妥当性は高いであろう。No.4などはその側縁部にも使用が及び、一見面取りともとれる平面が形成されているからである。

溝状の条痕は表裏両面・側面に見られる。複数で存在するのが大部分であるが、そのいずれもが相互に平行関係に近い。その点使用上に一定の規則性があったことを窺わせる。

石材は極粗粒砂質凝灰岩60%ともっとも多用され、他に硬質泥岩・複輝石安山岩が併用されている。

No	遺構・地点	層位	最大長さ だてはこ の厚さ	重量	材 質	産 出 地	そ の 他
1	CjDa12 西べルト	III	9.45 6.7 2.3	132.0	極粗粒砂質凝灰岩	中新統中部	板状 表裏両面 破損?
2	Dde21	II	6.0 5.4 2.0	63.5	*	*	板状 表裏両面+側縁 *
3	Dde15	II	6.2 5.3 3.35	91.05	複輝石安山岩	若干大山群	塊状 表裏両面
4	Df18	III	30.3 5.9 2.4	130.8	極粗粒砂質凝灰岩	中新統中部	楕円形扁平 pebble 表裏面 完全?
5	Dh18	III	6.5 4.45 1.95	94.7	硬質泥岩		長方形 片面のみ 板状 破損



第142図 第18類石器実測図

第19類石器（図版28） 所謂石皿であり、総数64を得た。完全品は9にすぎず大半は破片である。大別して三種ある。(イ)定形性の顕著なもの。その周縁を「土手状」に高く残す。高まり直下は平坦になるものと、さらに溝をうがつものの二種がかかるらしい。このタイプの1例の裏面に研磨痕を残すものがあり、表裏両面に成形の手が及んでいたことは明らかである。(ロ)かなり部厚な板状のもので、素材の原形を残さない程度にまで加工されているもの。周縁(側縁)を垂直に近くするもの、傾斜させ厚さを漸減させるもの、両面ともに厚さを減じ先細りに近い(楔形断面)形にするもの、などの変種がある。(ハ)板状の礫をそのままの形状で用いるもの。周縁部の厚さを減ずるものもあり、(ロ)に通ずる。

材質は複輝石安山岩81.3%への集中が顕著であり、角礫凝灰岩類がこれに次ぐ。これは特徴視されてよい現象であろう。その他に泥質細粒凝灰岩・砂質凝灰岩類・石質凝灰岩・輝石安山岩などが若干量使用される。

No	遺跡・地点	層位	最大径mm 長さ	重量g	材質	産出地	その他
1	Bd03	II S	24.0 11.0 4.0	2,600	複輝石安山岩	中新統中部	破 板状、側面成形なし
2	Cg65	II S	34.0 32.0 6.5	1,700	"	"	破 円盤状、磨縁先磨り
3	Cf71	II L	9.5 10.0 3.0	320	複輝石安山岩	"	破 周縁部を高くつくり出す
4	Ce65	II S	34.0 6.0 4.0	700	"	"	破 板状
5	Ce62	I	4.5 3.5 4.0	120	"	"	"
6	Dbc15	III	31.0 9.0 3.0	340	"	"	" 磨縁に丸味
7	"	"	6.5 6.0 6.5	500	輝石安山岩	中新統中～上部	" 磨縁に磨痕
8	Dbc12	III(1)	35.4 11.2 6.0	1,440	浮石質角礫凝灰岩	"	" 片面ホープ(中央部に向い深くなる)
9	Dc18	III(1)	33.0 8.0 4.5	940	複輝石安山岩	中新統中部	"
10	Dde6	III	7.5 5.5 1.4	90	"	"	半製品?
11	Dde6	II	22.0 11.5 4.0	1,190	複輝石安山岩	中新統中部	" 周縁部を盛り上げる
12	Dde6	III	22.5 11.5 3.4	890	"	"	" 板状 磨縁薄くなる
13	Dde12	III(1)	7.0 6.9 $\frac{1.5}{2}$	90	砂質凝灰岩	中新統中部	" 半製品

14	*	Ⅲ	14.0	7.0	3.4	770	複輝石安山岩		*	*
15	*	ⅢB	25.0	9.4	4.1	2,350	浮石質角礫凝灰岩	中新統中～上部	*	* 片面 flat, 中央部・縁部・裏面
16	Dfg18	Ⅲ	16.7	8.8	5.5	550	複輝石安山岩	中新統中部	*	* 隅縁稜線
17	Dfg12	Ⅲ	9.0	6.6	1.6	110			*	*
18	*	*	7.1	6.2	2.3	220			*	*
19	Dni18	Ⅲ	9.5	6.8	4.7	550			*	*
20	*	*	10.0	6.0	5.0	500			*	*
21	DjEa18	Ⅱ L	8.2	7.0	2.0	240	複輝石安山岩	中新統中部	破	隅縁土手状盛り上がり
22	Eb15	Ⅲ	17.5	16.2	3.8	2,200			*	* 板状、手載
23	Eb12	Ⅲ	15.5	8.3	4.0	750			*	*
24	*	*	7.0	5.6	8.2	980			*	*
25	Ede50	Ⅲ	9.8	6.5	5.9	900			*	*
26	*	*	9.2	8.3	5.1	480			*	*
27	Ede68	*	8.2	7.2	3.1	180			*	*
28	Eh62	Ⅱ	7.6	3.5	4.2	200			*	*
29	De50 住	床	13.0	9.7	6.0	860			*	* 手載
30	*	*	6.8	5.0	7.0	290			*	*
31	*	*	17.0	14.0	8.0	1,780			*	*
32	Ede65 住	床 S ₁	20.5	13.0	4.3	1,340			*	* 円盤状
33	*	* S ₂	12.0	10.1	5.5	1,000	浮石質角礫	中新統中～上部		板状
34	*	* S ₃	13.0	10.5	1.8	420	複輝石安山岩	中新統中部		円盤状
35	Ch59 住 (Ch56 住)	床	20.5	/	8.0	1,520	浮石質角礫凝灰岩	中新統中～上部		棒状
36	* (*)	*	9.8	8.4	6.2	1,110	複輝石安山岩	中新統中部		板状
37	Ede62 住	床	19.0	14.2	3.6	1,320	複輝石安山岩		*	完 円盤状
38	*	伊中	11.8	4.9	2.8	410			*	破 板状
39	*	床	15.8	11.7	3.8	720	石英安山岩質角礫凝灰岩	中新統上部		破 円盤状
40	(De03) Df03 住	埋土	15.8	13.2	3.4	740	石質凝灰岩(中粒性)			破 *
41	(De03) Df03 住	床	14.7	11.8	4.7	1,670	淡緑色中粒砂質凝灰岩			破 板状
42	(De53) DE53 住	埋溝	19.1	15.2	4.5	1,590	複輝石安山岩	中新統中部		*
43	Ee65 住	床	16.1	9.2	5.0	1,000			*	破 円盤状
44	*	*	19.2	10.8	4.0	1,280			*	*
45	*	埋土	15.4	10.9	3.2	680			*	* 板状
46	*	床	14.5	11.3	2.1	890			*	*
47	Ee62 住	埋土	10.0	8.0	1.7	150	泥質粗粒凝灰岩	中新統中～上部		円盤状
48	*	*	12.0	9.8	3.5	550	複輝石安山岩	中新統中部		* 隅縁盛り上げ *
49	* Q ₁	*	8.4	5.0	3.2	180	浮石質粗粒凝灰岩	中新統中～上部		隅縁盛り上げ
50	Ee62 住前	*	11.8	11.7	4.4	640	プロビライト質角礫凝灰岩		完	円盤状
51	*	*	10.0	7.2	1.4	210	複輝石安山岩	中新統中部	破	板状
52	*	*	20.6	9.4	4.6	1,350			*	完 円盤状
53	*	*	14.9	9.0	4.5	890			*	*
54	*	*	12.0	5.2	5.3	490			*	破 破
55	*	*	10.3	9.8	1.3	370			*	* 板状
56	*	*	11.6	10.0	5.2	990			*	*
57	*	*	14.6	10.7	4.0	1,130			*	完 楕円形
58	*	*	16.0	11.2	2.3	600			*	破 手載
59	*	*	24.0	23.0	4.8	3,220			*	完 板状
60	*	*	12.7	10.8	3.1	450			*	破 板状
61	Ee62 住前	埋土	17.0	15.0	6.9	2,320	複輝石安山岩	中新統中部	完	破
62	Ee62 住占	床	19.7	1.6	4.0	1,650	複輝石安山岩	新開律岩	完	平板
63	Ee62 住	床	27.2	21.0	4.4	3,490		中新統中部	完	平板
64	Ee65 住	埋	17.5	14.3	2.5	1,320			*	破 板状

第20類石器(第143図・図版28) 所謂凹み石であり総数61を得た。うち遺物包含層出土35、住居跡出土25となる。後者のうち床面他出土16(一部疑問例もあるか)となる。他器種に比し遺構内出土の比率がやや高い点が特徴であろうか。住居跡出土のものは床面上の他、炉中、ピット中からも検出されている。遺物自体の特徴は以下のようになろう。

(a)形態 平面形は楕円形乃至卵形を基本形とし、稀にその長大化した如きものがある。横断面形態も楕円形を主体とするが、方形に近いもの・円形に近いものもある。

(b)成形 とくに顕著な成形のあとを観察できる例は少なく、大半は素材の表面をそのままに残す。粗な表面が多いが、素材によっては、平滑で、平面的な研磨痕を残すものもある。

(c)凹部残存部位 現象的には2種ある。(f)片面にのみ見られるもの35、(g)両面に見られるもの25。両者の関係は現状では不明であり、両者併存を常態と考えておく。比較的平坦な部分に形成される。

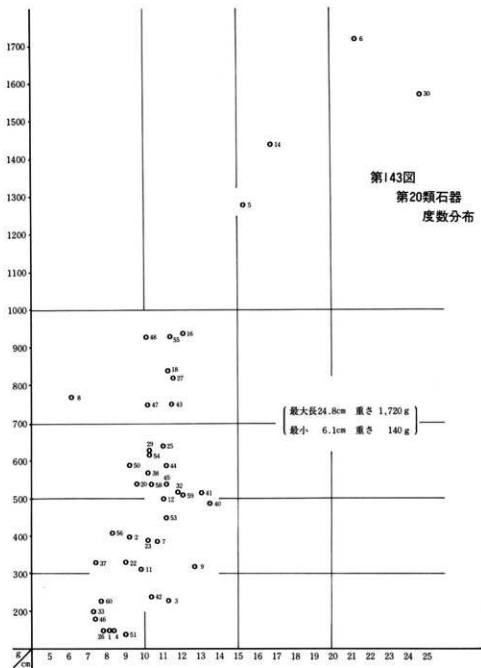
(d)凹部数 三種ある。(f)1個のみのもの27(疑問あるものも含む)、(g)2個以上のもの32、(f)片面単数、片面複数のもの1。複数存在のものの中には、凹部が相互に連続し、溝状化しているものも多い。使用上の一特徴であろうか。

(e)重量その他 完全品のみを資料として、その長径と重量をみると、次のようになる。長径24.8cm、重量1720gを最大とし、6.1cm、140gを最小とする巾で存在する(この数字の組み合わせは同一個体ではない)が、大半は14cm以下、1000g以下の中におさまる。したがってこの範囲内の大きさ・重さのものが、この種石器のもっとも普遍的形態ということになる。第143図を見れば、微視的にはさらに数群のまとまりを指摘できるが、ここでは以上の大別に留めておく。

(f)その他 炉中に検出されたもの以外にも、赤変したものの材質に由来するとは思われないクラックを有するものが存在することから、火力をうけたものも混在する可能性がある。これは後述の21類にも共通し、両者の用途復元の際の一資料となしえよう。

材質を概観すると複輝石安山岩90.2%への集中が顕著である。これは特徴視されてよい。その他に砂質凝灰岩・角礫凝灰岩類・淡緑色軽石凝灰岩・花崗閃緑岩・輝石玢岩なども併用されるが微量である。

No.	遺構・地点	番号	最大長径			重量g	破面	凹部		凹部数	凹部数	その他	材 質	産 出 地
			長さ	幅	厚さ			両面	片面					
1	不明	不明	8.1	7.6	3.6	150	定	○	○				石英安山岩質角礫凝灰岩	中新統上部、奥羽山地東縁
2	Dc 12	凹	9.2	7.3	4.4	400	*	○	○				複輝石安山岩	中新統 奥羽山地
3	Dc 21	凹	11.3	5.4	2.2	230	*	○	○		偏平		■ 輝石 玢岩	古生界を貫く脈岩、産地不明
4	Dde 18	凹	8.3	7.6	2.5	150	*	○	○	○?			複輝石安山岩 燧石	初期火山、(若手火山群)
5	Dde 12	凹	15.3	10.3	5.7	1,280	*	○	○				複輝石安山岩	中新統中部、奥羽山地東縁
6	Ddc 09	凹	21.3	10.6	6.8	1,720	*	○	○	○?	棒状		*	中新統 奥羽山地
7	Ddc 12	凹	10.7	8.9	3.2	390	*	○	○	○	偏平		*	中新統 奥羽山地東縁
8	*	*	6.1	7.0	4.9	770	*	○	○	○			*	中新統 奥羽山地
9	Ede 50	凹	12.7	6.2	3.3	320	*	○	○	○?			*	中新統 奥羽山地東縁
10	Ede 50	凹	8.9	6.7	2.7	220	破	○	○?	○?	偏平 半欠		*	中新統 奥羽山地
11	*	凹	9.8	6.3	3.6	310	定	○	○				*	*
12	*	凹	12.9	7.3	4.1	470	破	○	○				*	*
13	*	*	10.8	6.4	2.9	270	*	○	○	○?			*	*
14	*	*	16.8	11.2	6.0	1,440	定	○	○	○?			*	*
15	Ce 65	凹 S	7.3	7.4	5.2	330	破	○	○?		半欠		*	*
16	Cg 65	凹	12.1	9.8	5.3	940	定	○	○				*	中部、奥羽山地東縁
17	Dde 12	凹	11.0	8.4	2.8	350	破	○	○?		偏平 半欠		*	中新統 奥羽山地
18	Dde 18	凹	11.2	10.3	5.5	840	定	○	○		偏平		*	*
19	Dig 12	凹	11.0	8.0	4.5	500	*	○	○	○			*	中部、奥羽山地東縁
20	* 15	凹	9.6	8.7	4.7	540	*	○	○?				*	中新統 奥羽山地



(註) 石器実測図中の縁辺に沿った破線は、細破砕部を示す。

No	遺構・地点	層序	最大長さ たくよこ	重量	破損	凹 高面	凹 片面	凹部 形状	凹部 数	その他	材 質	産 出 地	
21	Dfg 15	II	10.0	6.7	3.0	220	破	○		○	半欠 磨礫	複輝石安山岩 中新統中部、奥羽山地東縁	
22	" 21	II	9.0	6.8	4.2	330	完	○		○	"	"	
23	" 56	II	10.2	6.8	4.1	390	"	○		○	"	"	
24	不明	不明	9.6	7.8	5.5	550	破	○	○	○	半欠	"	
25	Dbc 12	III	11.0	8.0	5.2	640	完	○		○	"	中新統 奥羽山地	
26	Dbe 15	"	7.8	7.2	3.5	150	"	○	○	○	"	中新統中～上部、奥羽山地	
27	Dde 09	III	11.6	9.5	6.3	820	"	○		○	"	中部 奥羽山地東縁	
28	"	"	12.2	7.4	3.2	410	破	○		○	半欠	"	
29	"	"	10.3	6.5	6.3	630	"	○		○	"	"	
30	Dde 18	IIIa	24.8	10.4	5.5	1,570	完	○		○	"	中部、奥羽山地東縁	
31	Dde 18	III	6.7 12	10.3	7.0	890	破	○		○	半欠	"	
32	"	"	11.8	8.2	4.2	520	完	○		○	"	"	
33	Ee 68 住	床	7.3	5.3	3.7	200	完	○		○	"	奥羽山地	
34	" 54	"	12.2	9.0	5.2	590	破	○		○	磨礫	砂質凝灰岩	
35	"	床	7.0	5.7	2.1	170	"	○		○	○	○	複輝石安山岩 中新統
36	"	埋土	11.4	8.5	5.7	860	"	○		○	○	○	花崗閃緑岩 古石巻
37	Ed 62 住Q	埋土	7.4	5.8	4.9	330	完	○		○	"	複輝石安山岩 中新統中部、奥羽山地	
38	"	埋土	10.2	8.3	4.8	570	"	○		○	"	"	
39	" 型	中	15.6	9.0	5.4	1,160	破	○	○	○	半欠 火力を うける?	"	
40	Ee 65 住	床	13.5	6.7	4.9	490	完	○		○	"	"	
41	Ee 65 住	床	13.1	7.8	4.0	520	完	○		○	大型凹部	複輝石安山岩 中新統中部、奥羽山地	
42	"	"	10.4	5.3	3.5	240	"	○		○	"	"	
43	"	"	11.5	8.4	5.2	750	"	○		○	"	"	
44	"	"	11.2	7.3	5.4	590	"	○		○	"	"	
45	"	"	11.7	6.8	5.3	540	"	○		○	"	"	
46	"	"	7.4	5.2	3.8	180	"	○		○	"	"	
47	Ed 62 住	床	10.2	8.1	7.5	750	"	○		○	"	"	
48	Ee 65 住	P i 中	10.1	8.8	7.4	930	"	○		○	"	"	
49	"	床	10.8	5.4	6.8	480	破	○		○	半欠	"	
50	(Ch 59) Ch 56 住	床	9.2	8.4	6.2	590	完	○		○	"	"	
51	De 50 住	床	9.0	4.4	3.3	140	"	○		○	"	複輝石安山岩	
52	Ec 62 住	"	11.4	8.2	4.9	600	破	○	○	○	半欠 火力を うけた?	"	
53	"	"	11.2	7.4	4.7	450	完	○		○	大型凹部	浮石質角礫凝灰岩 中新統中～上部	
54	"	"	10.3	8.4	5.8	620	"	○		○	"	"	
55	"	"	11.4	9.7	5.7	930	"	○		○	"	複輝石安山岩 中新統中部	
56	Dfg 15	II	8.3	6.8	5.3	410	"	○		○	"	"	
57	Dde 09	III	9.6	6.0	5.5	350	破	○		○	半欠	"	
58	Dd 12	III	10.4	8.0	5.3	540	完	○		○	"	複輝石安山岩	
59	Ec 62 住新	埋土	12.1	7.9	4.3	510	"	○		○	"	"	
60	"	"	7.7	5.7	4.0	230	"	○		○	大型凹部	"	
61	De 06 住	床	14.9	11.1	4.7	990	"	○		○	"	"	

第21類石器(図版28) 所謂磨石であり総数107を得た。遺物包含層出土73、住居跡出土34の比率となる。後者のうち、明らかな床面出土例は10前後である。

楕円形の板状礫・卵形礫・球形礫などからなる。完全品と破損品の比率は98:9と圧倒的に前者が多い。破損品には半欠品もあるが、周縁部の部分的欠損ももっと多い。

大半の表面は粗であり、加工・使用の痕跡を認めるのも困難である。したがって自然礫を誤認している場合も稀にはあろう。材質によっては、表面が平滑で光沢を有するものもある。

表面の一部、とりわけ中央部近くに細破砕痕あるいは研磨痕を有するものがある。また火力をうけた痕跡と思われる変色部・クラックをもつものもある。これらは、この種石器の用途に「すり(摩・擦・搗)」以外のものも存在した可能性を示すものであろう。

材質は複輝石安山岩92.5%への集中現象が顕著であり、これも特徴視されてよい。他には凝灰質砂岩・白色細粒凝灰岩・淡緑色軽石凝灰岩・複輝石安山岩熔岩・石英安山岩・花崗斑岩なども併用される。最後者は光沢を有する例である。

No.	遺構・地点	層位	最大径 cm	長さ cm	重量 _g	材 質	産 出 地	そ の 他	
1	Dde09	Ⅲ(1)	5.9	4.7	4.0	120	覆輪石安山岩	中系統中部	完
2	*	*	8.6	8.0	6.1	490	*	*	破
3	*	*	6.5	5.9	6.0	210	*	*	破
4	*	*	4.6	3.7	3.5	70	*	*	完
5	Dc18	Ⅲ(1)	8.7	7.2	3.4	110	淡緑色輝石質凝灰岩		破
6	*	*	5.0	5.5	5.0	180	覆輪石安山岩	中系統中部	完
7	*	*	6.1	6.2	5.6	220	*	*	完
8	Da62	露込	2.5	2.7	1.8	5	*	*	*
9	*	*	3.5	3.4	3.1	20	*	*	*
10	Dbc09	Ⅲ	6.1	5.3	4.8	170	*	*	*
11	Dbc15	*	7.0	7.0	6.2	400	*	*	*
12	Dh18	*	4.7	3.8	3.6	80	*	*	*
13	Dde18	Ⅲ(1)	8.3	7.6	7.2	690	*	*	*
14	*	*	7.5	6.9	4.7+ #	260	*	*	季次
15	*	*	5.4	4.9	3.6	110	*	*	完
16	*	*	4.8	4.3	3.5	80	*	*	*
17	*	*	4.2	4.0	2.8	50	*	*	*
18	*	*	4.0	3.6	3.2	60	*	*	*
19	*	*	2.4	2.3	1.7	5	*	*	*
20	*	Ⅱ	2.7	2.6	2.2	10	*	*	*
21	Dde21	Ⅱ	9.8	6.4	3.6	290	覆輪石安山岩	中系統中部	完
22	Dfg12	I	4.1	3.6	2.8	50	*	*	*
23	Dfg15	Ⅱ	6.3	5.7	4.4	180	*	*	*
24	*	*	4.4	3.5	2.9	50	*	*	*
25	*	*	3.6	3.1	2.8	40	*	*	*
26	*	*	4.0	3.5	2.6	40	*	*	*
27	Dfg18	Ⅲ(1)	8.0	7.5	3.5+ #	160	*	*	季次
28	Dfg21	Ⅲ	3.5	3.0	2.4	20	*	*	完
29	Dg99	I	5.7	5.6	4.3	160	*	*	*
30	*	*	5.1	4.9	4.8	70	*	*	*
31	DjEa18	Ⅱ	6.0	5.2	4.5	180	*	*	*
32	Ccd68	Ⅲ	4.9	4.7	4.5	120	*	*	*
33	*	*	4.1	3.7	3.3	50	*	*	*
34	*	*	3.7	3.4	3.1	40	*	*	*
35	*	*	3.6	3.0	2.4	20	*	*	*
36	Cef72	Ⅱ	3.4	3.3	3.0	40	*	*	*
37	*	*	4.7	3.6	1.6	30	*	*	*
38	*	*	3.0	2.8	2.4	20	*	*	*
39	Cgb59	I	5.1	5.2	4.0	140	*	*	*
40	Ch68	Ⅱ S	7.2	7.0	6.7	400	*	*	*
41	Dde18	Ⅲ	6.3	5.7	4.8	200	*	*	*
42	Dfg15	I	3.7	3.3	3.0	40	*	*	*
43	*	*	2.7	2.6	2.5	20	*	*	*
44	Dfg18	Ⅲ	7.3	5.7	4.9	240	*	*	*
45	*	*	4.0	3.3	2.6	30	*	*	*
46	Ea15	Ⅱ	4.5	4.7	2.9	60	*	*	*
47	Eb62	I	3.7	3.0	2.6	30	*	*	破
48	Eb12	Ⅲ	6.8	5.6	4.8	210	*	*	完
49	Eb15	Ⅲ	3.1	3.0	2.1	10	*	*	*
50	Ebc12	Ⅲ	6.0	5.1	5.1	160	*	*	*
51	*	* (S)	6.4	4.8	4.3	170	*	*	*
52	*	* (6)	5.7	5.5	3.8	140	*	*	*
53	*	*—S	5.8	5.1	4.0	130	*	*	*
54	*	*	4.7	4.3	3.7	90	*	*	*
55	*	*—S	4.4	4.0	3.5	50	*	*	*
56	Ebc15	Ⅲ(3)	5.9	4.7	4.5	160	*	*	*
57	*	*	4.1	4.0	3.6	60	*	*	*
58	*	* (S)	3.7	2.7	2.3	20	*	*	*
59	*	*	3.1	3.0	2.4	20	*	*	*
60	Ecd59	Ⅲ	4.5	3.4	3.4	50	*	*	*
61	Ecd59	Ⅲ	3.0	2.6	2.8	10	覆輪石安山岩	中系統中部	完
62	Efg72	I	6.7	5.4	4.8	180	*	*	*
63	*	*	4.4	4.1	3.5	70	*	*	*
64	*	*	4.7	3.6	3.1	60	*	*	*
65	Eh65	Ⅱ	6.3	4.3	4.1	170	*	*	*

66	Dde18	III	9.6	9.5	6.7	830	*	*	*
67	*	*	8.9	7.1	4.2	340	*	*	*
68	*	*	4.7	4.5	3.3	70	*	*	*
69	*	*	4.3	4.1	2.8	50	*	*	*
70	Ec59	I	8.6	6.4	5.4	490	*	*	*
71	Ec62	III	6.2	4.9	4.3	170	*	*	*
72	*	*	4.3	4.0	2.5	40	*	*	*
73	*	*	4.2	3.5	2.7	50	*	*	*
74	Ec62住跡	埋土	5.7	5.0	4.3	150	*	*	*
75	*	*	6.3	6.3	4.3	240	*	*	*
76	*	*	9.9	6.7	4.7	290	*	*	半欠
77	*	*	5.0	4.5	3.5	80	*	*	完
78	*	*	5.2	4.8	3.5	100	*	*	*
79	*	*	7.2	6.2	5.0	280	*	*	*
80	*	*	5.8	5.9	4.7	200	*	*	*
81	Ec62住跡(新)	埋土	5.5	5.1	3.8	110	*	*	*
82	*	*	4.9	4.5	3.7	70	白色凝結凝灰岩	中新統中～上部	*
83	*	*	4.8	4.6	2.4	65	霞輝石安山岩	中新統中部	*
84	*	*	7.4	5.2	2.8	120	*	*	*
85	*	*	7.2	6.2	5.4	270	*	*	*
86	*	*	8.8	6.7	4.6	340	*	*	*
87	*	*	6.8	4.7	4.1	140	*	*	*
88	*	*	7.0	4.3	3.3	130	*	*	半欠
89	*	*	5.3	4.0	3.0	60	*	*	完
90	*	*	2.2	1.9	1.8	5	*	*	*
91	Ec65住跡	床面	11.5	7.3	4.4	530	花崗岩	北上山地?	真正の磨石?
92	*	*	12.6	7.8	4.8	720	*	*	同上?
93	*	埋土	2.8	2.7	1.8	10	霞輝石安山岩	中新統中部	*
94	Ec68住跡	床面	10.3	8.1	5.0	570	花崗岩	北上山地?	真正の磨石?
95	* S ₁	*	12.3	10.0	5.8	1,070	霞輝石安山岩	新期火山	完
96	* Q ₁	埋土	5.1	3.8	3.4	60	霞輝石安山岩	中新統中部	*
97	*	*	4.7	4.5	3.9	90	*	*	*
98	*	*	3.3	3.1	3.1	30	*	*	*
99	Ed62住跡	Q ₁	5.5	4.5	4.7	130	*	*	*
100	*	*	4.0	3.3	3.4	50	*	*	*
101	Ed68住跡	埋土	9.6	6.6	5.6	430	*	*	*
102	*	*	6.7	5.1	4.1	150	*	*	*
103	*	*	4.0	3.8	3.2	50	*	*	*
104	*	*	3.8	3.2	2.5	30	*	*	*
105	Dd56住跡	S ₁	5.7	5.3	3.8	140	石英安山岩		*
106	Ed62住跡	*	12.3	7.5	5.1	530	霞輝石安山岩	中新統中部	*
107	De03住跡	*	14.5	14.3	14.7	2,410	凝灰質砂岩	*	*

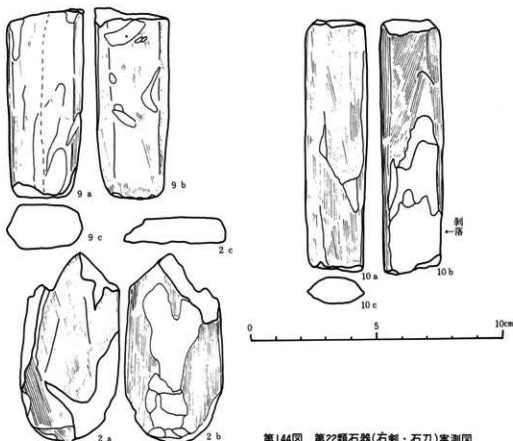
第22類石器 (第144図・図版29) 所謂石刀・石剣の両者を含むと思われる磨製品である。

疑問ある2例を加え総数9を得た。すべて破片である。その部位を明白に示す資料は少ないが、先端部に近いと思われるものは4例ある。そのいずれもが先細りに近く、かつ端部に丸味をもち、12類の基部に似る。4例中3例に細破砕痕を観察できる。これもこの種石器の一特徴とみなしておく。この特徴は縄文時代晩期においても見られるところである。⁽¹⁾

体部横断面形態には隅丸長方形乃至楕円形、板状に近い薄手のものの二種がある。塗料の使用例は観察できない。

石材をみると、粘板岩が77.8%と圧倒的に多く、特徴的である。他には層灰岩・滑石片岩がわずかに併用される程度である。

註) 東奥遺跡 岩手県文化財調査報告書第55集 東北縦貫自動車道開拓促進文化財発掘調査報告書VI-1 岩手県



第144図 第22類石器(右剣・石刀)実測図

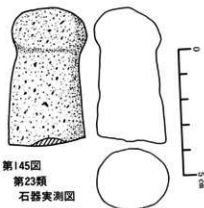
No.	遺跡・地点	層位	最大径 cm	重量 g	材質	産出地	その他
1	Bef50	I	7.8 3.65 1.1	46.25	粘板岩		板状 半蔵
2	Cet8	II上	7.6 3.95 0.95	43.9	滑石片岩	古生帯(阿武隈山地の延長部) 志和館南付近?	板状 先端?
3	Ci12	II	6.8 1.8 0.55	10.9	粘板岩		" "
4	Dbe15	II	7.8 2.45 1.15	35.05	"		楕円形 "
5	Dde18	I	5.0 2.2 0.4	5.0	"		板状
6	Dfg21	III(1)	9.0 2.3 1.15	32.7	"		自然石?
9	Dij18	II	7.85 3.1 1.8	71.8	"		楕丸状方形 先端?
10	Ea15	II	12.0 2.4 1.4	51.35	"		楕円形
12	Ed62位	床	14.15 8.35 1.15	122.1	層状岩	中新統中部	?

第23類石器 (第145図・図版29) 所謂石棒であるが、疑問例を入れて2個体分3片を得た。No11は頭部破片である。頂部径がそれ下位よりも大きくされ、明白な「キノコ状」をなす。体部横断面形は円形に近い楕円形である。材質のせいか成形痕・調整痕はほとんど観察できないが、かすかな条痕が残存し、おそらくは研磨痕と思われる。

No 7・8は接合し同一個体である。表面に条痕(研磨痕?)様のものを残すことから一応この類に含めた。推定体部径は10cm前後となり、かなりの大型品である。

以上のは住居跡周辺の包含層からの単独出土資料であり、その機能を推定させる何らかの現象も伴わなかった。

石材は輝石安山岩であり、あるいは特徴的かとも思われる。



第145図
第23類
石器実測図

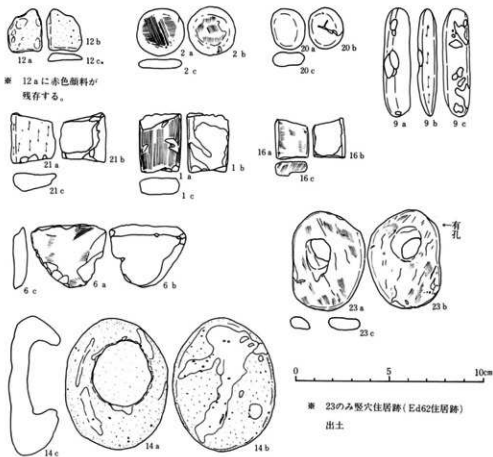
No	遺跡・地点	層位	最大長cm たてよこ等々	重量	材	質
7	Dfg12	Ⅲ	10.5 9.1 8.5	995.0	輝石安山岩	
8	*	*	9.1 7.55 7.45	700.5		*
11	Ec59	Ⅱ	10.95 6.3 5.3	450.0		*

産 出 地	そ の 他
中新統中～上部	組合
*	
*	頭部破片

- 第24類石器（第146図・図版29） 各種の磨製品と思われるものを一括した。形状により細別する。(1)小礫を円盤状に仕上げたもの (No 2・6～8・15) 本来的に円盤に近い礫の表面(表裏両面乃至片面)を研磨したと思われる。均正な円盤状と楕円状の両者がある。
- (2)素材を面取りするかの如くに研磨し、直方体風のものに仕上げたもの。断面形態は正方形 (No 1・16) と楕円形に近いもの (No 9) の両者がある。
- (3)円盤状礫に穿孔作業を施こしたもの。貫通したもの (No 23) と途上のもの (No 14) がある。後者は貫通を意図せず、円形の凹部をつくり、容器的に用いられるものであったとも考えられる。前者の孔は自然の営力によるものとも見えるものであるが、両面に研磨痕様のものも認められるので石器とした。有孔礫を利用したものであろう。
- (4)赤色顔料の付着した小礫。片面(顔料塗付面)に若干の研磨痕様のものがある。顔料調整用具でもあろうか。

石材は表のとおりである。各種にわたるが、白色細粒凝灰岩・白色砂質凝灰岩・極細粒珪質凝灰岩・硬質泥岩・粘板岩・淡緑色凝灰岩・珪質泥岩・輝石安山岩・複輝石安山岩などが使用されており、顕著な傾向性は看取できない。

No	遺跡・地点	層位	最大長cm たてよこ等々	重量	材	質	産 出 地	そ の 他
1	Cef62		3.2 2.3 0.95	7.4	白色細粒凝灰岩		中新統上部	美原山地
2	Cef71	Ⅱ	2.45 2.55 0.7	5.95	硬質泥岩		中新統上部	*
3	Cf65	Ⅲ	7.8 7.2 1.6	57.75	白色細粒凝灰岩		*	*
4	Cf68	I	5.0 3.6 1.5	17.2	*		*	*
5	Cf68	I	3.5 3.0 1.2	8.2	*		*	*
6	Dfc18	Ⅱ	4.05 3.35 0.6	10.1	淡緑色凝灰岩		中新統中部	*
7	Dfc15 ルト	Ⅱ	3.75 3.35 0.85	11.7	白色砂質凝灰岩		中新統上部	*



第146図 第24類石器(その他の磨製石器)実測図

8	Dbc15 ベルト	II	4.2	3.55	0.8	14.05		*	*	*
9	Dde18	I	5.75	1.4	1.0	9.7		*	*	*
10	Dde18	II	9.2	2.2	1.3	47.6	粘板岩			
11	Dde6 西カベベルト	I	6.6	1.9	0.75	12.6	硬質泥岩	中新統上部		*
12	Dfg18	II(2)	2.25	1.85	0.5	2.9	珪質礫粒凝灰岩	中新統中部		米岩
13	Dfg12	II	2.3	2.1	0.7	3.55	白色細粒凝灰岩	中新統上部		*
14	Dfg50	II	7.2	5.6	2.3	73.2	白色砂質凝灰岩	*	*	*
15	Dh56 穿孔Q	埋土	3.3	3.3	0.6	7.55	珪質礫粒凝灰岩	中新統中部		*
16	Eb62	I	2.15	1.65	0.9	2.75	白色細粒凝灰岩	中新統上部		*
17	Ede62	表土	7.65	5.2	4.2	233.15	粘板岩			*
18	Ef71 有孔		4.45	3.9	1.5	27.2	珪質礫粒凝灰岩	中新統中部	農跡山地	*
19	Efg71	I	2.85	2.5	0.55	7.25	硬質泥岩	中新統上部		*
20	Eh68	I	2.2	1.9	0.95	5.3	珪質泥岩		*	*
21	不明		2.7	2.5	1.6	7.05	白色砂質凝灰岩		*	*
22	Ch59 住	床面	9.1	5.4	0.9	54.0	輝綠石安山岩	中新統		*
23	Ed62Q(住)		5.2	3.8	0.85	22.4	流紋色凝灰岩	中新統中部		*
24	Ebc15	埋土	8.8	8.8	0.9	138.6	輝石安山岩			時代不明

(3) 土製品類 (第147図、図版29・30) 土器以外の土製品類をまとめた。数種のものを含む。

(i) 装飾品と思われるもの 玉類の一種と思われる。偏桃形の平面形と半円形の断面形をもち、細端部に孔がつくり出される。底面はやや掲げ底風となる。全面ミガキが施されるが、現状ではクラックが入っている。塗料等は観察できない。

(ii) 斧状土製品 磨製石斧に類似した形態をもつ。5点あるがいずれも破片である。刃部様部の破片は2ある。全面に縄文が施文される。基部(上端部?)破片の1つに、表裏両面をつなぐ穿孔がある。いずれの胆土(粘土充填)も粗で、かつ焼成は悪く脆い。刃部様部には縄文が付されず、ミガキが施されるようである。用途は不明である。類例は江刺市五十瀬神社前^(註1)宮城県上深沢^(註2)などにおいて中期後～末葉のものが知られている。本遺跡において住居跡埋土中よりの出土例が目立つ点は、何らかの意味をもつものであろうか。

(iii) 三角形土製品 総数8点を得た。うち完全品は5である。平面形はすべて三角形をなすが、まったく板状のものと、片面が湾曲するもの(他面は逆に内湾し、一種の掲げ底風になる)の二者がある。ただし前者は1例のみである。三角形の一頂点(湾曲面側の)につまみ状の突起を付すものが3例ある。文様風の刺突痕を有するものと無文のものがある。刺突も突起と同様湾曲面のみに施される。ただし刺突が他面にまで貫通する例もある。胎土は土器と同様に粗砂を混じ極めて粗、焼成不良で脆く、製作にあたっての何らかの特別な配慮は窺うことはできない。顔料塗付などの事例は観察できない。性格等は不明である。類例は先の五十瀬神社前遺跡において知られている。

(iv) 煙管状土製品 適切な名称を知らないで仮にこう呼ぶ。管状部の一端が煙肴の雁首の如き形状に仕立てあげられたものである。表面はミガキが施こされた平滑であるが、管内面には、縄痕・工具痕などをもつものもある。製作時に縄を伴う芯を用いた可能性もある。出土層位からみて縄文時代のものであることは確実である。類例は知らない。

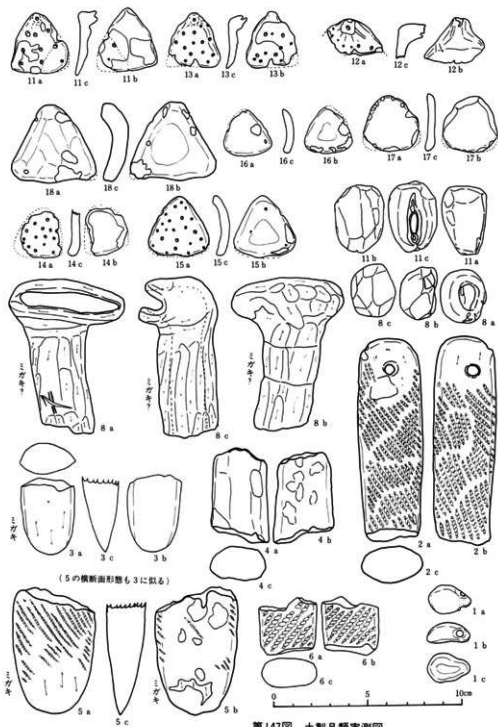
(v) 球状土製品 これも適切な名称を知らずに仮にこう呼ぶ。7は眼球を思わせる形状を示す。ラグビーボール状の一面をやや平担に仕上げ、そこに沈線文風の施文を行なう。その一端(上端)に孔を深く穿ち、上方からの穿孔と連結している。その他の面はミガキが施される。胎土・焼成ともに不良である。顔料は見られない。

8は手づくねの褶摺土器的なものである。焼成は良く硬い。顔料は見られない。

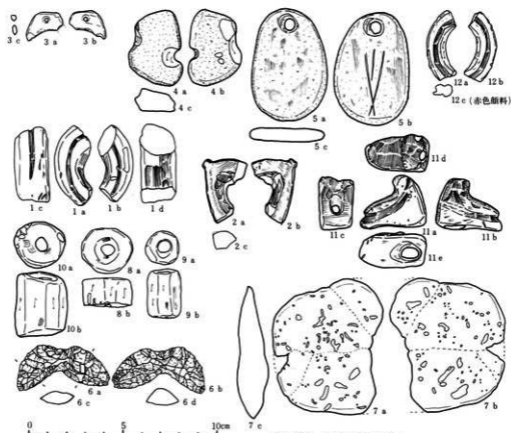
これらの性格は不明であるが、7の孔か紐を通しつり下げたためのものであるならば、装飾品としての可能性も皆無ではない。ただし胎土・焼成ともに不良な点は問題となる。

(註1) 岩手県文化財調査報告書第33集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-I-1 岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工務局 昭和54年3月

(註2) 宮城県文化財調査報告書第52集 東北自動車道遺跡調査報告書I 宮城県教育委員会・日本道路公団 昭和53年3月



第147図 土製品類実測図



第148図 石製品類実測図

No.	地 点	層位	種 別	分類	調 整		計 測 値				断 面	その他	石 材
					裏 面	表 面	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (g)	重量 (g)			
1	E d 62住 Q 1	埋土	耳栓?	破片	研磨痕条痕	研磨? 三面に沈線1	外径 (5.9)	内径 (3.8)	1.8	12.0	隅丸方形	朱 彩	凝灰質泥岩
2	E e 68住 Q 2	"	不明	"	研磨痕条痕 両面から穿孔	研磨痕条痕	3.2	2.2	0.8	5.8	家 形	有 孔	泥 岩
3	E d 62住 Q 1	"	垂飾?	"	両面から成形・穿孔	"	2.2	1.0	0.3	1.5	隅丸板方形	"	チャート
4	C e f 65	I	不明	"	研磨? 半円状穿孔・周縁に溝	同 左	3.8	2.6	1.2	17.0	不整台形	"	安山岩
5	D f g 18	III	垂飾	完全	研磨痕条痕・穿孔は両 面から	太目の沈線?	6.0	4.1	0.8	25.0	楕円形	"	凝灰質泥岩
6	C g h 68	II L	不明	"	押圧刻離	同 左	4.8	1.2	0.9	9.0	菱 形	"	凝灰質 安山岩
7	C e f 65	II	"	破片	凹凸、周縁薄化	"	7.1	5.2	1.1	35.2	楕 形	岩板?	凝灰岩
8	D e 12	III(1)	管玉状	"	研磨・部分的に黒色化	"	外径 2.6	内径 1.1	1.1	10.48	"	"	凝灰質泥岩
9	E a 15	II	"	完全	同上・穿孔は両面から	"	1.6	0.9	2.4	7.5	"	"	"
10	D e 12	III(1)	"	"	"	"	2.6	0.9	3.4	2.4	端部斜行	"	"
11	E b 12	II	不明	破片	穿孔部1、沈線	"	3.3	3.0	1.6	12.2	隅丸長方形	"	"
12	D i j 18	II	耳栓	"	沈線	"	(5.9)	(3.8)	0.5	3.5	"	朱 彩	泥 岩

C 要約(1)遺構 遺構の個別説明は既に終えた。以下にはその年代・時代の明らかな遺構についてその特徴的事項を示し、まとめる。出土遺物からみて、時間的に相互に近接したものであることも既にふれたとおりであり、それを前提とする。

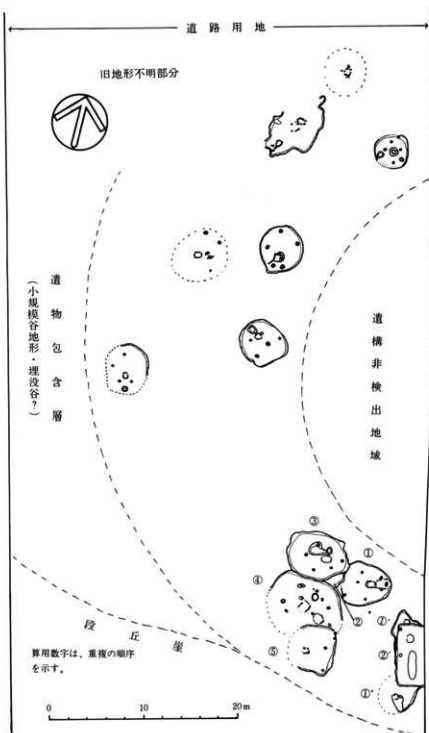
④ 遺構の組みあわせ(第149図) 少くとも調査域内部には竪穴住居跡と遺物包含層の二種のものが検出され、その他の種類は確認できなかった。道路敷内のみの調査という制約下にあることから、この現象の解釈には慎重さが必要であろう。

本県においても縄文時代に関する調査が進み、各種の資料が蓄積されつつある。それらによると、縄文時代関係の遺構(狭義の)には①住居跡、②その他の建物、③貯蔵穴様ピット類、④陥し穴状ピット類、⑤墓拉、⑥遺物包含層、⑦その他(広場・飲料水源)などがある。そして、遺構の組みあわせ上の特色・現象に、その遺跡の性格の反映があるらしい。⑥はそれが含まれる遺跡の性格により、そのあり方が異なるらしい。墓域・墓地的性格が強い遺跡内に形成された遺物包含層と、日常生活の場(居住域)内に形成されたそれ、それ以外の遺跡に形成されたそれなどの相違である。遺構によっては、種類毎の集中化現象を伴うことがあり、結果的に、集落内での場の使い分けなどを窺わせる場合もある。たとえば一集落内において、居住域たる竪穴住居跡集中部分と、貯蔵穴様ピットの集中部分の区分が存在する事例などがそれにあたる。

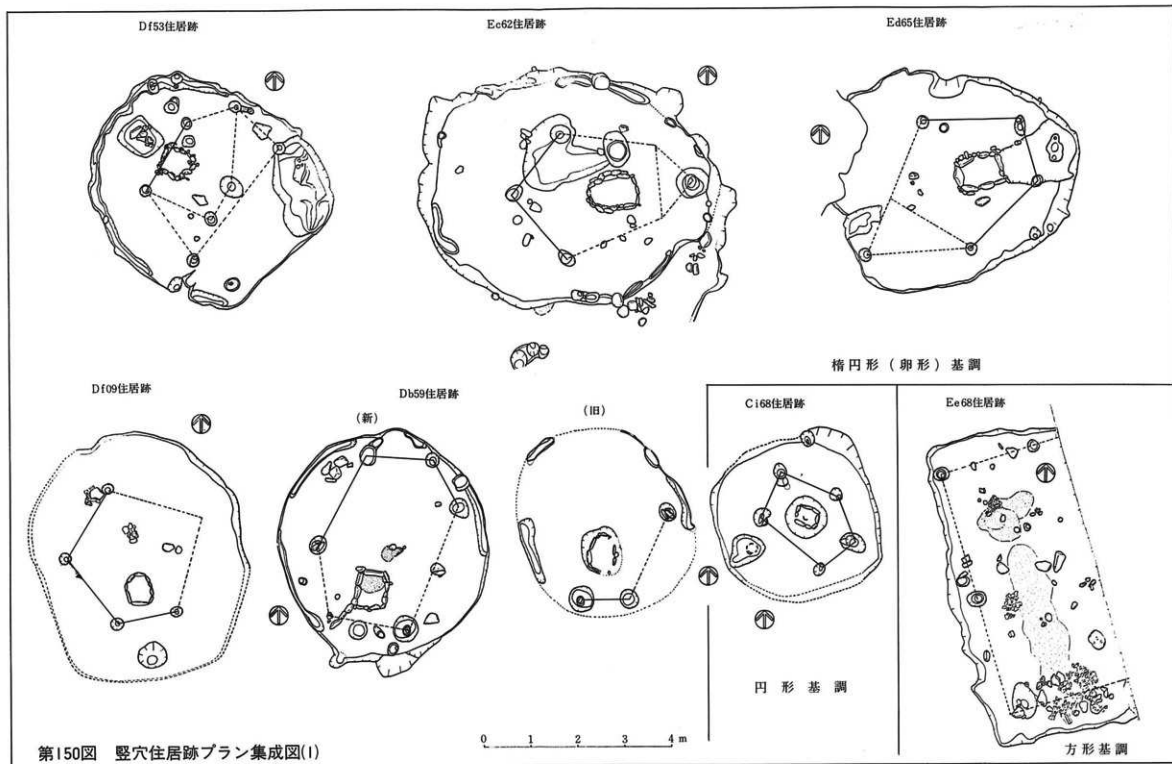
本調査例の解釈には既述のとおり慎重であらねばならないが、どちらかといえば通常の集落的性格をより強く示していると思われる。遺構種類の少なさは、上述の場の使い分けの反映とみることできる。

⑤ 遺構の配置について、これも集落の全容を調査していないので強弁は避けねばならないが、現象的には、一定の巾をもち(帯状)、かつ弧状に配置された住居跡群と、その西南外縁部に形成された遺物包含層という形となる。この配置は少なくとも南半については自然地形により決定されたものといえる。既述のとおり集落の南端には段丘崖が、西端には埋没谷的な凹部が存在し、住居跡はそれぞれの縁部に、遺物包含層は後者そのもの部分に位置しているのである。北半とりわけ西北半部については、旧地形に関する知見が全く不明である。埋没谷地形がさらに北にのびるとも考えられる。

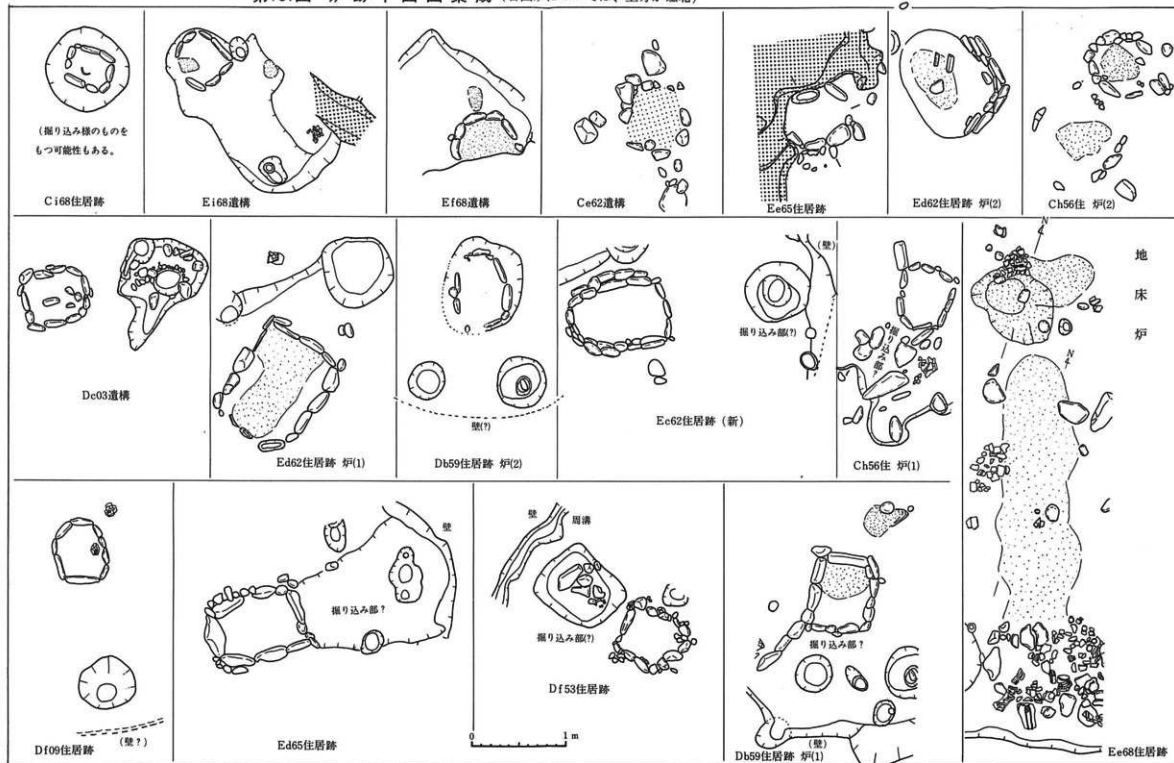
遺構配置が弧状(さらには環状)となる遺跡の、時・空的にもっとも近い類例は紫波町西田⁽⁸⁾に求められるが、西田における配置には自然地形との関係がそれほど顕著には指摘できない。逆にそこに人為的な意図性が強く現われていると見るべきである。なお西田例は、その遺跡としての性格が本遺跡とは大きく異なる可能性もある。本調査例はその全容を明らかにしたものではないことから、本調査結果に特別な意味をもたせることは避けておく。弧状配置の内側部分には少なくとも本調査においては何らの遺構も検出されていない。したがって具体的な証拠



第149図 竪穴住居跡等配置模式図



第151図 炉跡平面図集成 (石圍炉については、上方が磁北)



は示しえないが、所謂集落内の広場の機能をもった部分である可能性も皆無ではないと思われ、あえて述べておく。

住居跡が一定の巾の中に、複数で存在することは既に述べた。これは、複数棟の同時存在の可能性を物語るものである。調査の不備から具体的指摘はできないが、平面配置からすると、2棟の住居が、同心円状に（より内側とより外側）存在したと見ることもしできる。今後の課題の一つとして、あえてふれておく。

（註） 岩手県文化財調査報告第51集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書一冊一 岩手県教育委員会・国鉄盛岡工
事局 昭和55年3月

◎ 遺構の重複について、住居跡には単期のもの・建てかえられたもの・明らかな重複のものの三者があることについては既に述べたが、相互に極めて近接した位置に構築されている。したがって、集落内に、住居跡群が複数の形で存在（散在）する形をとる。これは、集落内における住居構築部分・地点が限定されていたことの反映とみることもできる。先と同様の検討課題としてふれておく。

重複の進行状況は南端近くのE c 62・E d 62・E d 65・E e 65の各住居跡群において窺うことができる。それは、E d 65から西北へ進みE c 62、以下南へ進みE d 62→E e 65というものである。他には不明な点が多いが、E e 68住居跡はE f 68・E i 68の遺構にまたがって重複している。

④ 遺構の構造について（第150・151図）、平面形態は円形基調と方形基調の二者があるが、後者は1と量的に少ない。前者は円形と楕円形乃至卵形の二種からなる。楕円形乃至卵形のもの長軸方向は北方・西北方・西方位などをとる。後者は長方形に近く長軸方向は北方位をとる。本果のこの期にこの二様が併存するのは常態である。

床面上の施設には、周溝・掘り込みなどがある。前者は断片的ではあるが多くの遺構において検出されており、住居跡に本来的に伴なう施設とみなしてよい。後者には、貯蔵穴様のもの、埋設土器に伴なうもの、炉の掘り込み部的なものなどが混在しよう。

炉には石囲い炉と地床炉の二種があるが、後者は1のみである。石囲い炉には礫を一一二重に配した単純なもの、複式炉的な礫の張り出し部をもつものの二種があるが、後者は1のみである。両者ともにその平面形態は長方形乃至長方形の短辺の一つが若干湾曲する形態をとる。その位置は中央ではなく、やや一方に偏して設けられる。それは卵形プランの細い部分に一致するものもある。炉中への土器埋設と思われるものは1例のみ認められた。

炉と壁の間の床面を一部分掘り凹める例がある。これは礫の張り出し部と同様に、複式炉の掘り込み部の萌芽的なものと考えられる。土器編年上からした本遺跡の年代的位置を、遺構の特徴も裏づけているものといえる（後掲の集成図参照）。

炉自体の構築方法については、そのような問題意識での調査（遺構の断ち割り）を行なわなかった不備から詳細不明である。しかしその多くが炉石より一まわり大きめの掘り込みを伴うことからすると、あらかじめ掘り込みをつくり、その後に礎を据えたものであろう。

柱穴の配置には不明な点が多いが、比較的明瞭な例においては、壁からやや内部寄りに五角形、四角形に配するものがある。うち2本は炉の両側後方（掘り込み部様のものをもつ例にあってはその両側となる）に設けられるものようである。以上は円形乃至楕円形基調のものである。長方形基調のE e 68例も不明な点が多いが、壁に沿い、かつ比較的壁近くに設けられるらしい。

既にふれた可能性の一つである集落内の広場的なものや住居跡の方向（炉の長軸方向）の間には、とりたてて顕著な傾向性は看取できない。

規模については大略類似したものが多い。Ci 68住居跡が比較的小規模な点が若干目立つ程度である。最近集落内に、所謂“大型住居系列。などと称される大規模住居跡が存在する例が明らかになりつつあるが、本遺跡におけるその存否は不明である（後掲の集成に類例をのせた）。

(e) 本調査例の遺構変遷史上の位置を検討するために、本県における竪穴住居跡の一部の集成を試みた（第152図）。未発表資料をも多く用いており、その内容は流動的であるが、あえて試みた。時期区分は大別程度にとどめた。地域区分は機械的であるが、県北部（㊸馬淵川流域、㊹-₁米代川、㊹-₂安比川流域、㊹-₃龍ヶ森以南の三者の一括）、県中央部（㊸雫石川流域、㊸北上川流域の兩岸）、県南部（㊸、兩岸を一括）、沿岸（㊸、一括）を一応の目安とした。

早期・遺跡の調査例が偏在する。円形・隅丸正方形・隅丸長方形のプランを持ち、屋内炉はない。柱穴を有する例が多いが、中業のものは複数、後業のものには中央に1となる。中業の㊸地区においては壁内外にそれをもつものもある。また既に規模の異同が見られる。

前期・初頭については、㊸地区のみ存在するが、前代のそれに共通する長方形プランを持つ大小のものがある。柱穴配置も類似し、かつ屋内炉はない。前業とされるものは㊹-₁の長者屋敷に多数存在する。屋内に地床炉を持つ。円形乃至楕円形（隅丸長方形）的なプランを持つ中小規模（通常の規模）のものと、“大型住居系列。と呼称されている隅丸長方形的な大規模なものも併在する。柱穴は長方形プランのものは壁際に寄って配置される。未業については、炉、プランなどは前代に共通する。㊹-₂の“大型住居系列。のものは隅丸長方形をなす。柱穴の明瞭な例では、壁直下からやや中央よりに穿たれるものが多いし、壁外にもつつ可能性のあるものも存在する。

中期・初頭例は㊸、㊹-₂、㊸、㊸にある。㊸は円形プランで炉はない。㊹-₂もプラン他は同様で、壁からやや内側寄りに、それに沿う柱穴がある。㊸は少なくとも方形基調プランを有するものを含む。㊸には円形乃至楕円形基調プランを有する通常規模のものに、隅丸長方形ブ

ランを有する³大型住居、系列のものが併存する。中業例は⑧、⑩_一、⑪、⑫にそれぞれ見られる。⑧においては通常規模を持つ（円形乃至隅丸正方形）ものと、隅丸長方形の³大型住居系列、のものの両者が併存する。⑩_一では、通常規模で長述のプランを有するものがある。⑪においては円形乃至楕円形基調のものが見られる。⑫においては、明確な長方形基調のものと、円形乃至楕円形基調のものが併存する。この期には地床炉に加え、それよりも圧倒的多数を占める石囲い炉が存在する。後業のものは⑩_一、⑪_一、⑫、⑬の各地区に検出されている。⑧の通常規模のものは円形基調で、壁沿いに柱穴をもつ。⑩_一も円形基調で複式炉的な石囲い炉と地床炉を持つ。⑪_一にも同様プランの石囲い炉を持つ例がある。⑫には極めて多くの例があるが、円形基調プランで、石囲い炉と複式炉（³石組複式炉・³石組部・埋設土器部・長方形石組部・前庭部。などと呼称されるもの他の数類型ある）を有する。⑬には⑧よりさらに複雑で上原形に類似した複式炉〔³石組直立埋燬部・石組斜位埋燬部・前庭部（襦床部+掘り込み部。）が発達し、他に馬蹄形の複列石囲い炉も存在する。

末期例は各地区ともに非常に類例が多い。⑧には円形基調のプランで、石囲い・複式炉の前庭部様の掘り込み部を有するもの、炉を持たないものが存在する。⑩_一に円形乃至楕円形基調で石囲い炉をもつものがある。⑪_一には長者屋敷遺跡の多数の例がある。プランには方形・円形・楕円形基調のものがある。炉には、石囲い炉・埋燬炉・石組埋燬複式炉・埋燬石囲い炉などがある。複式炉の構築法は入念とはいええない。⑫も多くの例に恵まれている。プランは円形基調が主体をなし、かなりの大規模例もある。炉は複式炉（埋燬を伴うもの、頂部燃焼部・体部燃焼部・前庭部を持つもの、など数類型ある）が主体をなし、多くさらに地床炉的なものをも伴う。⑬の河西地域では、埋燬を伴う石組複式炉があるが、⑫ほど入念なつくりではない。湯沢にこの期の大量例がある。埋燬炉・石囲い炉・埋燬石囲い炉・地床炉などがあり、複式炉を思わせるものは少ない。プランは円形基調を主とし、若干の方形のそれが混じる。河西西部では、円形乃至隅丸正方形基調プランで、埋燬石組複式炉を持つものが多く、⑫に共通する。⑬においても大略同様であるが、複式炉はより入念に構築される。

以上の柱穴は4本以上が通例であるが、⑧の吠屋敷に3本例がある。

後期・これも類例が多い。⑧においては円形・楕円形基調プランが主体をなし、石囲い炉と地床炉の両者がある。⑩_一においては、前半に方形基調、後半に円形基調のものがある。炉は石囲い炉と地床炉の両者である。時期を特定できないが、敷石の張り出し部をもつものもある。⑬には特殊な性格を有すると思われる³大型住居系列。に入ると思われる例がある。⑬に円形基調プランと地床炉をもつもの、敷石住居様のものがある。

晩期、最近類例が増加した。⑧においては、円形基調が優越し、石囲い炉・埋燬石囲い炉・地床炉他が併存する。柱穴は壁直下に沿って多数存在する。⑩_一もプラン・炉ともに⑧に共通

し、㊦にも同様である。㊧も大略共通の特徴を持つが、壁外にも柱穴を持つ例もある。㊨の東岸のc₂式に床面に磚状の焼いた土をした、石囲い炉を持つ例がある。

弥生時代・若干例があるので、ついでにふれる。㊩は円形乃至楕円形プランを持ち、石囲い炉を持つ。壁際に柱穴様のがめぐり、晩期に共通する。㊨の西岸に不明な点があるもののその可能性の大なるものがあり、さらに㊨に円形基調で石囲い炉を持つものがある。

大略以上である。現状でも地域性ともとれる現象も見られるが、遺物の検討からする時期の正確な対比を行なった後にその判定を行なうべきである。本調査例は中期中葉～後葉にかけてのものに類似し、遺物の特徴とも矛盾しない。

(註)

寛谷日遺跡発掘調査報告書—主要地方遺跡・田子線跡除去事業・関連緊急発掘調査—若手県教育委員会・若手県土木部、昭和52年3月

若手県埋文センター文化財調査報告書第12集 東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書 松尾村長者屋敷遺跡(1) (遺構編1) (財)若手県埋文文化財センター・日本道路公団、昭和55年2月

同第11集 同上 松尾村 野狐遺跡・春木遺跡・西根町 泉石遺跡 同上 同上

同第13集 御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書 盛岡市つなぎ田、つなぎ野、上野、南ノ又、堂ヶ沢Ⅰ、Ⅱ遺跡、雫石町広瀬川遺跡 (昭和52年度・53年度) (財)若手県埋文文化財センター・建設省御所ダム工事事務所 昭和55年3月

若手県文化財調査報告書第51集 東北幹線関係埋文文化財調査報告書—Ⅰ— (西田遺跡) 若手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工務局 昭和55年3月

若手県埋文センター文化財調査報告書第2集 都南村湯沢遺跡 (昭和52年度) (財)若手県埋文文化財センター 昭和55年3月
大明神遺跡

宮手遺跡 若手県文化財調査報告書第52集 東北縦貫自動車関係埋文文化財調査報告書—Ⅱ— 若手県教育委員会、日本道路公団 昭和55年3月所収

墳館遺跡

大滝野遺跡 同 第32集 同 一Ⅱ— 同 昭和54年3月所収
高畑遺跡 同 第49集 東北新幹線関係埋文文化財調査報告書—Ⅶ— 若手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工務局 昭和55年3月所収

大迫町埋文文化財調査報告書第5集 観音堂遺跡—第1次発掘調査概報—大迫町教育委員会 昭和55年3月

文化財調査報告書第15集 鹿島館遺跡調査報告書Ⅱ 北上市教育委員会 昭和50年3月

樽山遺跡 第1地点・第2地点・第2号住居址 北上市史第一巻原始古代(1) 北上市史行会 昭和43年3月所収

帯帆場遺跡

胆沢郡胆沢町 宮沢原大東遺跡・赤瀬遺跡調査報告書 胆沢町教育委員会 昭和51年3月

五十瀬神社前遺跡 若手県文化財調査報告書第33集 東北新幹線関係埋文文化財調査報告書—Ⅰ— 若手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工務局 昭和54年3月所収

北上市文化財調査報告27集 八天遺跡 (昭和50～昭和52年度調査) 北上市教育委員会 昭和54年10月

宮古市大付遺跡—発掘調査報告書— 宮古市教育委員会 昭和54年3月

若手県大船渡市長谷堂貝塚—昭和46年度緊急発掘調査報告書— 若手県教育委員会 昭和47年3月

鳩岡崎遺跡 東北縦貫自動車道埋文文化財発掘調査略報 江釣子地区 若手県教育委員会 昭和51年3月所収

川向田遺跡現地説明会資料 (財)若手県埋文文化財センター・二戸土地改良事業所 昭和55年11月

上里遺跡 * 建設省東北地方建設局若手工事事務所 昭和54年7月

大滝遺跡調査概要 * 昭和54年。

田中遺跡現地説明会資料 一戸町教育委員会・建設省地方建設局若手工事事務所 昭和52年12月

馬場平2遺跡 * 昭和53年10月

扇塚遺跡 * (財)若手県埋文文化財センター・日本道路公団仙台建設局 昭和55年9月

有九野遺跡 * * 昭和54年7月

荒屋日遺跡 * * 昭和54年5月

上ノ山Ⅵ・曲田Ⅰ遺跡 * * 昭和55年10月

上ノ山遺跡現地説明会資料 (財)若手県埋文文化財センター・日本道路公団仙台建設局 昭和55年10月

若成田遺跡 * * 昭和55年11月。

苜内遺跡 * 建設省御所ダム工事事務所 昭和55年9月

他に、次の諸氏から教示・実測図・提供をうけた深く感謝する。また(財)若手県埋文文化財センターにも深甚の謝意を表す。

長瀬日四井謙吉 中曾根一朗彦 馬場平・田中・子守一高田和徳 若成田一造藤藤博

川向田一高橋与右衛門・吉田洋。以屋敷・小平忠孝。三浦謙一 越戸一小平忠孝 苜内一工藤利幸

湯沢一三浦謙一

集成遺構一覧

①	二戸市長瀬B	B I 06住居跡	吹切式相当	約 240分の1	⑥地区
②	"	B G 06住居跡	"	"	"
③	二戸市中曾根	第 155号址	前期初頭	"	"
④	"	" 219 "	"	"	"
⑤	"	" 150 "	"	"	"
⑥	二戸市上里	"	中期初頭	"	"
⑦	一戸町馬場平	C A 18住居跡	中期中葉	"	"
⑧	"	A B 50 "	" (円筒上層 C 式)	"	"
⑨	"	A B 50 "	" (")	"	"
⑩	一戸町田中 II	B F 03 "	中期後葉 (大木 9 式)	"	"
⑪	一戸町宇守	A J 06 "	中期末葉 (大木 10 式)	"	"
⑫	一戸町田中 V	A J 56 塚穴	" (")	"	"
⑬	"	B E 59 住居跡	" (")	"	"
⑭	二戸市寛谷 B	"	後期前葉 (+ 腰内 I)	約 200分の1	"
⑮	軽米町若成田	E - 35 住居跡	" (")	約 240分の1	"
⑯	軽米町若成田	F - 39 住居跡	前期前葉	"	"
⑰	"	G - 55 P "	後期	"	"
⑱	"	J - 27 "	"	"	"
⑲	"	H - 56 "	後期前葉 (金剛寺式)	"	"
⑳	"	D - 60 "	" (")	"	"
㉑	九戸村川内田	N - 35 "	晩期前葉 (大割 B - C 式)	"	"
㉒	"	H - 09 "	" (")	"	"
㉓	軽米町若成田	H - 35 "	" (")	"	"
㉔	"	G - 35 "	" (")	"	"
㉕	"	H - 36 "	" (")	"	"
㉖	軽米町呷屋敷	G I - 1 "	晩期後葉 (大割 C 式)	"	"
㉗	軽米町若成田	J - 55 "	晩期末葉 (大割 A 式)	"	"
㉘	二戸市大淵	C - 37 "	弥生時代 (黒南の谷起島式併行)	"	"
㉙	松尾村長者屋敷	F N - 4 "	前期前半	"	①-3 地区
㉚	"	F N - 2 "	"	"	"
㉛	"	E V - 4 "	"	"	"
㉜	"	"	"	"	"
㉝	"	F III - 1 住居址	前期前半	"	"
㉞	"	F N - 1 "	前期後半	"	"
㉟	"	G V - 6 "	前期末~中期初頭	"	"
㊱	松尾村野敷	C I - 1 "	前期末	"	"
㊲	松尾村長者屋敷	G V - 2 "	"	"	"
㊳	"	E V - 8 "	前期末~中期初頭	"	"
㊴	安代町寛谷 II	E II - 11 "	中期前葉	"	①-2 地区
㊵	松尾村野敷	G I - 2 "	中期中葉	"	①-3 地区
㊶	安代町上ノ山Ⅱ	D III - 2 "	中期後半	"	①-2 地区
㊷	"	D W - 2 "	"	"	"
㊸	安代町有矢野	D W - 3 "	中期末葉	"	"
㊹	安代町越戸	E - 4 - 2 住	"	"	①-1 地区
㊺	"	D - 3 - 2 "	"	"	"
㊻	松尾村野敷	D I - 2 "	中期後葉~末	"	①-3 地区
㊼	松尾村長者屋敷	N V - 3 "	中期末葉	"	"
㊽	"	M V - 3 "	"	"	"
㊾	"	E V - 5 住居址	中期中葉	縮尺約 240分の1	"
㊿	"	F V - 1 "	"	"	"
㊿	"	O W - 2 "	"	"	"
㊿	"	O W - 1 "	"	"	"
㊿	"	N W - 2 "	"	"	"
㊿	安代町上ノ山Ⅲ	J W - 1 住居跡	後期前葉	"	①-2 地区
㊿	"	J V - 1 "	"	"	"
㊿	安代町堀畑 II	I II 06 住居跡	後 期	"	"
㊿	"	I II f 2 "	"	"	"
㊿	安代町赤坂田 II	J III f 1 "	"	"	"
㊿	"	J III f 2 "	"	"	"
㊿	安代町上ノ山Ⅳ	I III - 3 "	後期後葉	縮尺約 300分の1	"
㊿	松尾村野敷	A II - 3 "	後期末葉	縮尺約 240分の1	①-3 地区
㊿	松尾村長者屋敷	N V - 4 "	"	"	"
㊿	安代町上ノ山Ⅴ	H V - 1 住居跡	晩期中葉	"	①-2 地区
㊿	"	H III - 1 "	"	"	"
㊿	松尾村野敷	A II - 2 住居跡	"	縮尺 240分の1	①-3 地区
㊿	"	C II - 1 "	"	"	"
㊿	"	F I - 1 "	"	"	"

㊦ 盛岡市登田	I-5 住居跡 2号	中期中業 (大木 8 b 式)	縮尺約 300分の1	㊦地区
㊧	F-4 " 1号	" (")	縮尺約 240分の1	"
㊨ 盛岡市南ノ又	D-10住居址	中期後業 (大木 9 式)	"	"
㊩ 盛岡市堂ヶ沢	K-10住居跡 1号	" (")	縮尺約 270分の1	"
㊪	C-2 " 1号	" (")	"	"
㊫ 盛岡市登田	J-7 "	中期中業 (大木 10 式)	縮尺約 640分の1	"
㊬	G-6 "	" (")	縮尺約 240分の1	"
㊭	E-8 "	" (")	"	"
㊮	C-5 "	" (")	"	"
㊯	K-13 " 1号	" (")	"	"
㊰ 盛岡市葎内	S-C-1 住居址	晩期初業か後期末	"	"
㊱ 盛岡市堂ヶ沢	C-3 住居跡 1号	晩期前業 (大木 B・B-C 式)	"	"
㊲	"	" (")	"	"
㊳ 盛岡市花内	S-H-5 住居址	晩期前業	縮尺 240分の1	"
㊴	S-G-5 "	"	"	"
㊵ 紫波町西田	T J 62住居跡	早期中業	縮尺約 120分の1	㊴地区・西岸
㊶	R F 62 "	"	縮尺約 240分の1	"
㊷	B J 24 "	早期末業	"	"
㊸ 矢巾町宮手	C A 56 "	"	"	"
㊹ 矢巾町大滝野	H-4 号 "	前期末業	"	"
㊺ 紫波町大明神	G A 21 "	" (大木 6 式)	"	"
㊻ 紫波町西田	F N-4 "	中期初頭	縮尺約 160分の1	"
㊼ 都南村湯沢	F-N-5 住居址状遺構	"	"	"
㊽	E E 21住居跡	中期中業 (大木 8 a 式)	縮尺 240分の1	"
㊾	H E 15 "	" (")	"	"
㊿	H F 18 "	" (")	"	"
㊽	F D 62 "	" (")	"	"
㊽	E H 15 "	" (大木 8 b 式)	"	"
㊽	H G 18 "	" (")	"	"
㊽	E J 18 "	" (")	"	"
㊽	F B 53-1 "	" (")	"	"
㊽	I-7 号 "	"	"	"
㊽	I-8 号 "	中期末業 (大木 10 式)	"	"
㊽	I-2 号 "	" (")	"	"
㊽	E II-9 住居址	中期末～後期初頭	"	"
㊽	C III-7 "	"	"	"
㊽	E II-15 "	"	"	"
㊽	D III-10 "	"	"	"
㊽	C III-11 "	"	"	"
㊽	H II-11 "	"	"	"
㊽	H II-8 "	"	"	"
㊽	C III-10 "	"	"	"
㊽	E II-30 "	"	"	"
㊽	I II-7 "	" (大木 10 式の新)	"	"
㊽	F G 50住居跡	中期末 (大木 10)	"	㊴地区・東岸
㊽	G E 53 "	中期末業 (大木 10 式)	縮尺約 240分の1	"
㊽	F E 50 "	" (")	"	"
㊽	第 1 号 "	" (")	"	"
㊽	I-5 号 "	後期中業	"	㊴地区・西岸
㊽	I-1 号 "	"	"	"
㊽	B J 27 "	弥生時代 (天王山式併行)	縮尺 320分の1	"
㊽	C J 24 "	中期初頭	縮尺 400分の1	㊴地区・西岸
㊽	D E 58 "	"	"	"
㊽	"	" (大木 7 a 式)	縮尺約 270分の1	"
㊽	第 1、2 地点第 2 号住居址	中期中業 (大木 8 a 式?)	縮尺約 200分の1	㊴地区・東岸
㊽	第 1 号住居跡	中期後業 (大木 9 式)	縮尺約 240分の1	㊴地区・西岸
㊽	第 6 号住居址	中期末業 (大木 10 式)	縮尺約 400分の1	"
㊽	C B 03住居跡	" (")	縮尺約 320分の1	"
㊽	5 号家屋	" (")	縮尺約 240分の1	㊴地区・東岸
㊽	A 地点住居址	後期 (宝ヶ峰式併行以降)	縮尺 320分の1	"
㊽	敷石住居址	後期	縮尺 240分の1	㊴地区
㊽	弥生	後期初頭 (堀之内 II 式併行)	縮尺約 200分の1	"
㊽	D-4-3 居址	弥生時代 (割圓式併行)	"	"
㊽	E-4-1 "	"	"	"

(2) 遺物 ㉔ 各土器群の編年上の位置

その他の土器としたもののうち、縄文時代早期の土器としたものは、ムシリⅠ式前後のものとして大過なからう。口縁端部の形状（直口に近い外傾、小波状）が若干異なる点は、ムシリⅠ式よりやや新規になる可能性を示すものであろうか。本県においてもこの種条痕文土器群の存在は古くから知られていたが—盛岡市オミ坂⁽¹¹⁾・住田町蛇王洞一⁽¹²⁾、近年その類例が増加しつつある。県中央部においては矢巾町大渡野⁽¹³⁾、盛岡市下猿田⁽¹⁴⁾、県北部においては二戸市沢内B、同ラツオト⁽¹⁵⁾上里⁽¹⁶⁾、の各遺跡例が知られている。本調査においては該期の生活の具体的痕跡は検出されていない。したがって本遺跡（調査地）の周辺に該期の遺構が存在する可能性があろう。今後の各種調査の進展にまちたい。

残りの各種土器（蓋様のもの・把手付の浅鉢型的なものなど）にいては、類例も知らずその位置は不明である。出土状況・伴関係などからすると他群とあまり時間差をもたず、縄文時代中期の中におさまるものではあろう。

第Ⅹ群土器は大木9式に相当しよう。突起部と体部の渦文の連結状況、渦文がせり上がって突起部を形成する点、広範囲に及ぶヘラミガキ技法などは、大木9式のメルクマルとされるものに大略合致するといえよう。大木9式については別に検討するが、比較的古い部分をしめると思われる。

第ⅩⅢ群土器は大木8_a式に相当しよう。口頸部文様帯への燃糸（側面）圧痕文の併用は、大木7_a式にもっとも盛行し大木8_a式にまで引き継がれる。本群土器の屈曲度の強いキャリバー型をなす器形を考慮すれば、本群は大木8_a式とみなされるべきであらう。

第ⅩⅣ群土器は大木10式以降になると思われる。字義どおりの磨消縄文による帯状の曲線文の描出技法や、平縁化した比較的単純な器形、所謂ヘラ状突起などの特徴は大木10式のそれに合致するものであろう。大木10式も細分可能であるが、比較的後半のものであろう。

以上で比較的少量で、例外的存在であった土器群を終了し、以下には主体的な構成要素と思われるものについて記す。順をおい記す。

第Ⅰ群土器 地文しかもないⅠa～Ⅰd類は、他遺跡における伴例からすると、大木8b式、大木9式などに相当する可能性がある。この種の単純な器形と文様を有する所謂粗製土器は各期を通して存在したが、伴遺物の後述のような編年観を考慮し、上記の段階と考えた。Ⅰe類には、渦文というモチーフの共通性から、上記と同様の年代観を与えておく⁽¹⁷⁻⁶⁾。

第Ⅱ群土器 Ⅱa・Ⅱb類ともに大木8b式、大木9式などに相当すると思われる。Ⅰ・Ⅱ群はセットとして存在するものらしい⁽¹⁷⁻⁶⁾。

第Ⅲ群土器 Ⅲa～Ⅲc類は一括して扱われてよいものと考えられる。遺構における伴例などからそれはいいう。この種にいては大木8b式とされることが多い^(17-2・4)。た

だし大木9式とされる場合もある(註7-3)。台を有する土器Ⅲd類についても大木8b式・同9式の両様の編年観が与えられている。透し乃至切り込み風のものが入った台については、大木9式に類例が多いと思われる。(註8)。

第Ⅳ群土器 古くから大木8b式の組成の一つとみなされてきている(註7-2・4)。

第Ⅴ群土器 本群は棘を伴う渦文という施文モチーフを重視すれば、大木8b式に相当しよう。同時に卵円形に近い体形と三個と思われる緩波状口縁という器形上の特徴を重視すると大木9式とも考えうる。

第Ⅵ群土器 これには大木8b式(註6)、大木9式、大木8b式あるいは大木9式のいずれか、xグループの土器(大木8b式・大木9式と異なりながら両者と共通した要素を併せもつもの)(註8)、などの種々の編年観が与えられている。口縁端部の渦文・凹線などはⅣ群(大木8b式)のそれに共通する点があるが、器形などは大木9式点な色彩が濃厚になっているといえる。

第Ⅶ群土器 Ⅶb類の口頸部文様帯の隆・沈線が直線的な感じのものは大木8b式といわれる。しかし口頸部文様帯地文への刺突文の併用は、若干新しい要素とみなされるべきかもしれない。また体部文様帯の渦文モチーフがⅥ群土器に共通するものがある点は重視されるべきであろう。Ⅶa類も大略同様の編年観が与えられるであろう。文様帯が二つに分離している点は、大木8b式までの特徴とされるが(註7-2・4)、上述の刺突文の併用、既述の内傾し端部が外反気味に立ち上がる口縁部形状、口頸部文様帯の上限隆帯の一部に孔を伴う例のあることなどは、大木9式に近い特徴とされる。

第Ⅷ群土器 注口土器とみなして大過ないと思われるが、注口土器の出現は大木8b式とも大木9式ともいわれる。本群土器の口頸部文様帯に見られる。端部のみがまいた簡単な渦文は、Ⅳ群の口縁端部におけるそれに類似するものである。しかし大木8b式の注口土器が、深鉢型土器に注口部を付したものであるのに対し、9式のそれは土瓶型といわれ、本群は後者に似る(註)。

第Ⅸ群土器 第Ⅶ群土器に類似したものと考えられる。

第Ⅹ群土器 類例を知らず不明である。他の土器群との同伴関係や体部文様のモチーフからすると、他と同様に、大木8b式あるいは9式頃に相当する可能性があろう。

第Ⅺ群土器 これも不明であるが、Ⅹ群と同様とみなしておく。なお本群が他の土器群(たとえばⅤ・Ⅶ群など)の破片である可能性もなくはない。

大略以上である。第Ⅰ群～第Ⅺ群までの土器は、従来の編年観に立つと、より大木8b式的なもの、9式的なもの、両者に共通するもの、からなることとなる。この三者が時間的な先後関係には必ずしもないことは、遺構・遺物包含層における同伴関係から、ある程度明らかであ

ろう。大木8b式・大木9式に関する研究は東北南半を中心に進められてきた(註7)。

大木8b式についてはその土器組成の内容を明確に示すような良好な資料に恵まれなかったらみがある。したがって、比定にあたって援用した「諸特徴」は、全容把握によったものといひ難く、その点論理一貫性を欠くおそれがある。再述するが、とりわけその器種組成が不明であった点は最大の弱点である。大木9式については宮城県上深沢において良好な資料が得られ、その器種組成・形態・施文原理などが明らかにされた(註8)。9式については、上深沢以前において、細分の仮説がいくつか提示されてきた(註9)。いまそれらと比較すると、ここで問題としている組みあわせの土器群は、より大木9式的とはいひ難いものである。それは細分仮説の大木9a式に比較しても相違点が多々ある。上深沢の器種組成・施文原理、9a式なるものの原理とも大きく異なる。それは明白な磨消縄文手法の欠如(本土器群におけるミガキは、体部外面においては口縁部、隆・沈線部にのみ限定されること)、体部文様に楕円形(あるいはその祖形的なもの)は見られないこと、などに端的にあらわれている。逆に類似点乃至は同系列なることを想定せしめる個別の要素もある。たとえばブリッジ状の突起、切り込み乃至透しを有する台、2～3個の緩波状口縁とそれに伴う沈線文手法、キャリバー型の口縁の内傾状況、粗製の深鉢乃至甕型、キャリバー型の口頸部文様帯への刺突文の併用などの諸点は、両者の間のある程度以上の関係を物語るものであろう。大木8b式の組成内容が必ずしも十分に明らかでない現状においては、大木9式的でないことを以て、直ちに大木8b式を結論づけることはできない。従来大木8b式といわれてきたものに極似する点をとれば大木8b式といいうるかとも思われるが、組成内容などを明らかにした上で結論づけるべきであらう。その場合既述の、大木9式に共通する要素が存在する点は重視されてよい。

註1 吉田義昭氏の指示による。

2 芹沢・林、若手・蛇王洞調査 石器時代 7

3 大滝野道雄 若手集文化財調査報告書第32集 東北縦貫自動車道関係縄文文化財調査報告書一―若手集教育委員会・日本道路公団 昭和54年3月

4 (財)若手集縄文文化財センター調査 工藤利幸氏の指示による。

5 若手集縄文センター文化財調査報告書第7集 二戸市沢内B遺跡(昭和53年度) (財)若手集縄文文化財センター 昭和54年3月

6 (財)若手集縄文文化財センター調査 高橋与右衛門氏の指示による。

7-1)林 謙作 三中期 2東北 縄文文化の発展と地域性 縄文時代 日本考古学II 河北書房新社 昭和40年

(2)伊東信雄 第三節 縄文式文化の家産 第一章縄文式文化時代 古代史 宮城史1 (財)宮城県史刊行会 昭和32年

(3)西村正衛 大木式土器文化 東北・関東、縄文中期文化 新拓考古学講座 3先史文化―無土器・縄文文化―雄山閣 昭和44年

(4)小岩末治 第三節 中期縄文式文化と住居跡、第二章新石器時代文化の諸相、若手集史第1巻 上古篇・上代篇 若手集 昭和36年

(5)丹羽 茂 東北地方南部における中期縄文時代中・後葉土器群研究の現段階―特にその年代的編成に関して―「考島考古」第12号 福島県考古学会

(6)吉田義昭 懐格と思われる縄文文化中期の土器群 石器時代 第3号

8 上深沢遺跡 宮城県文化財調査報告書第52集 東北自動車道遺跡調査報告書1

宮城県教育委員会 日本道路公団 昭和53年3月

9 林 謙作 第四章 第一地点縄文時代集落の調査 芹沢氏企画栃木市星野遺跡―第1次発掘調査報告― 昭和41年11月栃木市教委 1966

つぎに床面他出土資料と埋土出土のそれを比較しておく。当然ながら床面出土例よりもその種類が多い特徴をもつ。しかしその内容に大きな差異、とりわけ両者の間の大きな時間差を示す事例は見あたらないといえる。したがって両者の間にあまり大きな時間的な隔りはないものと考えておく。

以上のことから本遺跡出土の土器のうち、その他の土器の早期土器・X群・XIII群・XIV群土器以外のものは、組みあわせ(セット)として併存するものとしておく。

◎ 土器に関するその他の観察事項

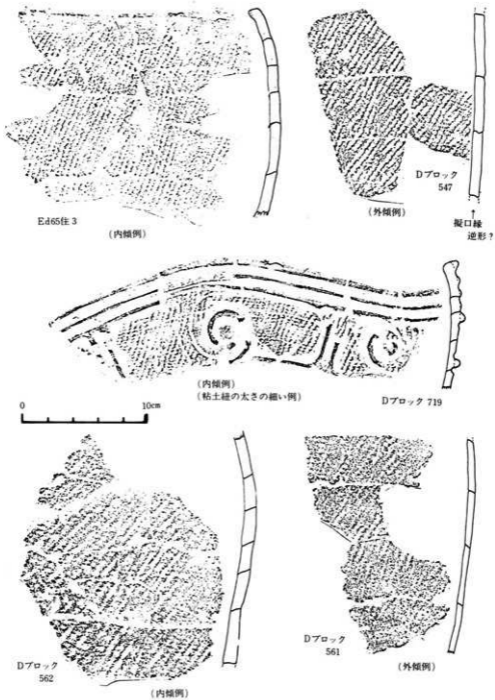
(4) 成形について、所謂「紐づくり」の痕跡と思われるものを器面に有する資料がある(第153・154図)。ある程度の中をもち、帯状に近いものと、細く紐に近いものがある。前者は比較的大型の器種に見られ、後者は小型のものに見られる。巾は6cm～1cmの変異があるが、大型のものは3・4・5cmなどのものが多く、稀に(薄手のもの)2cmのものもある。注口土器等の小型品は1～1.5cmと極めて細くなる。いずれの場合にも接合部と思われる部分(現状では割れ目断面、剥落部の形をとる)はほとんどの場合傾斜したものとなっている。傾斜は、内面側が高く、外面側が低く(外面側へ傾斜する)なるものと逆のもの二種あるが、前者の方が量的に多いらしい。稀ではあるが、内外面側が低くなり、胎土中央部が高く盛り上がり、あたかも口縁部様の形状とそのネガティブな形状を示すものもある。これは所謂「擬口縁・擬口縁逆形」に該当するものであろう。以上のものを成形技法関連資料として提示しておく。

体部と底部の接合方法には大別二種のものがある(第156図)。一つは円盤状の粘土板の周縁部を若干凹め、そこに体部下端を接合し、粘土を補強するものである。円盤径と体下端部径がほぼ同一となる。他は、体下端径より一回り小型の円盤を、体下端部に嵌め込むものである。確認例では前者が多く、後者は稀である。なお接合後の底部外面全面に、化粧粘土風の処理(粘土膜の形成)を施した例も稀にある。

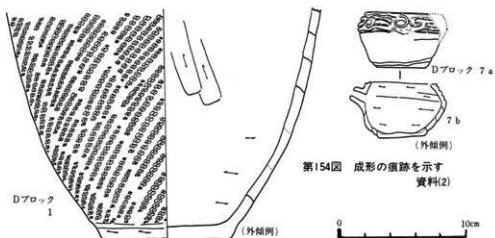
(5) 地文について、地文として用いられているものは縄文、捻糸文(回転押捺)があり、稀に条痕文類似文もある。最後者は意図的施文とみなしうるかどうかが疑問がある。縄文がもっとも多いが、捻糸文もかなりの比率で存在する。それはI・II群などの所謂粗製土器(装飾文をもたない土器群)の他に、III～VII群などの所謂精製土器(装飾文を有する土器群)のいずれにも用いられる。縄文は単純な斜縄文のみである。

(6) 縄文他の原体について、縄文・捻糸文の原体は左捻りに加え右捻りのものも存在し、その比率がかなり高いと思われる。縄文について見ると、左捻り・単節のものよりは、右捻り・複説のもの存在が顕著である。拓影図・実測図で示した資料に見られた傾向であるが、おそらくは全資料に共通する傾向と考えて大過なからう。

(7) 原体回転方向について、体部においては上下方向が優越する。キャリバー型で体部と口



第153図 成形の痕跡を示す資料(1)



頭部文様帯をもつものにあつては、体部は上下方向、口頭部文様帯においては横方向（口縁部に平行）をとるのが常態である。この場合でも同一原体を両者に用いるのが一般的である。回転方向は比較的一定の規則性下にあつたと思われ、あまり乱雑な印象は与えない。

④ 加飾の方法について（第155図）、装飾は地文施文後に行なわれる。装飾方法は既にふれたように粘土紐貼付による隆帯とそれに沿ったミガキ乃至ナデ（隆・沈線）と、沈線文の二種からなるが、いずれも地文施文後に施文される。隆帯の貼付は、貼付面の地文の消去などの手を加えず、直接地文上に行なっている。結果的に隆帯は剥落しやすいものとなる。実測図・拓影図上に繁雑なまでにそれを示した。なお稀にはあるが、貼付面に爪形文風の連続刺突を施こし、貼付を確実にしたらしい例もある。Ⅲ群土器の隆帯より上位の口縁部はミガキにより無文帯とされるが、ミガキにより地文を直接消去するものと、化粧粘土風の粘土の薄い膜をつくり、そこにミガキを加えるものがある。いずれにしても地文は口縁端部にまで及ぶ。

ブリッジ状の突起を有するⅦ群土器などの装飾も基本的には同一である。口頭部文様帯への地文（刺突文など）施文後、粘土紐により渦文などの突起部をつくり出す。

文様帯中においては、隆・沈線のみミガキが伴う。隆帯表面、隆帯間の凹部、（それと重複するが）隆帯の両側部分にミガキが施こされ、隆帯を離れてのミガキ技法は存在しない。

沈線文においては、沈線自体がミガキ技法を同一視しうが、沈線の凹部のみに限定され、凹部間の部分をミガクことは原則的ではない。

以上のことから、所謂磨消し繩文の原理の萌芽が見られることは事実であるが、大木9式などにおいてみられるが如き、広い範囲にわたる磨消しの技法と同一なものとは考えられない。Ⅳ群・Ⅶ群にも見られた無文帯は、文様帯を構成する部分とは考えられないので、上述の広い範囲にわたる磨消しの技法とは別個のものとした。

地文の燃糸文残存



Dブロック 174

地文の縄文残存



Eブロック 744



Dブロック 204
貼付粘土剥落部
(地文の縄文残存)



Eブロック 647
隆帯剥落部に地文の刺突文残存



粘土剥落部に地文残存

Dブロック 717



Dブロック 572
隆帯剥落部に地文の
燃糸文残存



貼付隆帯剥落

Eブロック 736

ここに示した精製土器のうち
174は沈線文的、その他
は隆・沈線文的な装飾技法
によっている。



第155図 裝飾方法を示す例

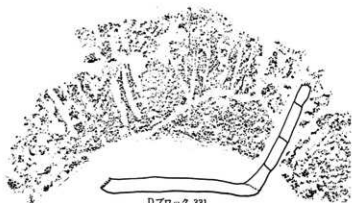


Cブロック 109



Cブロック 108

円盤状粘土板貼付例



Dブロック 331



Dブロック 213



Cブロック 79



Dブロック 388
↑ 接合部剥落例



Dブロック 282



Dブロック 621
↑ 化粧粘土?



Dブロック 275



Eブロック 660
↑ 化粧粘土?



第156図 底部成形例

ゆ) 施文モチーフ・施文原理について、得られた若干量の資料を用いて、標記の概略にふれた。I群e類、III～VIII群の各類を対象とする。施文モチーフはその構成要素にまで分解する必要があるのは明白であるが、ここではかなり包括的・概括的・漠然とした表現に留まらざるを得ない。

現時点において確実と思われる事項・要素には以下のようなものがあり、その名称を用いて記述する。一部再述の部分もある(第157～160図)。

(i) 装飾の表現法 (i) 沈線文のみ。(ii) 粘土紐貼付による隆帯と、それに沿うナデ乃至ミガキによるもの(隆・沈線文)。この場合には隆帯の表面にもミガキが加えられる。

(iii) (i)においては、沈線1で表現される場合もあるが、より一般的には、併行沈線2～3本の複数線によって表現される。(ii)においては、(i)と同様に、部分的に1本で表現される場合も稀にあるが、圧倒的多数の場合は2本の併行隆帯により表現される。この複数線により描出という両者の共通点は、両者が表裏の関係にあることの反映であろう。即ち、(ii)の特徴とした隆・沈線技法においては、1隆帯に2沈線(ミガキ乃至ナデ)がセットになる関係にあるからである。(ii)の隆帯2と沈線3のセットから、隆帯2を除去すると、沈線3が残る。(i)に2～3本の併行沈線技法が優越するのは以上の理由によると思われる。なお別に述べたとおり、(i)・(ii)は共存する技法であり、時間的に先後関係におきかえることは必ずしも必要でない。

iii 文様の構成要素には次のようなものがある。体部文様中心にみる。

(ア) 渦文(渦巻文) A. 雄大で、かつ施回の回数も多く、字義どりの渦文に近いもの(渦文A)。器面に描出される主要モチーフと思われ、描かれる回数は2回程度が多い。これは後述のとおり、器面の二分割(大別)の反映であろう。渦巻きの回転方向には左・右の両者がある。同一個体表現においてその両者が併存するか否かは未詳である。

a Aに比較し、小型・簡略なもので、甕の頭部状のものである。Aに連結させたり、体部上限隆帯に連結させたりした形で用いられる。したがって、Aに比較し、その使用頻度が高い(渦文a)。回転方向、上下方向などは、同一個体においても正反の変異が多い。

他に渦文aの省略形的な円形文も存在する。

(イ) 棘文 隆・沈線2本、沈線2本の合流部分を強調することにより表現するものと、1本の隆・沈線で長めに表現するものの二者がある。渦文A・aの両者に連結するものが常態である。

(ウ) 縦線文 上下方向にのびるもので、各種ある。2～3本の複数で用いられるものがほとんどである。ただし相互の間隔には広狭の別があり、狭い場合には併行線文的、広い場合には(その他の要素の横位展開部と連結し)楕円形文・不整形文文的なものになる。先に省略形とした円形文の一部もこれに該当するかもしれない。用いられ方に数類型ある。

(a) 縦線文として単独に用いられる。文様帯上限隆帯から直ちに始まり、体下端部近くにまで下がる(縦線文a)。沈線文、隆・沈線文の両者で表現される。器面を分割する印象を強く与える。

(b) 渦文A、渦文aなどに連結し、主に体下半部に見られるもの(縦線文b)。器形によってはaに近いほどの長さをもつものもある。これも両者がある。

(c) 渦文aに一致し、その下半部(獣の基部的)を構成するもの。同様に両者がある。

いずれにしても(ウ)の縦線文は、結果的にも器面を縦方向に分割する機能を果たしているといえよう。縦線文aは大分割(2分割)、その他は細分割的である。ただし、長大な縦線文b、縦位の点対線の位置におかれた縦線文C乃至渦文aの直線部分もまた大分割的な機能を果たす場合もある。これら縦線文で囲まれた部分が楕円形に近い形状を呈す場合もある(この部分については、既述のような、セットをなす線間の間隔が広がったという解釈が妥当なものであろう)。これが後続する時代の特徴的文様へと発展していくとも考えられる。

(ウ) 刺突文 基本的には体部文様帯上限の区画として用いられ、1本が多いが、稀に2～3本の複数列のものもある。当然横位に展開するものが圧倒的多数を占めるが、極めて稀に縦線文に付随して用いられる場合もある。隆・沈線の沈線部分の凹部に施こされるのが原則である。

極めて粗雑であるが、大略以上を念頭におき、各群を見ておく。

iv) I群e類 口縁部破片を数点得たのみであり詳細は不明である。得られた資料は、口縁部から直ちに施文(沈線文的)され、渦文A、渦文a、縦線文bなどの一部ととれるものが見られる。

(v) III群b類 器形④などは比較的単純な加飾をうけ、縦線文a、渦文a+縦線文b+棘文の2種の組み合わせ程度である。⑦・⑧の大器、中型のものはより複雑で、渦文A、渦文a、棘文、縦線文a～cなど、すべての要素が用いられる。渦文Aが2個所に認められるものがあることからすれば、器面二分割の意図があったと思われる。ただし、⑦としたものの2例はともに体下半部のみの残存例であり、上半は不明である。したがってこの両者が本類に入るか否かは厳密には不明であるが、一応ここに入れた。別に分類すべきとすれば、VII群になる可能性がもっとも高い。

iv) III群C類 概略はb類に共通する。ただし⑨などの小型品にも渦文Aが用いられるなど比較的複雑・入念なものが多い。また文様帯上限への刺突文の併用も目立つ。

iv) III群D類 文様帯残存例は1のみであるが、それは刺突文列(隆帯)縦線文a、渦文a⊕縦線文bの3種の組み合わせからなる極めて単純なものである。したがって詳細未詳といわざるをえない。

㉒ IV群 上限に刺突文列をもつものが多い点が前者に似る。その他も共通点が多く省略する。

㉓ V群 これも棘文・渦文A・渦文a、縦沈線a・同b・cと各要素がそろって、縦沈線の長さが極めて長い点が特徴である。上下方向に展開している印象をもっとも強く与える種類である。

㉔ VI群 同様であり省略する。(9)・(10)の体部破片は区別が困難であり、混同しているおそれがある。

(x i) VII群 これも同様であり、体部については省略する。口頸部について若干ふれておく。平縁のものには隆帯での渦文(a的なもの)、楕円形文、円形文がつくり出され、地文は縄文が主で、時に刺突文も加わる。突起あるものの地文は刺突文が主である。

(x ii) VIII群 1例のみだが、口頸部に渦文aを横位に配したのみである。渦文aを点対称の位置に連続させたものとも、渦文⊕縦線文(但しこの場合は横位)の組みあわせを横位に連続させたものと見える。

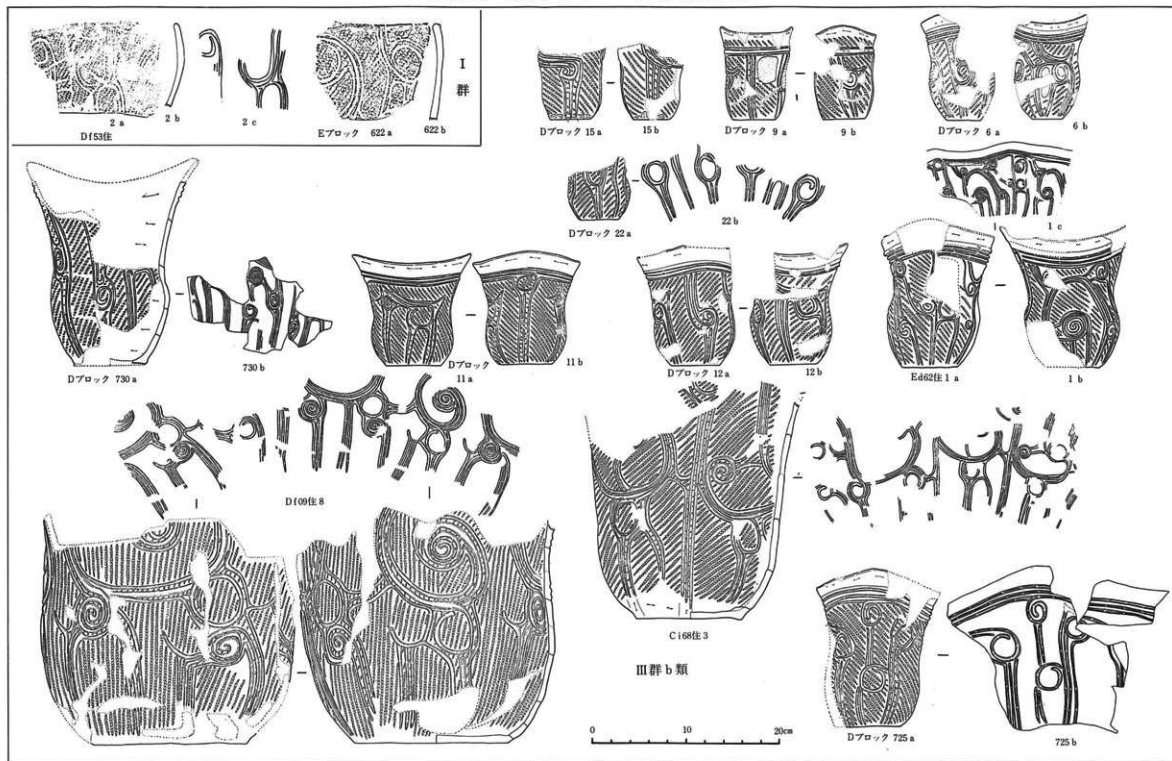
大略以上ようになる。これからすると各群土器とも共通する施文モチーフを有するとみなされてもよいものと思われる。その中で若干個性をもつと思われるものはV群土器のみであろう。

渦文Aを一特徴とするこれらの土器群は、文様論上からも非常に近い類縁関係にあるとあってよく、同伴関係と何ら矛盾するものではない。少なくとも体部文様に関しては、器形の異同に対応した施文の顕著な異同は見られないということになろう。口頸部のそれについては若干の対応関係を想定できることは既にふれた。注口土器の口頸部文様帯をも含めて、器種の異同は口頸部文様帯の異同に反映しているとも考えられる。

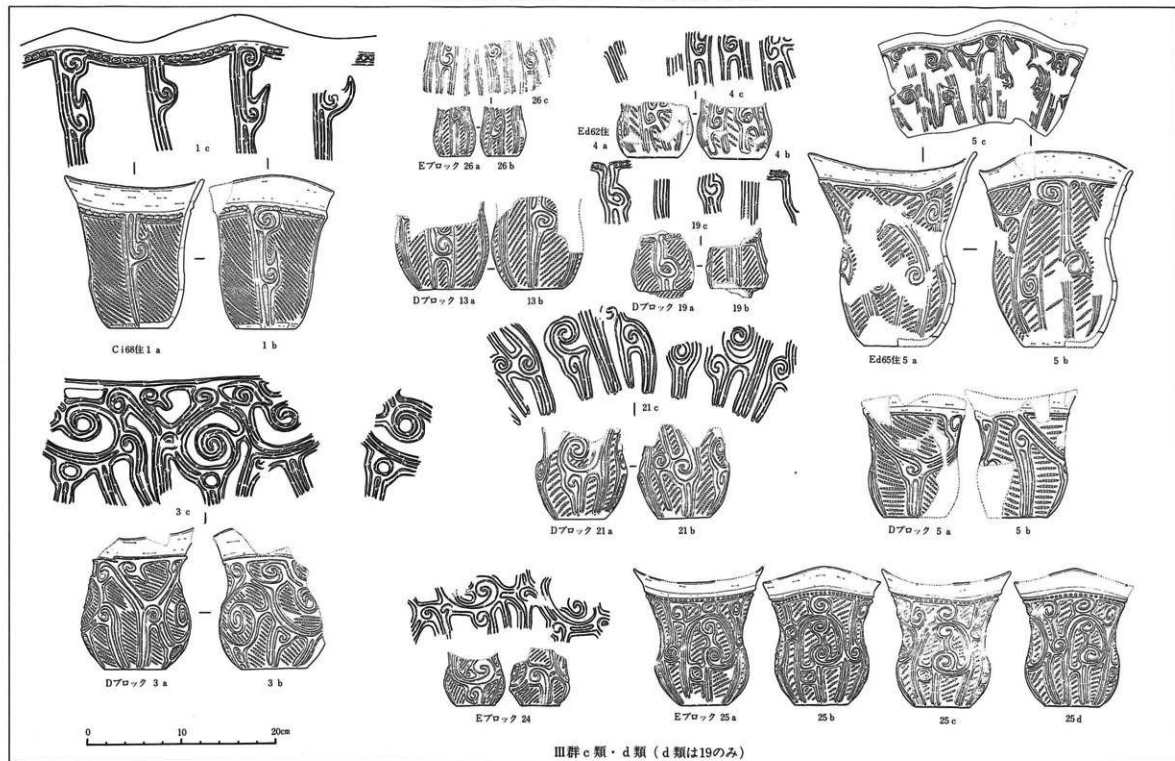
(4) 器面分割について、既にふれたように、器面分割の機能を果たすとも思われる文様要素、渦文Aなどの2回くり返しなどが存在する。さらに二個の緩波状口縁を有する器形の盛行などの事実をも勘案すると、器面分割の意図が存在し、それは大別二分割が基本であったと考えられる。大別された二つの「画面」に特徴的モチーフが描出される。

最低4要素が用いられることになる。突起部あるいは波状(盛り上がり)部を主要なモチーフ(同一個体に見られる諸モチーフのうち、より複雑なもの、程度の意。たとえば渦文A、棘文・縦沈線を伴う渦文aなど)の位置の一致はある程度以上の頻度で、その対応関係が認められる。波状口縁の凹部・低部にはより簡単な(たとえば縦沈線aなど)ものがくることが多い。ただしVII群の注口土器においては、注口部(正面?)と後正面には簡略なモチーフが描かれ、左右の両サイドに雄大な渦文A他が描かれる。ここでは先に述べたように、突起・口縁の部位と体部文様施文部位にはある程度の対応関係がある、とするに留めておく。

第157図 施文モチーフ集成図 (I)



第158図 施文モチーフ集成図(2)



Ⅲ群 c 類・d 類 (d 類は19のみ)